

岩手県立釜石祥雲支援学校

<研究テーマ>

「主体的・対話的で深い学び」を実現する教材を視点とした授業づくり

2年次研究（令和5年度～令和6年度）のまとめ



校歌 小林覚（平成18年度卒業生）

目次

I	研究主題	2
II	研究の目的と内容	2
	1 研究の目的	
	2 研究の内容（方法）	
	3 研究の目標	
III	推進の概要	4
	1 1年次（令和5年度） ～現状の確認と課題～	
	2 2年次（令和6年度） ～課題の改善と実践での活用～	
IV	研究の構想図	5
V	研究体制	6
	1 研究の基本的な進め方	
	2 研究体制図	
VI	推進計画	7
	1 1年次目（令和5年度の推進）	
	2 2年次目（令和6年度の推進）	
VII	研究実践	8
	1 チェックシートの活用と授業の改善	8
	（1） 授業のチェックシートの作成と活用	
	（2） 成果と課題	
	（3） まとめ	
	2 研修会の実施	11
	（1） 令和5年度全校研修会	
	（2） 令和6年度全校研修会	
	（3） 教材研修会	
	3 各グループの研究実践	24
	（1） グループ構成と各グループにおける取り組みの内容について	
	（2） 小学部グループ	25
	（3） 中学部グループ	38
	（4） 高等部グループ	48
	（5） 自立活動グループ	55
	（6） まとめ	
	4 教材の開発、整備	69
	（1） 授業計画シート	
	（2） 教材データベース	
	（3） まとめ	
	5 情報の共有	75
	（1） 教材リンク集	
	（2） 通信の発行	
	（3） 授業見学期間	
	（4） まとめ	
	6 全校授業研究会	81
	（1） 実施概要	
	（2） 小学部グループ	
	（3） 自立活動グループ	
	（4） 中学部グループ	
	（5） 高等部グループ	
	（6） まとめ	
VIII	研究のまとめ	118
	1 研究をふりかえって	
	2 研究の成果と課題	
	3 おわりに	

I 研究主題

「主体的・対話的で深い学び」を実現する教材を視点とした授業づくり

学習指導要領が改訂され、2020年から2022年にかけて順次本格実施となった。現行の学習指導要領で掲げられている三つの柱は①実際の社会や生活で生きて働く「知識及び技能」②未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力など」③学んだことを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力、人間性など」である。

本校でもH29～30年度には「児童生徒一人一人の『主体的な学び』をいかに実現するか」というテーマでPDCAサイクルに基づいた授業づくりについて、R1～R2には「『主体的・対話的で深い学び』の視点に立った授業改善」についてテーマにし、本校としての考え方や方向性、可能性を探りながら授業改善について研究を重ねてきた。

そして、本格学習指導要領の本格実施となったR3～4に行った前研究では「『主体的・対話的で深い学び』による生活に活用できる力の育成」ということで教科横断的な視点にたち、生活単元学習や作業学習などの合わせた指導について注目し、教科との関連を明らかにして内容の整理を行った。また、合わせた指導と教科の関連や学習指導要領の内容のまとまりについて明記できるように学習指導案の様式や年間指導計画の様式を変更した。さらに、カリキュラム・マネジメントとして、年間の学習計画を教科の関連と時系列で視覚的に確認できるように題材配列表の様式も作成した。

令和5年度からは二カ年計画で、これまでの研究の積み重ねを基に「何を学ぶか」から「どのように学ぶか」を重視した授業改善について教材の活用を一つの視点として取り組んできた。

II 研究の目的と内容

1 研究の目的

- 「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善を推進する。
- 教材・教具の整理・整備を行い、授業の効率化を図る。
- グループ研究や、全校研究会、授業見学期間などの機会に情報交換を行いながら、授業の教材研究を推進し、教員の資質向上を図る。

2 研究の内容（方法）

- (1) 「主体的・対話的で深い学び」の授業のさらなる充実と改善
(チェックシートの活用→授業のPDCAサイクルの確立へ)
- (2) 授業についての研修会や検討会を行い、授業への共通理解を図る。
(全校研修会、各グループ研究会)
- (3) 校内の教材・教具の整理と整備を行い、授業の効率化を図る。
(教材・教具のデータベースの作成、研究日)
- (4) 授業づくりや教材についての情報共有
(教材リンク集の共有)
- (5) 学部間やグループ間の情報や課題について共有し、全校での共通理解を図る。
(通信の発行、分教室授業見学期間)
- (6) 教材を視点とした授業研究会
(指導法の充実、改善)

3 研究の目標

- (1) 「主体的・対話的で深い学び」を実現できる授業づくりと適切な教材の検討を行う。
- (2) 「主体的・対話的で深い学び」を推進するためにチェックシート等の実施により、授業づくりの視点を統一し、意識の改善を図る。
- (3) 校内資源の教材データベース化を図り、効率のよい教材づくりと活用を推進する。
- (4) 授業作りや教材研究の情報共有を行い、全校で授業改善に取り組む。(全校授業研、授業見学期間、教材リンク集、通信の発行)

Ⅲ 推進の概要（2年研究）

1 1年次（令和5年度） ～現状の確認と課題～

- (1) チェックシートの改善と活用
- (2) 全校研修会・各グループ研究会（研究日）
 - ① 全校研修会
 - ② 各グループ研究会
- (3) 校内資源のデータベース化
- (4) 教材リンク集の作成
- (5) 授業見学期間
- (6) 全校授業研究会

2 2年次目（令和6年度） ～課題の改善と実践での活用～

(1) チェックシートの活用と授業の改善

→昨年度の「授業づくりの観点チェックシート」と「授業参観シート」を合わせ、「授業チェックシート」とし、授業づくりで大切にしたいポイント、及び参観時に観点としたい点について項目を設け、授業改善に生かしていく。

(2) 研修会の実施・各グループ研究会（研究日）

①全校研修会

→合わせた指導の目標設定や評価について研修を行い、共通理解を図る。

②各グループ研究会

→・グループ内で授業実践を行い、児童生徒の実態や教材など授業にかかわることについての検討を行う。

・教材計画シートを用いて、教材の考案や改善など授業での活用についての検討を行う。

(3) 教材の開発、整備

→昨年度作成した教材データベースの拡充を図りつつ、授業で活用をしていく。

(4) 情報の共有

①教材リンク集

→昨年度まとめたリンク集をさらに充実させながら、授業準備の効率化を図るために活用していく。

②通信の発行

→今年度の研究の推進状況や教材の紹介、各学部の授業についてまとめた通信を発行して、全校の情報共有を図る。

③授業見学期間

→授業参観に行くことのできない分教室の授業を動画で配信し、授業の様子や生徒の実態について共有する。

(5) 全校授業研究会の実施

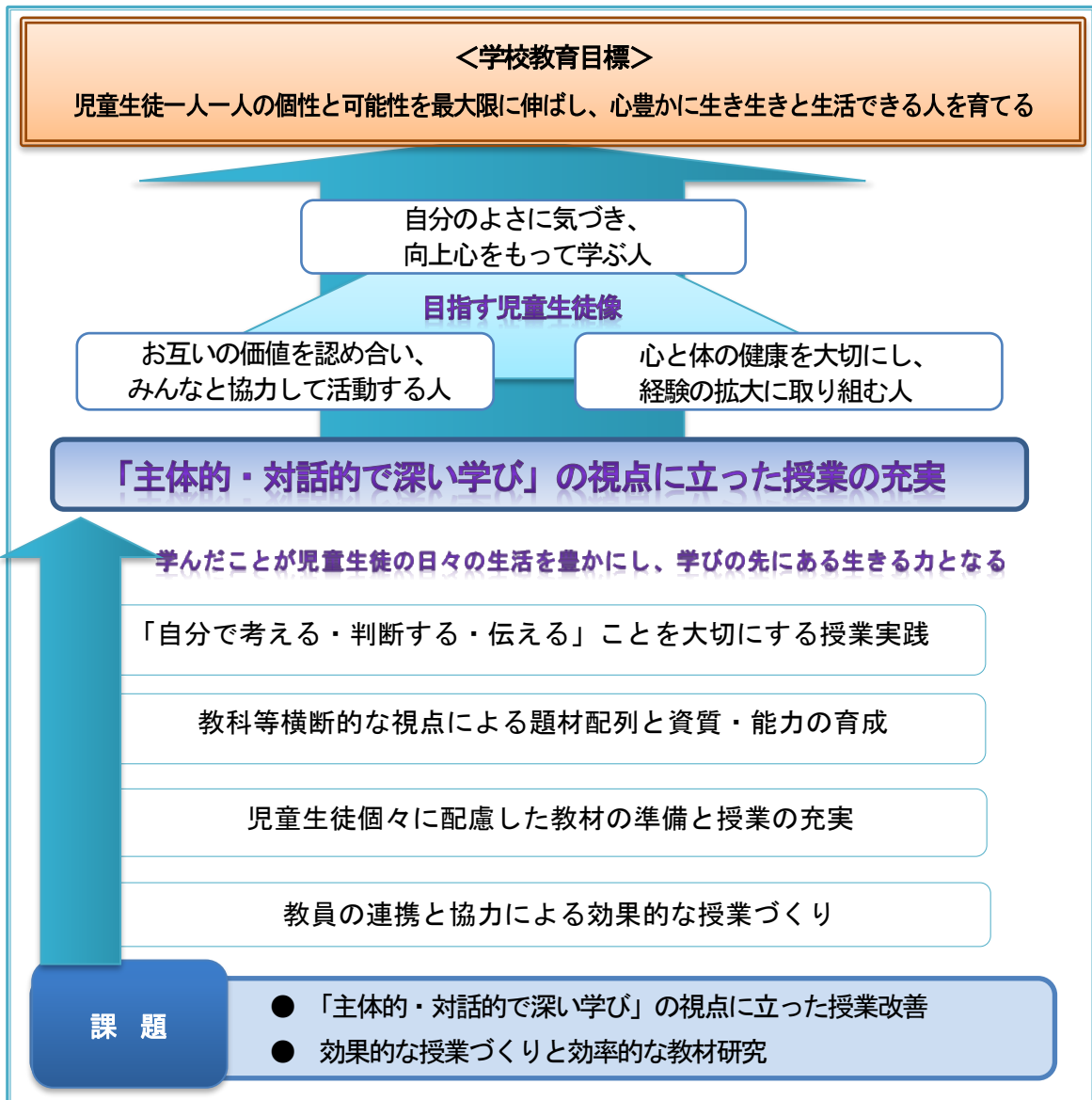
→教材を一つの視点として全校で授業についての意見交換を行う。

今年度は中学部Gと高等部Gについての授業研究会を行う。「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業について、様々な意見を出し合いながら検討を行い、それぞれの授業実践に生きる研究会にしたい。

(6) まとめ

IV 研究の構想図 【図1】

下図は本研究の構想図である。これまでの研究の積み重ねをもとに今回の研究で取り組む主な内容（手だて）によって、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業の充実を図る。研究を推進していくことによって、本校の目指す児童生徒像に近づけ学校教育目標の達成を目指したい。



V 研究体制

1 研究の基本的な進め方

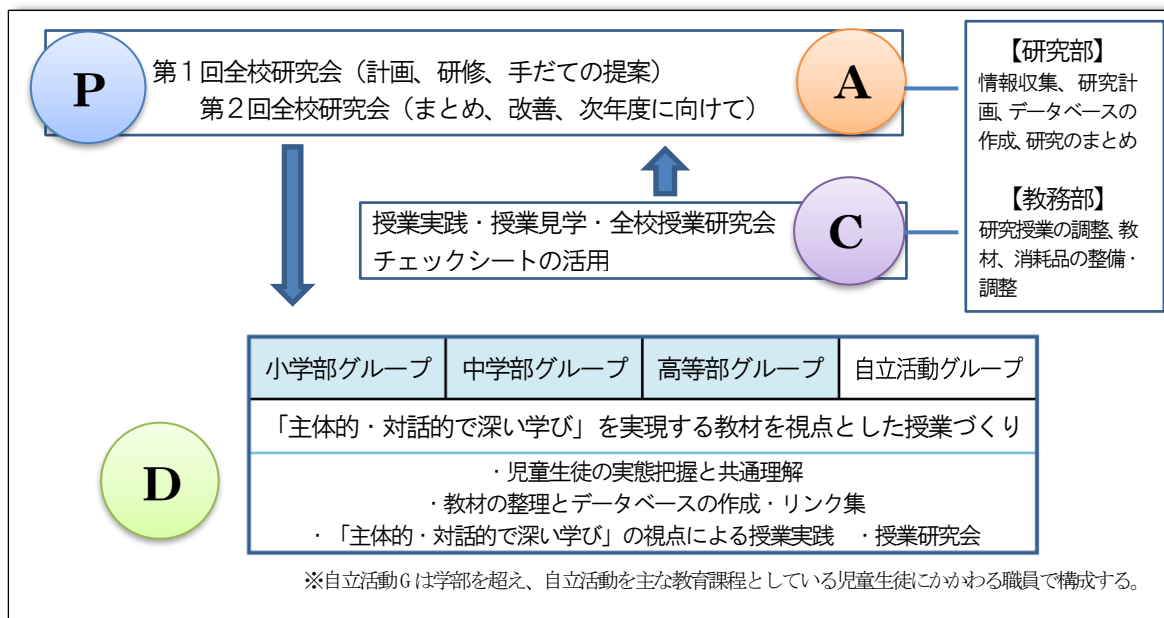
令和5年度から令和6年度の二年次計画の2年目である。

今回の研究も学部別に研究テーマを分けることなく同一のテーマで進めている。これは、全校が一つになって現在の課題に取り組み、学部間のつながりや系統性を確認しながら進める必要があるためである。

また、職員間で意見交換や情報共有を行い、お互いに資質を高めあってよりよい授業づくりを行うためグループ内や全校での授業研究会や教材検討会、指導案検討会などを活発に行いたい。また、授業準備の効率化を図るために校内資源のデータベースの作成やリンク集の作成を全校の協力のもとに行っていきたい。

2 研究体制図（全体） 【図2】

下の図は研究体制を図に表したものである。研究のPDCAサイクルが構築できるよう、学部等と連携を密にして進めていきたい。



VI 推進計画

1 1年次目（令和5年度）の主な内容

月	主な取り組み	内 容
5	研究日 第1回全校研究会・全校研修会	研究テーマ、テーマ設定の理由等の検討、推進計画 研究主題、進め方、授業づくりに関しての研修会
6	授業見学期間（高） 研究日 ワークショップ（中学部）	チェックシートの活用 児童生徒の実態情報交換、授業チェックシート、年間指導計画 「であい授業」 るんびにい美術館小林さん・アートディレクター板垣さん
7	研究日	学部・教科ごとの教材整理
8	高教研講演会 研究日	演題：異彩を、放て。講師：ヘラルボニー副代表 松田文登氏 学部・教科ごとの教材整理
9	研究日 授業見学期間（小・分） グループ内授業研究会	授業作りシートの活用、指導案の検討、教材開発など チェックシートの活用 適宜
10	研究日 授業見学期間（中・分） グループ内授業研究会	授業作りシートの活用、指導案検討、教材開発など チェックシートの活用 適宜
11	研究日 グループ内授業研究会	授業作りシートの活用、指導案検討、教材開発など 適宜
12	全校授業研	小学部グループ、自立活動グループ
1	研究日	各学部としての1年次目のまとめ、成果と課題
2	第2回全校研究会	1年次まとめ
3		教材データベースの整理

2 2年次目（令和6年度）の実施内容

月	主な取り組み	内 容
5	研究日(16) 第1回全校研究会・全校研修会(29)	R5までの研究の成果、R6推進計画 合わせた指導の目標設定と評価 講師：中館副校長
6	研究日(19)	チェックシートの活用 児童生徒の実態情報交換、授業チェックシート
7	研究日(24) 授業見学期間(7/1~7/31)	授業作りシートの活用、授業検討会、指導案検討、教材整理等 分教室授業見学(動画) チェックシートの活用
8	高教研講演会(1) 研究日(21) 教材研修会(29)	演題：未定 講師：ドロップレット・プロジェクト代表 青木高光氏 教材整理・指導案検討 くもん出版編集部の方々との情報交換会
9	研究日(19) G内授業研究会	授業作りシートの活用、指導案の検討、教材開発など 適宜
10	研究日(23) G内授業研究会	授業作りシートの活用、指導案検討、教材開発など 適宜
11	研究日(19) G内授業研究会	授業作りシートの活用、指導案検討、教材開発など 適宜
12	全校授業研(17) 研修報告会①(18)	中学部G、高等部G R6年度参加研修会の報告
1	研究のまとめ	グループ毎のまとめ
2	研究日(13) 第2回全校研究会(19) 研修報告会②(19)	各学部としてのまとめ、成果と課題 研究のまとめ R6年度参加研修会の報告
3	五葉の実践HP掲載	次年度研究について

Ⅶ 研究実践

1 チェックシートの活用と授業の改善

(1) 授業のチェックシートの作成と活用

R5年度は前年度まで、児童生徒の学びの姿をチェックするために活用していたシートを教師側のチェックシートとして活用した。

ア 「主体的・対話的で深い学び」を進めるためのチェックシート（教師側）

(ア) 作成の方法

主に授業者が自身の授業を振り返って、評価を行う。「主体的・対話的で深い学び」に必要な要素（項目）で構成されているため、何度も繰り返してチェックを行うことで、項目にある事項を観点に評価できるようになるようにしてある。

(イ) ねらい

- ・「主体的・対話的で深い学び」の姿が児童生徒に見られているかを観察によって評価できるようにする。
- ・自己の授業の「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業の振り返りとして活用する。

(ウ) チェックシート様式

環境 <主体的>	① 教室内で落ち着いていて、リラックスできている。
	② いつもと違うことが起きても、だいたい落ち着いて取り組むことができている。
	③ 教師を信頼している様子が見られる。
	④ 教師や教材、友だち、環境とのかかわりを楽しんでいる。
見通し (視点 1) <主体的>	① 授業に向かうかまえができている。
	② 今日、やることがわかっている。
	③ 今日、やることの自分のなりの目標がわかっている。
	④ 困ったときや次にどうすればよいかわかっている。
課題解決 (視点 2) <主体的・対話的>	① 課題に自分で取り組んでいる。
	② 自分で工夫して取り組んだり、あきらめなくて取り組んだりしている。
	③ 友だちの取り組みを見たり、話を聞いたりすることができている。
	④ 友だちの様子や資料を手がかりにして、自分のものにしようとしている。
振り返り (視点 3) <主体的・深い学び>	① 今日の学習について振り返る様子が見られる。
	② これからの学習に期待している様子が見られる。
	③ 題材の終わりに取り組んだ内容を話したり、成果をまとめたりすることができている。
	④ 他の時間に学んだ（学ぶ）ことと関連づけたり、思い出したりしている。

* () はいわでの授業づくり3つの視点との関連、 < > は「主体的・対話的で深い学び」との関連

(エ) まとめ

自己の授業の振り返りを行うことは大切であるが、チェックシートが煩雑になってきたことと、同じような要素が授業参観シートにも盛り込まれていることから令和6年度からは授業参観シートに統一することにした。

イ 授業参観シート（児童生徒の姿）

（ア）作成の方法

令和4年度まで使用していたチェックシートは、授業の起承転結が含まれており一部を参観しただけでは見取れず、チェックできない項目が多かったため実用的とは言えなかった。

そこで、令和5年度からは新たに教材に関する観点も取り入れ、より具体的な項目にしたチェックシートを作成し、活用した。

（イ）ねらい

- ・参観者が児童生徒の学びの姿を評価する基準とする。
- ・授業の参観者が授業者への感想や改善などのフィードバックのツールをする。
- ・授業者が自己の授業の振り返りに活用する。

（ウ）チェック項目と様式

授業参観シート			
参観日	月 日 ()	参観者所属	小学部・中学部・高等部・分教室
参観していた時間帯： 時 分頃 ～ 時 分頃			
学部・学年等		教科名等	
項目		いいね	おいしい
		※判断できない	
【主体的な学び】			
<input type="radio"/> 学習意欲を高める教材教具とその提示方法の工夫★			
<input type="radio"/> 学びやすさ、動きやすさを考慮した動線の工夫			
<input type="radio"/> 授業の流れや今日の目標の分かりやすい提示			
<input type="radio"/> 自己選択、自己決定場面の設定			
<input type="radio"/> 「気付き」を促す場の設定や手掛かりの用意			
<input type="radio"/> 評価方法の工夫（自己評価、相互評価、他者評価など）			
<input type="radio"/> 次時の学習意欲につながる効果的な振り返りの設定			
【対話的な学び】			
<input type="checkbox"/> 試行錯誤しながら活動に向き合える教材教具の工夫★			
<input type="checkbox"/> 児童生徒一人一人が活躍したり、認められたりする場の設定 （役割の明確化）			
<input type="checkbox"/> 児童生徒の様々な表出への気付きと受容、フィードバック			
<input type="checkbox"/> 他者との対話場面の設定 （存在に気付く、関わりを楽しむ、話し合いの活動など）			
<input type="checkbox"/> 自分の気持ちや考えを整理したり、表現したりする場面の設定			
【深い学び】			
<input type="checkbox"/> ① 他の教科等や行事、生活場面でも活用できる教材教具の工夫★			
<input type="checkbox"/> ② 他の教科等や行事、生活場面と関連した単元や題材の設定			
<input type="checkbox"/> ③ これからの他の教科等や行事、生活場面において学びを生かすこと のできる単元や題材の設定			
<input type="checkbox"/> ④ 余暇や生活の楽しみ、豊かさにつながる活動内容の工夫			
【その他 気付いたこと】			

(エ) まとめ

授業を参観する際の視点が示されており、分かりやすかった。また、自由記述欄を設けたため、授業者へ意見や感想を伝えることができ、授業のフィードバックができて良かった。

「深い学び」とのつながりは、授業だけでは判断しかねるため、評価しにくかった。また、チェックを行う際に、印刷、配布、回収、集計の手間がかかってしまうため、研究授業の際に行うなど限定的になってしまった。

(2) 成果と課題

- 項目をチェックすることで、授業づくりや児童生徒の学びの姿を見取るポイントが分かりやすかった。
- チェックを行いながら項目を目にすることで、項目の内容を意識することができ、自己の授業についても確認することができた。
- 参観者から授業者へのフィードバックがあり、授業に生かすことができた。
- シートがたくさんあって煩雑になってしまった。
- 授業の一部だけを参観してチェックを行うことが難しい。また「深い学び」については授業内だけでチェックすることはできない。

(3) まとめ

今年度はシートを統一して行ったので、シートが煩雑にならなくて良かった。しかし授業参観期間がしゃくなげ分教室のみと縮小されたこともあり、授業研究会で使用する程度になってしまった。

しかし、使用回数は少なくても、項目を意識しながら授業づくりをしたり、授業を参観したりする視点を持っていることは必要なことである。

次年度以降も、もっと少し活用しやすい方法を探りながら継続していきたい。

2 研修会の実施

(1) 令和5年度全校研修会

R5年度は外館悌校長から「主体的・対話的で深い学び」を実現するための授業において大切にしたいことについて講演いただいた。

ア ねらい

令和5～6年度に行う研究に関係し、「主体的・対話的で深い学び」を実現するための授業において大切にしたいことについて考える機会とする。

イ 日時

令和5年5月26日（金） 16：15～16：40

ウ 講師

校長 外館 悌 先生

エ 内容

(ア) 主体的・対話的な深い学びとは

「主体的・対話的で深い学び」とは、

- ①「何を学ぶか」（指導すべき内容）
- ②「どのように学ぶか」（指導方法）
- ③「何ができるようになるか」（育成を目指す資質）

以上の3点が重要になるが、私たちが授業で大事になってくることは②の「どのように学ぶか」という点になってくる。

さらに「主体的・対話的で深い学び」とは学びの視点であり、それぞれ次のように考えていく。

<主体的な学び>

学ぶことに興味や関心をもち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげている

<対話的な学び>

子ども同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えることを通じ、自己の考えを上げ深めている

<深い学び>

習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かっている

そこで本校における「主体的・対話的で深い学びの目指す姿として次のように捉えている。

＜本校における「主体的・対話的で深い学び」のめざす姿＞

＜主体的な姿＞

見通しをもって自分で行動しようとし、生活を楽しもうとしている姿

＜対話的な姿＞

人・もの・こととの関わりで課題を解決したり、自分の考えを広げたりしている姿

＜深い学びの姿＞

学んだことが身につき、生活に生かしている姿

(イ) 3つの視点に基づく授業改善

それぞれの視点に基づく授業改善の工夫を子どもの姿から考えてみる。

＜主体的な学び＞

○子どもの姿 (例)

- ・興味や関心を示している、興味や関心を高めている
- ・見通しをもっている
- ・自分のことと結びつけている
- ・粘り強く取り組んでいる
- ・学んだことを振り返っている、次の活動につなげようとしている



○授業改善の工夫 (例)

- ・実態把握から得られる興味・関心につながる課題設定
 - ・具体的で、分かりやすい活動内容、ゴールの提示
 - ・現実感、生活感のある取り組みやすい活動
 - ・試行錯誤できる、繰り返しできる場面設定、時間設定
 - ・学んでいること、学んだことの評価、フィードバック
- 等

＜対話的な学び＞

○子どもの姿 (例)

- ・思ったこと、考えたことを表現する
- ・多様な手段で説明する
- ・他者の考えを手掛かりにする
- ・互いの考えを比較する
- ・一緒に考えて解決する
- ・多様な情報を収集する
- ・一緒に考えを創り上げる



○授業改善の工夫 (例)

- ・解決において、対話の必然性がある課題設定
 - ・学習内容に応じたグルーピング (メンバー、規模)
 - ・情報の可視化、操作化などする思考を広げるツール
 - ・話を聞き合える関係性の構築
- 等

<深い学び>

○子どもの姿（例）

- ・知識・技能を習得する
- ・自分の思いや考えと結びつける
- ・知識や技能を概念化する
- ・自分の考えを形成する
- ・新たなものを創り上げる
- ・知識・技能を活用する



○授業改善の工夫（例）

- ・知識や技能の適用場面の設定
- ・既習内容や経験と関連付けた思考の促進
- ・概念化のサポート（特徴、共通性、差異等への意識）
- ・個の思いの顕在化 等

（ウ）まとめ

「主体的・対話的で深い学び」の姿を実現するためには、実態把握（興味・関心、既習事項、言語能力、情報活用能力 等）をふまえた授業改善の工夫が必要であり、実施、実践を通しての工夫の見直しをしていくことがよりよい授業づくりで大切にしたいことである。

(2) 令和6年度全校研修会

R6年度は中館崇裕副校長から、合わせた指導の目標設定と評価について講演いただいた。

ア ねらい

合わせた指導の目標をどのように設定するか、また3観点に基づく評価をどうするかを考える機会とする。

イ 日時

令和6年5月29日(水) 16:15~16:40

ウ 講師

副校長 中館 崇裕 先生

エ 内容

(ア) 生活単元学習とは

児童生徒が生活上の目標を達成したり、課題を解決したりするために、一連の活動を組織的に経験することによって、自立的な生活に必要な事柄を実際的・総合的に学習するものである。



生活単元学習では、広範囲に各教科等の内容が扱われる。児童生徒の学習活動は生活的な目標や課題に沿って組織されることが大切である。

(イ) 生活単元学習の実践例

行事との関連：楽しい遠足、思い出を作ろう（学校祭）、卒業生を送る会をしよう
 季節の生活：星に願いを（七夕）、秋を探して楽しもう、もうすぐお正月
 生活上の課題：宿泊学習に行こう、電車に乗って出かけよう
 発表・表現：みんなで劇をしよう、作品展を開こう
 制作・生産：カレンダーを作ろう、野菜を育てよう
 偶発的な事柄：転入生を温かく迎えよう、～さんのお見舞い

(ウ) 学習評価とは

特別支援学校での学習は、子どもたちの自立と社会参加を旨として行われ、そのために子供たち一人一人の育むべき資質・能力の育成が必要とされている。このことから、学習評価も子供たちの資質・能力の育成のために行うためのものである。



育成を目指す資質・能力

(知識・技能、思考力・判断力・表現力等、学びに向かう力、人間性等)

(エ) 評価の観点と内容

観 点	内 容
知識・技能	学習内容について、理解したこと、できるようになったことはどんなことか。
思考・判断・表現	学習内容に関わって、どんなことを考えたり、意識したり、判断したりしていたのか。そしてそのことを、どのように表していたのか（行動、文字、話し言葉など）
主体的に取り組む態度	（支援を受けながらだったとしても）「自分から」学ぼうとしたり、学んだことを生かそうとしたり【自らの学習を調整しようとする側面】、やるべきことを理解して最後まで取り組んだり【粘り強い取り組みを行おうとする側面】など、どんな姿が見られたか。

(オ) なぜ観点別評価なのか

- ・これまでの教育「知識や技能の習得」が中心。
⇒質的な面も育んでいく必要がある。「知っている、できる」という評価で終わらない。多面的・多角的に子供たちの姿を見取り、評価の質を高める。
- ・観点別に評価することが目的ではなく、学習評価の視点を明らかにすることで、客観的に学習活動や教育課程を見直し、子どもたちの資質・能力を育成していくことが目的である。

(カ) 評価の進め方

①目標の設定

- ・次のいずれかの方法が考えられる
 - a 学期や単元、本時の目標を一つ設定する。
 - b 学期や単元、本時の目標を一つ設定し、その上でその目標を3つの観点で記述する。

②手立ての設定

目標を達成するための手立てを設定する。
（単元期間、進め方、補助具、場の設定、働きかけなど）

③評価の実施

- a 目標をあらためて3観点で振り返って評価する。
- b 設定した目標に沿ってそれぞれ評価する。

(3) 教材研修会

授業において自作教材だけでなく、一般に販売されている玩具などを教材として取り入れて授業することも、児童生徒の学習に効果的であり、よく活用されている。それら教材を販売している企業（くもん出版）の開発事業部の方々に、どのような観点で開発、発展させているのか、また教材開発への思いなどについて講演してもらい、本校からも実際に授業で活用している事例について紹介をする研修会を行った。

ア ねらい

教材作成についての研修をとおして、授業実践に活かし授業改善へとつなげる。

イ 日時

令和6年8月29日（木） 15:15～16:45

ウ 場所

本校プレイルーム ※Microsoft Teams を使用したオンライン会議形式にて実施

エ 研修テーマ

「教具ができるまでのストーリーと活用事例」

オ 研修内容

(ア) 講演

演題「教具・玩具ができるまでと大切にしていること」

講師 株式会社くもん出版 企画開発部 部長 堤嘉代 氏

編集2チームリーダー 星野由香 氏

a 教具・玩具の開発の特徴と考え方、つきたい力

- ・公文式では「ちょうどの学習」が教育にとって1番大切であると考えている。学習においてはそれぞれの子どもの能力に合った「ちょうどのこと」が与えられるべきという考え方である。
- ・乳幼児期に「ちょうどのこと」が与えられると勉強が好きになる。乳幼児に遊びと勉強の区別はないので、必要な力を遊びの中で楽しくはぐくむことを目指して開発している。
- ・自学学習に向かうためには、語彙力や記憶力、運筆力などをつけることが必要である。

b カード教具とドリルができるまで

- ・カード教具では言葉の獲得が期待できる。「実態（絵）」「ことば（音）」「文字（漢字・ひらがな）」の3つの関係を大切に開発している。感触の刺激によって文字の形を捉える方が有効な子どものための「ゆびなぞりカード」も開発した。
- ・書くためには「鉛筆を思い通りに動かせる力（運筆力）」が必要。書くだけならチラシの裏でも良いが、楽しい方がやる気と学びにつながる。カードやドリルにはその子の好きを探せるような様々なラインナップをそろえてあげたい。

c 子どもファーストのものづくり

- ・知育玩具製品の開発の基本姿勢として「子どもから学ぶ」ことを大切にしている。発想や企画、検証、改良のそれぞれの段階で実際に子どもたちの様子を見て進めている。製品としての安全性も重視している。

- ・愛用者の声を聞いて商品は初めて完成する。常に改善をしながら商品をリニューアルする。

d 教具・知育玩具として追及すべきこと

- ・子どもたちが使うものなので、難易度やつけない力はもちろんのこと、安全性や思考の発展性なども考慮し、いくつもの検証と改良を経て商品としての玩具が完成する。
- ・子たちの笑顔を目指した教具・玩具は何かをいつでも考えている。

(イ) くもん出版の教具・知育玩具を活用した事例紹介（詳細は資料参照）


対象	使用教材	使用場面	使用方法	児童の様子・教材への希望など
小学部 知的通常 学級1年	くるくる チャイム	自由遊び 色選ひ課 題	・教師が指定した色と 同じ色の玉を穴に入 れる。	・色選ひでは教師とのやり取りを楽 しみながら諦めずに正解を探つ た。 ・玉に番号があると数字課題にも使 用可能か。
小学部 知的通常 学級3年	くるくる チャイム	自由遊び	・教材を置く場所、転 がし方など児童の自 由な発想で楽しむ。	・落とし方、転がし方など試行錯誤 しながら楽しんだ。 ・直線やカーブなど転がる以外のコ ースがあると発想の広がり期待 できる。
小学部 知的通常 学級5年	じゃらっと プレート	算数 手指課題	・教師の指定した数字 と同じプレートを選 び、穴に差し込む。	・穴の位置やプレートの入れ方など 自分で操作を繰り返して楽しん だ。 ・数唱や数の学びまでは難しかつ た。
小学部 重複学級 4年	くるくる チャイム	手指課題	・教師のガイドをもと に穴の位置を確認 し、自分で玉をつか んで穴に入れる。	・玉がらせん状に落ちていく様子な どを声を出しながら楽しんだ。ボ ール動きを注視することができ てきた。
小学部 重複学級 2～6年	CD付童謡カ ード	個別課題 合同授業	・カードに曲のQRコ ードを添付し、児童が タブレット操作で曲 を再生する。 ・合わせて自作教材の のペーパーサートで曲 の世界を楽しむ。	・ベッドサイド、車いす上などCD デッキのない場所でも、手軽に自 分で音楽を再生して楽しむことが できた。 ・「自分で学ぶ」ことを可能にする 一つの手立てとして教材へのQR コードの添付があるとよい。

(ウ) 参加者アンケートから




- ・企画、開発からロングセラーへと進化する過程の様々な試行錯誤や苦労があること、安全面の配慮などプロの視点での着眼点がとても勉強になった。
- ・発達の流れや段階がよく考えられていて参考になった。
- ・教材を作るうえで、子どもの楽しいものから働きかけることで、「楽しみながら学ぶ」につながるのだと感じた。

《資料》 令和6年度 岩手県立釜石祥雲学校 校内研修会 くもん出版社教材活用事例





【事例1】

学部	小学部	対象児童	A児	授業者	村上みさと
使用教材	くるくるチャイム				
対象児童について	<ul style="list-style-type: none"> ・本児は、知的障がいに加えて、ウエスト症候群による両上肢機能障害、移動機能障害、斜視を併せもつ児童である。 ・知的発達 は1歳程度である。 ・体の動きにぎこちなさはあるものの、体を動かすことは好きである。バスケットボールは、ドリブルしたりゴール目掛けてシュートしたりすることができる。 ・形の大きいものを捉えることはできるが、近くのものに注目することや、色や形のマッチングや名称を答えることは苦手である。 				
使用方法	<p>①自由に遊ぶ時間を設け、教材の使い方や楽しさを味わう。</p> <p>②5色の玉から教師が色を指定して伝え、その色の玉を入口に入れる。</p> <p>③玉が落ちていく間に、入れた色が正しいのか間違っているのかを、教材が話しているかのように教師が声色を変えて伝える。</p>				
	<div style="display: flex; justify-content: space-around;">  </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>教師が色の指示を出し、5つのボールの中から選んでいる。また難しいため、何度か間違え、ヒント（ズボンの色と同じ）を頼りに考えている場面。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>「違うよ!」「正解!」など教師が回転に合わせて話す。児童は楽しみながら取り組んでいる。</p> </div> </div>				
<p>児童の様子・感想・「もう少しこうだといいな」ということ等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自由遊びでは、遊び方をすぐに理解し、玉を繰り返し入れて楽しんでた。 ・色選びの課題では、間違った色を選ぶことも多かったが、教師とのやり取りが楽しくて、飽きずに取り組むことができた。正しい色を選ぶことができるまで、ヒントを与えたり、玉の数を減らしたりして取り組んだ。 ・色の勉強に楽しみながら取り組むことができた。玉に番号が書いてあると、数の勉強にも使用できるのではないかと思う。 					

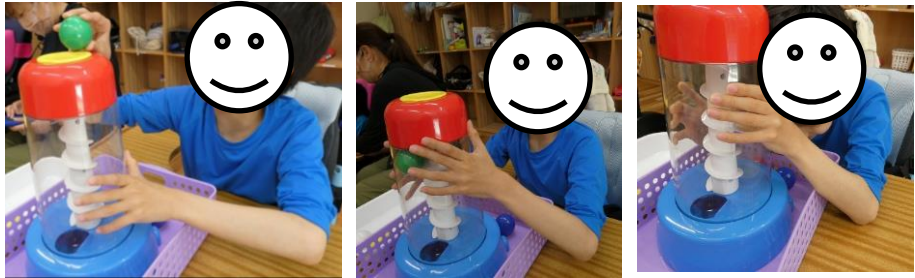
【事例2】

学部	小学部	対象児童	B児	授業者	村上みさと
使用教材	くるくるチャイム				
対象児童について	<ul style="list-style-type: none"> ・本児は、知的発達が1歳程度の児童である。 ・玉を転がすことや、紐を揺らすことなど、物の動きを見て、観察して、自分なりに動かし方を工夫して遊ぶことが好きである。また、ドミノやおはじきなど、間隔や向きにこだわり、きれいに配置することにも夢中になって取り組む。 ・自分の世界に入り、一人で遊ぶことが多い。教師とスキンシップを取るとは好きだが、まだ自分本位であり、興味のないことに関しては、こちらからの働きかけに反応せず、拒否感を表すこともある。 				
使用方法	<p>①自由に遊ぶ時間を設け、教材の使い方や楽しさを味わう。</p> <p>②本児の発想で、教材を置く場所や、玉の数、入れ方を変えながら取り組む。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> ボールを1つずつ入れてみたり、連続して入れて落ちる様子を楽しんだ後… </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>↓椅子のどの部分からどのようにリリースすればくるくるチャイムの入り口に落ちるかを検証しはじめた。</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>↑微妙に位置を変え、リリースの仕方を工夫している。</p> </div> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;">  <p>↑椅子の下にくるくるチャイムを置き、椅子に場の設定を始める。</p> </div>				
<p>児童の様子・感想・「もう少しこうだといいな」ということ等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すぐに教材に興味をもち玉を繰り返し入れては横から玉が回転して落ちる様子をよく観察していた。 ・玉1個だけ入れて出てくるまで待っていたり、連続で玉を投入して連なって動く様子を見たりと、玉がどんな動きをして落ちるのかを研究しながら楽しんでいた。 ・ひと通り玉を入れる遊びを終えると、次は、机や椅子など高い位置から玉を転がして教材の入口に入るように、コースや力加減を研究し、調節しながら遊んでいた。 ・本児が好きな玉転がしということもあり、すぐに興味をもち、長い時間夢中になって遊んでいた。本来の遊び方だけではなく、自分なりに考えて遊びを発展させていたのがとても良かった。いろいろな玉の動きを楽しめるように、回転しながら落ちるだけではなく、直線やカーブなどのコースがさらにあっても楽しいかと思う。 					

【事例3】

学部	小学部	対象児童	C児	授業者	久保美紀		
使用教材	じゃらっとプレート						
対象児童について	<p>○読むことについて 教師の言葉を真似して、同じ発音を繰り返すことがある。言葉の意味の理解については難しい。数字の1を見て数唱することがある。教師の数唱を復唱することができる。</p> <p>○手指のうごきについて 基本的にエジソン箸を使用するが、カレーライス等はスプーンを使用する。 スプーンを使用する時は、手首を返す動作が苦手で、握るような形になってしまうことがある。言葉掛けにより、中指、薬指、小指の位置に気を付けて握ろうとすることができる。</p>						
使用方法	<p>①プレートをロケット上部の穴に入れる。 ②レバーを引いて、投入したプレートを出す。 ③プレートを入れる場所が複数あることを見つける。 ④プレートの番号が1～10までであることを知る。 ⑤プレートの数字を教師と数唱したあと、ロケットの穴にプレートを入れる。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">     </div> <table border="1" style="width: 100%; margin-top: 10px;"> <tr> <td style="width: 50%;">自由に入れさせると、見やすくて入れやすい上の穴からだけ入れる。</td> <td style="width: 50%;">上の穴を教師が手で塞ぐと手首の向きや手の使い方を工夫して入れる様子が見られた。</td> </tr> </table>					自由に入れさせると、見やすくて入れやすい上の穴からだけ入れる。	上の穴を教師が手で塞ぐと手首の向きや手の使い方を工夫して入れる様子が見られた。
自由に入れさせると、見やすくて入れやすい上の穴からだけ入れる。	上の穴を教師が手で塞ぐと手首の向きや手の使い方を工夫して入れる様子が見られた。						
児童の様子・感想・「もう少しこうだといいな」ということ等	<ul style="list-style-type: none"> 児童にじゃらっとプレートを提示したところ、プレートを利き手で持ち、ロケット上部の穴（中央）に入れ始めた。提示されたプレート全てをロケットの中に入れることができた。プレートを入れた後に「ガチャン」と落ちる音が気になる様子だった。プレートを入れた後も「シャカシャカ」とロケットを振って音を楽しむ様子が見られた。 プレートが入ったロケットを振り終わった後、横のレバーの存在に気づき、手前に倒す様子が見られた。児童がプレートを中に入れることに慣れ始めた頃、利き手ではない方の手を中央の穴以外の穴に置かせてみた。穴があることには気付いた様子だが、中央の穴から入れることにこだわりがある様子だった。そこで、教師が中央の穴を指でふさいでみたところ、一瞬とまどった様子が見られたが、自分に一番近い穴にプレートを入れた。入れたい角度に合わせて、穴を一時的に封鎖するための部品がいくつかあると、後ろの方の穴からもプレートを入れようとするかもしれない。（教師が指でふさいだところは、本児はプレートを入れようとしなかった） プレートの番号を教師が数唱した後、本児も教師の真似をして数唱することができた。数唱後は、プレートをロケットの中に入れる動作を繰り返し行った。数の概念はまだ分かっていない様子だったが、数唱（教師の真似）をしたあとにプレートを入れるという動作は理解しているようだった。 						

【事例4】

学部	小学部	対象児童	D児	授業者	柏葉真紀
使用教材	くるくるチャイム				
対象児童について	<ul style="list-style-type: none"> ・脳性麻痺の児童であり、握る・離すなどのコントロールが難しく、腕や体も大きな動きになる。 ・注視することが苦手で、何かを触っている時もすぐに視線が違う所になってしまう。 ・指先や手の力加減をコントロールして、握る・離すという動きををスムーズに行うこと、物を注視し続けて操作することを課題としている。 				
使用方法	<p>①左手を穴のあるところにガイドし、左手に右手を持っていくようにする</p> <p>②好きなボールをつかんで穴に入れる。</p> <p>※穴から外れることも多いので机から転がり落ちないようにかごの中にくるくるチャイムを置いて使用した。</p>				
					
	<p>児童の様子・感想・「もう少しこうだといいな」ということ等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・机上の学習は苦手だが、くるくるチャイムで遊んでいる間は表情良く取り組むことができた。 ・自分から手を伸ばし、ボールの動きを注視することができた。 ・入れた後も、ボールが出た後も、ずっと目でボールの動きを追う様子が見られた。 				

【事例5】

学部	小学部 分教室小学部	対象児童	小：重複障がい学級6名 分：2年児童 1名	作成者 授業者	米倉ちづる、村上綾 湊敬子
使用教材	くもん出版 CD付き童謡カード第1集、自作ペープサート				
使用場面	小学部：①自立活動「合同朝の会」（重複学級合同授業・週1回）「おたのしみ」コーナー ②自立活動「個別課題」 分教室：自立活動「個別課題」				
使用方法	<p>1 対象児童について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肢体不自由を主とし、知的障がい、弱視、難聴他疾患を併せ持つ児童であり、小学部は医療的ケア児2名も在籍している。全員が車いすを使用している。 ・見え方、聞こえ方、身体の可動域など個人差はあるが、全員が音楽的活動を好んでいる。 ・聞きなれた曲であれば自分なりに口ずさんだり、身体を動かして楽しむことができる。 ・小学部は1学級2名の在籍であるため、集団の良さや楽しさを感じながら学習できるよう週3回の合同授業を設定している。合同朝の会の「おたのしみ」コーナーは、絵本や手遊び、ゲームなど児童が好きな活動を月替わりで行っている。 ・分教室の児童は、脳性小児まひ・症候性てんかんなどの障がいがある。国立釜石病院に入院しており、そこから病院内にある分教室に通学している。授業日は週3日。集団学習と個別学習を行っている。個別学習の時間には、身体的な活動（体操）や読み聞かせ、手指の操作に関わる学習に取り組んでいる。音楽的な活動は好きであり、自分の好みの曲を聴くと笑顔を見せることがある。 <p>2 カードの活用について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本教材はCD付きであり、カードで選んだ曲を聞いて楽しむことができる。 ・しかし、対象児童らにとってデッキの再生ボタンを押す、ボタンで曲を選択する等の活動は手指の可動域的に難しい。またベッドサイドや車いす座位姿勢の学習ではCDプレーヤーを近くに置くことが難しいこともある。 ・教師が再生してあげられることもできるが、児童の「自分で選ぶ」「自分で操作する」楽しさ、「いつでもどこでも自ら学習を進めることのできる」仕組みを保障したい。そこで、聞きたい曲を自分で選び、可能な限り自分のできる動作で再生して楽しむことができるよう、カードに曲のQRコードを貼り付け、タブレットで読み取って再生できるようにした。 				

・児童はカードのイラストを見て、自分の好みの曲を選び、教師と一緒にタブレットをタッチして再生する。聞くだけでは曲のイメージを捉えることが難しい児童や、声を出して歌うことが難しい児童もいるため、各曲のペープサートを用意し、童謡を目で見ても楽しめるように工夫した。

またペープサートは、感触素材を部分的に用いたり、パーツが動く仕掛けをつけたりして、触れて楽しい、操作して楽しいものを意識した。



←うら

児童の様子・感想・「こうだったらいいのにな」

・児童によって、タブレットやペープサートを「自分で操作する」「教師と一緒に操作する」「教師が操作するものを見る」などそれぞれの楽しみ方があってよい。

・二枚のカードを提示し、どちらの歌を聴きたいか選択する時間を設けたが、選択が難しかった。生活経験の不足さや、興味関心の狭さも感じられる児童たちなので、絵カードを見てどんな歌が流れてくるのかを予想できるとよい。繰り返し取り組む。

・歌だけだと気持ちを表現することが難しいが、ペープサートを介することで歌詞や歌のストーリーを意識して曲を楽しむ姿が見られた。

・コミュニケーションツールの一つとして iPad を操作できるようになることをねらい、好きなもの選択、コードの読み取りは適していると思う。

・学習場所や身体の可動域に制限があっても、「自分で学びを進める」ための支援として CD 以外の音響の仕掛けは必要。今は教科書にも QR コードがついていて自ら学習を進めることができる時代。教材カードにも同様の仕組みがあっても良いのではないかな。

⇒今回 Youtube の動画から音源を作成したが、CM を切り取る作業の手間やクリップ可能時間の制限などあり、教材の購入者側で独自に作成するよりも、最初からカードに CD 以外の音源再生の仕組みがついているとありがたいと感じた。

3 各グループの研究実践

(1) グループの構成と各グループにおける取り組みの内容について

ア グループ構成

- ・「小学部」
- ・「中学部」
- ・「高等部」
- ・「自立活動」

主に学部でメンバーで構成したが、自立活動グループについては分教室、重複学級や病弱肢体不自由学級など教育課程に「自立活動」を位置づけている学級に関わっているメンバーで構成した。

イ 主な取り組み

- ・研究推進計画
- ・児童生徒の実態把握
- ・教材などの検討
- ・授業実践と授業研究会

今年度は2年目の研究であるため、授業実践につながる内容を中心に取り組んだ。

ウ グループ研究の主旨

今回の研究はこれまでの研究を礎に、より実践に生かしていくことを目的としているので、各グループの研究はより具体的に日々の授業につながる内容であり、本研究の根幹となっている。

- ・PLAN：児童生徒の実態把握から授業を計画
- ・DO：授業を実践
- ・CHECK：研究日・授業研究会で評価
- ・ACTION：研究日や個々で反省・改善

以上のサイクルを行いながら、授業の向上を図りたいと考えている。



(2) 小学部グループ

ア 小学部について

令和6年度の小学部の在籍児童の教育課程と人数は以下の通りである。

教育課程	病弱・肢体 不自由学級		知的通常学級						重複障がい学級					
	2	計	1	3	4	5	6	計	2	3	4	5	6	計
人数	1	1	2	1	2	4	3	12	1	1	2	1	1	6

入学年度によって人数にばらつきがあるが、近年は重複障がい学級対象の児童が増えている。

1～3年生を低学団、4～6年生を高学団として、それぞれのまとまりで行事や授業を行っているが、近年人数差が大きくなり全学年まとまって行うことも多くなっている。しかし、教育課程の時数の違いなどもあり、授業の内容や単元の組み方に課題がある。

- ・学級を中心に、個別学習、集団での学習や活動について、バランスを考えて設定している。
- ・重複障がい学級の児童も増えてきているので、重複障がい学級児童での集団学習も行っている。
(音楽的活動の「りずむタイム」、運動的内容の「わっしょいタイム」)
- ・教育課程の違う児童であっても、それぞれに目的や目標をもって、同じ場で一緒に学習活動をすすめる時間もある。(例：低学団知的通常の「遊びの指導」と重複学級の「自立活動」)
- ・令和4年度までは音楽や体育は学団ごとに行っていたが、学団の人数の偏りが大きくなったことで、集団学びの場の確保などの観点から、令和5年度から学部合同で行っている。しかし、学年によって時数が違うことや、学団行事にかかる時期は時間を合わせる事が難しいなど課題がある。学習発表会も今年度は学部全体で行った。

イ 研究の概要

小学部グループの研究では主に知的通常学級の学びについて焦点を当てた。令和5年度は小学部5年生の国語の授業について教材の検討やアプリの活用について研究を行い、令和6年度は算数科に焦点を当てて教材の検討や授業の展開、数の概念などについて研究を進めてきた。

(ア) 研究の目的

- a. 児童の実態についての共通理解を図り、学びに適した教材の検討を行う。
- b. 児童の学習の目標に近づけるための、効果的な教材の検討及び開発を行う。

(イ) 研究計画

研究日	内容
第1回（5月16日）	グループメンバーの確認、研究の概要説明、研究計画など
第2回（6月26日）	指導案検討①（知的通常学級5年、算数科）
第3回（7月12日）	授業研究会①
第3回（8月21日）	指導案検討会②・授業検討会②（病肢通常学級2年生 自立活動）
第4回（9月19日）	指導案検討会③（知的通常学級3年算数、知的通常学級6年算数）
第5回（10月24日）	授業研究会③
第6回（11月18日）	グループ内研修会 （筑波連携チームオンデマンド研修：知的障害特別支援小学部における授業づくり）
第7回（2月14日）	研究のまとめ

(ウ) 研究の方法

a 指導案検討会

- ・学習指導案を作成することにより、授業の目標が明確になり、教材の意義、児童の実態、指導計画などについて、深く考察することができる。また、授業者の意図を指導案として提案することにより、グループ内でより良い授業や教材の改善などについて、話し合いを行う。

b 教材の検討

- ・単元の目標をより効果的に達成するために、必要な教材について指導案検討と共に検討を行う。

c 授業研究会

- ・指導案検討した授業を参観し、児童の学びはどうかであったか、さらに良くするための改善案などを検討する。

ウ 研究の経過

対象	項目	内容
知的 5年 2名 算数	指導案 検討	<ul style="list-style-type: none"> 生活につながるよう買い物場面を取り上げているが、10のまとまりの理解を目標とするならば、100円は扱わず、1円と10円のみで行った方が良いのではないか。 児童が落ち着いて学習に取り組めるような環境設定が必要ではないか。
	教材の 検討	<ul style="list-style-type: none"> 数唱できることと数量の理解は違う。実際に1円玉を数えて10枚ずつまとめていく作業を取り入れてはどうか。 学習の流れや約束事が分かるように机上にカードで提示を行ったらよいのではないか。
	授業 研究会	<ul style="list-style-type: none"> 児童の好きな教材（お菓子）を使ったのは良かった。学習課題としての価格設定は少し検討が必要だった。 10を数えるための教材が工夫されていて良かった。そのまま10、20…と数えていくのも良いのではないか。 多動な児童の動きを止める配置になっていたが、落ち着いて学習できて良かった。止めるのではなく書かせたり取りに行ったり、動かしていくパターンもあるのではないか。
知的 1・3年 3名 算数	指導案 検討	<ul style="list-style-type: none"> 実態にやや差があるが、個数を増やすなど難易度を変えるなどして対応してはどうか。 数詞と数唱と数量の関係はどうか。 数字の歌を歌うだけでなく、数詞と数字が対応できるように指で数を示したり、数字を空書きしたりしてもよいのではないか。
	教材の 検討	<ul style="list-style-type: none"> 量感を育てるために、数える時に指をさすだけでなく、その数だけボールをすくうようにしてはどうか。 筒に入れて転がす前に、たくさんボールが入っている箱から、数字を見て別な箱へボールを移すと数字と量の関係がわかるのではないか。
	授業 研究会	<ul style="list-style-type: none"> 児童も先生たちもみんなが楽しそうな授業だった。実態に合っていた。 筒の結び目が透明テープだとボールの動きがもっとよく見えるのでは。 「3」までの数を楽しんで学ぶことができる教材。児童たちが好きな物を取り入れたため、待っている時間も楽しい、学び合いの授業展開だった。
知的 6年 3名 算数	指導案 検討	<ul style="list-style-type: none"> パターンで足し算を行っているようにも思うが、もっと少ない数で行ってはどうか。また、数量に関してどの程度理解できているのか。 5のまとまりで考えるのはどうか。5といくつなど。 対象児童は、足し算の際の思考の助けとして、数字の数〇を書いてそれを数えているが、数量としてはどの程度理解しているのか。
	教材の 検討	<ul style="list-style-type: none"> 10のまとまりを作る際、磁石を置くだけでなく視覚的に10になったことが分かるように蓋をするなどした方が良いのではないか。 単元の最後にサイコロゲームが設定されているが、サイコロゲームがメインなのか、足し算がメインなのか、計算がメインならば計算だけで進めた方が良いのではないか。
	授業 研究会	<ul style="list-style-type: none"> 教材の操作が難しいと思考の邪魔になることもあるのでは、もう少し楽に操作できる教材の方が良いのではないか。アプリ等の活用も検討しては。 10のまとまりで蓋をする工夫が、まとまりを意識しやすくなった。 算数として難しい単元だが、児童がとても頑張っており取り組んでいた。 日常で般化することが難しい児童たちが生活に生かせる良い教材だった。

※指導案については小資料1～3参照

エ 研究の成果と課題

(ア) 研究の成果

令和5年度はiPadのアプリとプリントを併用した授業、令和6年度は授業者が工夫をしながら作成した手作り教材での授業を取り上げて研究を進めてきた。

令和5年度に取り上げたDrop Tapは見通しや操作などで課題のある児童にとって、とても有効なアプリである。また、間違えることが苦手な児童にとってもすぐに消すことができるので、iPadの活用はとても有効であった。

一方、今年度取り上げた手作り教材は、作成に手間はかかるが、教材の素材や色、大きさ、形などが対象児童に合わせて作成することができる。また、授業のねらいに合わせて、児童の使用感に合わせて単元の途中で手を加えたりと、微調整をしながら授業を展開することができるというメリットがあった。

授業づくりとは、指導者が授業のねらいを達成するために、児童の実態を考えながら必要な教材を準備し、授業では児童が、指導者や教材と対話しながら思考を深め、さらに深い学びへつなげていくことだと考える。

今回の研究では、指導案や研究授業について、児童を知る小学部のグループメンバーで具体的に検討したことにより、様々な角度から多くの意見が出された。特に算数科の数の概念については基本的かつ難しい課題もあり、教師同士の学びの場となることができた。

(イ) 課題

小学部の児童は一人一台iPadが割り当てられていて、授業での活用も推進されているが、実際に授業での活用状況については少ない。理由としては様々あるが、一つ目は個々に合うアプリを入れることはできないため、共通で使用できる限られたアプリの中で活用しなくてはならないこと。二つ目は指導者側が、機器やアプリの使用に慣れていないため授業で活用しきれていないこと。三つ目は家庭などでiPadを常時使用している児童が多いため、学習場面で切り替えが難しい面があること。大きくはこの3点があるのではないかと考えられる。

これから、ますますICT機器の活用については必要性が高まると思われるので、情報モラル等も含め、授業や生活場面での取り入れ方など検討していく必要があるのではないかと考える。

(ウ) まとめ

今回の研究では、「教材」をあくまで一つの視点とした授業づくりについて行ってきた。

日々、授業があり、児童は指導者とかわり合いながら学びを深めていく。様々なことに興味関心があり、好奇心も旺盛な小学部の児童の学びを支え、集中して取り組めるために、「教材」を工夫し、効果的に取り入れていく必要があると考える。これからも、児童も指導者も共に「主体的・対話的で深い学び」が展開していくような授業づくりに努めていきたい。

《小資料1》

(2) 単元について

6月末に行った買い物学習では、学級全員が活動に意欲的だったため、興味・関心のある「買い物」と関連付けた、金銭の授業を設定した。本単元は、数の学習を生活に活かせるように、お金を題材とした単元である。10を単位とした見方は、金銭の理解につながるなど、算数の学習と日々の生活を関連付けるための重要な要素である。また、10のまとまりとして数えたり分けたりする学習は、中学部で学習する3位数の数系列、順序、大小の学習の素地となる。この単元を通して、数の学習がお金の学習に繋がっていること、同じ金額でも複数の表し方があることなどに気付かせ、生活や学習の中で活用できる基本的な技能や、使ってみてみたいという意欲を高めていきたいと考える。

(3) 支援について

(知識・技能)

- ・「個」「人」「本」「冊」「枚」など、助数詞を用いてまとめる活動を取り入れる。
- ・日常生活と関連する具体物を用いて、操作する活動を設ける。
- ・2ずつ、5ずつ、10ずつなど、幾つかずつにまとめる活動を行い、まとめて数えるよきに気付けるようにする。
- ・10のまとまりを作れるように、10の部屋に分かれた分類セットを用意する。
- ・10にまとまった具体物をまとめる作業を取り入れる。

(思考・判断・表現)

- ・数字とお金などの具体物をマッチングする活動を設ける。
- ・1円玉10枚で10円になることを確認する。
- ・1円玉10枚と10円玉1枚が同じであることを確認する。
- ・等価関係カードを使用し、カードをひっくり返して、等価関係を視覚的に捉えられるようにする。

(主体的に学習に取り組む態度)

- ・算数の学習を生活に活かすことができるように、単元終了後の生単で金銭を扱った授業を設定する。

- ・お金など、生活で使う具体物を使って数を数える活動を設ける。

- ・6月中旬の買い物学習で買ったものを授業に組み込み、算数への意欲につなげる。

(その他)

- ・見通しをもたせ、行うべき活動を認識できるようにするために、1時間分の具体的な時間・活動を表したスケジュール表を提示する。
- ・1つの活動が終わるごとに花丸を付け、達成感を感じられるようにする。

小学部 第5学年 算数 学習指導案

日時 令和6年7月12日(金) 9:30~10:15
 対象 小学部5年1組(2名)
 場所 小学部5年1組
 指導者 久保美紀

1 単元名

「10のまとまりを作ろう」

2 内容のまとまり

小学部 算数 知識及び技能 A数と計算 3段階(ア)㊥
 思考力、判断力、表現力等 A数と計算 3段階(イ)㊦

3 単元の目標

- (1) 数を10のまとまりとして数えたり、10のまとまりと端数に分けて数えたりできる。(知識及び技能)
- (2) 数字とお金との関係に着目して、数の考え方や数の大きさの比べ方、表し方について考え、学習や生活で活かすことができる。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 数量を理解し、算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら、学習や生活に活用しようとしている。(学びに向かう力、人間性)

4 単元について

(1) 児童について

学級の在籍児童は4名であり、算数は2つのグループに分かれて個別指導を行っている。本学習グループは、それぞれの児童に実態差はあるものの、I・Yは自分ができている部分、K・RはI・Yをフォローしながら、それぞれ足りない部分を補い、合って学習に取り組んでいる。6月末まで、学級全員で学習を進めていたが、落ち着いた環境で学習できるように、本単元では学習の場を分けている。

対象児童(K・R)は、簡単な会話ができ、100までの数を数唱したり、一定の大きさのマスに数字を書いたりできるようになってきた。一度身に付けた内容には意欲的であり、「もつとやりたい」とプリントを催促する様子が見られる。一方、全体指導では話を聞いていないことが多く、端的な指示でも1回で聞き取れない場合が多い。特に算数の学習時には教師が話をしている時に手遊びをしたり、机、椅子で遊んだりする。また、新しい内容や苦手なことに触れる時、離席することがある。個別学習でも、問題が分からなかったり、指示が伝わっていないかあったりすると、自分の意のままに離席する。

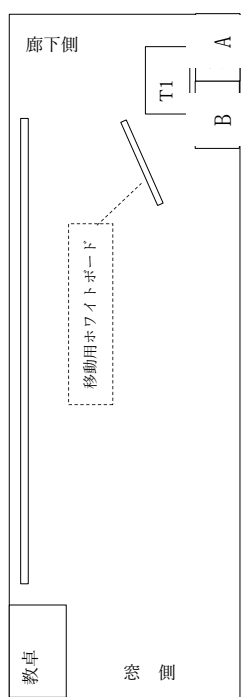
そこで、対象児童が集中して学習に取り組みできるようにするために、視覚的・物理的な支援を行い、「分かる」「参加したい」と思える授業づくりを行っていききたい。

5 単元の評価規準			
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	評価方法
①数を10のまとまりとして数えている。 ②数を10のまとまり、端数に分けている。	①数字とお金の関係に着目している。 ②数学的な表現を用いて、数の大きさの表し方について考え、表現しようとしている。	①お金など、生活で使う具体物を使って数を数えようとしている。 ②まとまりとして数えたり、大きさを比べたりする活動を生活に活用しようとしている。	主体的に学習に取り組む態度 評価方法
6 指導と評価の計画（8時間）			
時	学習活動	指導上の留意点	評価方法
全体	(全体学習) ・前時の振り返り ・今日の目標の確認 ・具体物を使用した歌唱、並び替え、分類、マッチング (個別学習)	・分らないときや報告時の方法を事前に確認する。 ・指示が伝わるように、全員が目してから説明を始める。	評価方法
1・2	○硬貨（1円）のプリントを使い、1～100まで数唱する。 ○数唱後、10のまとまりずつ線で囲む。 ○硬貨（1円）のプリント、等価関係カードを使い、1円が10集まると10円になることを確認する。	・等価関係カードを使用し、1円が10集まると10円になることを確認する。 ・10円になるには1円玉が何枚必要か、等価関係カードや硬貨の教材を使用して確認する。	【知①】 【思判表①】 行動の観察 発言
3・4	○20までの数を2ずつ、5ずつ、10ずつのまとまりで数える。 ○具体物を数のまとまりごとに分けたり数えたりする。 ○具体物を1から数えたときの時間と、まとめて数えたときの時間を比べる。	・数の構成について様々な見方ができるように、複数にまとめて活動を取り入れる。 ・1から数えたときの時間と、まとめて数えたときの時間を比べ、まとめて数えるよりに気付けるようにする。	【知①】 【主②】 行動の観察
5	○1円を10枚ずつに分ける。 ○模擬硬貨を使い、1円が10集まると10円になることを確認する。	・1円を10ずつのまとまりに分けることができるように、仕切りを付けた分類セットを用意する。	【知①】 【思判表②】 【主①】 行動の観察
6・7	○1円、10円の部屋を確認する。 ○1円を10枚ずつに分ける。 ○1円、10円の部屋に1円が10貯まると10円に変わり、10円の部屋に移動することを確認する。	・1の位に1円が10枚貯まると10円に変身し、10の位に移動することをイメージできるように、位の部屋シートを用意する。	【知②】 【思判表②】 行動の観察
8 本時	○お菓子の値段を確認する。 ○1円、10円の部屋を確認する。 ○1円を10枚ずつ分ける。 ○1円の部屋に当てはめ、金額を数唱する。	・今までの学習で使用したものを留意し、活用できるようにする。 ・実際に硬貨を使う場面をイメージできるように、本物の硬貨を使用する。	【知②】 【思判表②】 行動の観察 プリントへの記入の確認 操作課題への取り組みの結果

7 単元に関する児童の実態と手立て			
児童	実態		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
A 自己研修対象児童	・1～100までの数唱ができる。 ・1円、10円、100円の硬貨の種類を理解している。	・提示された1円玉の枚数を出すことができる。 ・1円は1円の部屋に、10円は10円の部屋に置くことができる。	・学習を見て「面白い物」を想起することができる。 ・具体物を数えることができ、大小の数を比較するとき、大小間違って離席しやすいところがあるもの、落ち着いた後、理由を説明すると判断できるときがある。
B	・数字の1を見て数唱することができる。 ・教師の数唱を復唱することができる。	・硬貨に注意を向け、目で追って囲むことができる。 ・硬貨を決められた場所に移動することができる。 ・支援員があれば、10のまとまりを作ることができる。	・発語を促すために、教師が数えるとき、教師が数唱した後に本人が復唱する機会を設ける。 ・操作的活動を取り入れ、数えたり分類したりする時間を設ける。
8 本時の指導（8／8時間）			
(1) 本時の目標			
・1円玉を10のまとまりと端数に分けて数えることができる。 【知識・技能】 ・1円玉10枚と10円玉の関係を分かり、適切な位の部屋に分けることができる。 【思考・判断・表現】			
(2) 各目標に対する個別の目標と手立て			
児童	本時の個別の目標		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
A	・数を10のまとまりごとに分け、10のまとまりと端数に分けて数えることができる。	・1円玉が交換された10円を10の位から10の位に移動させることができる。 ・大量の1円玉から10のまとまりを作ることができる。	・1円の部屋、10円の部屋を事前に確認する。 ・1円を10のまとまりに分けることができるように、仕切りを付けた分類セットを用意する。 ・10枚の1円玉が10円に変換されることをイメージしやすいう、等価関係カードを使って説明する。
B	・大量の1円玉から10のまとまりを作ることができる。	・1円玉10枚を交換することができる。	・まとまりを作る前に、教師が手本を見せる。 ・分類セットに1円玉を10枚入れることができたら称賛する。 ・1円玉10枚と交換するとき、10円玉1枚と同じであることを伝える。
(3) 本時の展開			
時間	学習活動	指導上の留意点	評価
9:30	○本時の学習について知る。 ・挨拶 ・前時の振り返り ・今日の目標 ・学習の流れの確認	・これまでの学習について知る。 (1円、10円)の部屋の確認 ・時間・具体的な活動内容を示した1時間分のスケジュール表を提示する。	評価

9:35	<p>(全体学習)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○お菓子の金額を確認する。 ○大皿の1円玉から10ずつのまとまりを作る。 ○分けたまとまりを、位の部屋に当てはめる。 ○金額を教唱する。 ○お菓子の金額より多いか少ないか判断する。 	<p>・実際に硬貨を使う場面をイメージできるように、本物の硬貨を使用する。</p> <p>・1円を10ずつのまとまりに分けることができるように、仕切りを付けた分類セットを用意する。</p> <p>・等価関係カードを使用し、カードをひっくり返して、等価関係を視覚的に捉えられるようにする。</p> <p>・説明を聞くことに集中できるように、教材を説明した後に、教材を配付する。</p> <p>・他の児童が発表する前に、絵カードを使用し、友達の考えを聞くように促す。</p> <p>・【K・R】</p> <p>・分らないときや報告の仕方を事前に確認する。</p> <p>・【I・Y】</p>	<p>【知②】行動の観察</p> <p>【愚判表②】行動の観察</p>
9:55	<p>(個別学習)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○プリント学習 ・プリントに取り組む。 ・丸付け後、ファイルにプリントを挟む。 ○操作課題 ・お金を題材とした操作課題に取り組む。 ・指定された金額を位の部屋に分けたり、並べたりする課題 	<p>・全体学習で使用した分類セット、等価関係カードを準備する。</p> <p>・時間いっぱい学習に取り組むことができるように、プリント学習後に操作課題に取り組む場面を設定する。</p> <p>・プリントに全体指導の内容を反映する。</p> <p>・個別学習に移る時、口頭指示だけではなく、絵カードで流れを視覚化する。【K・R】</p> <p>・問題が分からないうちに相談できるように、相談方法を絵カードに反映し、離席した場合は絵カードを確認するように促す。【K・R】</p> <p>・プリントが終わったときに報告できるように、報告のタイミングを絵カードに反映する。【K・R】</p> <p>・プリントが終わったとき、教師が報告の仕方の手本を見せる。【I・Y】</p> <p>・ファイル、操作課題セットを教師に提出するように促す。</p>	<p>【愚判表②】行動の観察</p>
10:10	<ul style="list-style-type: none"> ○片付け ・プリントをファイルに挟む。 ・操作課題セットを片付ける。 ○挨拶 		

【教室の配置図】



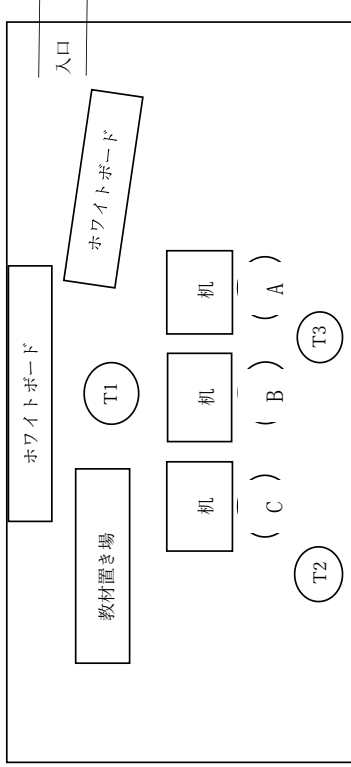
- 教師の移動時間を縮小し、学習時間を確保するために、移動用ホワイトボードを机の近くに設置し、板書に使用する。
- 児童に説明するとき、2名が注目しやすいよう、教師用の机を2名の机の間に設置し、その机の上で説明を行う。
- K・R・着席して学習に取り組むことができよう、机を後方に設置し、活動空間を限定する。

6 指導と評価の計画（8時間）		指導上の留意点	評価基準・評価方法
時	学習活動	指導上の留意点	【知識①】 【主①②】 行動と発言の観察
1	○「すうじのうた」を聴き、1～10までの数字があることを知る。	・児童が楽しく数字を知ることができるように、ファイルをめくりながら数字の歌を歌う。 ・見通しができるように、教師が手本を見せる。 ・指名する際は児童の実態を考慮する。 ・主体的に学習に取り組めるように児童が好きな食べ物のイラストを使う。 ・指さして数えるよう言葉掛けを行う。 ・読むことが難しい児童は、教師と一緒に指を動かして数字を数える。	
2	○イラストを見て1～3までの数字を数える。	・教師と一緒に数える活動を入れる。 ・児童が楽しく数字を知ることができるように、ファイルをめくりながら数字の歌を歌う。 ・児童と一緒に数字の読み方や形を確認する。	
3	○ボールを手ですすく、1～3までの数字を知る。	・活動の流れが分かるように、教師がお手本を見せる。 ・重宝が分かるように、数字は見せずに活動する。 ・重宝が分かるように、「これが1だね」などと児童と確認をする。	
4(本時)	○コロコロゲームをする。	・具体物を自分で数える活動を入れる。 ・児童が楽しく数字を知ることができるように、ファイルをめくりながら数字の歌を歌う。 ・児童と一緒に数字の読み方や形を確認する。	
5	○「すうじのうた」を聴きながら、6～10までの数詞と数字の対応をする。	・児童が楽しく数字を知ることができるように、ファイルをめくりながら数字の歌を歌う。 ・児童と一緒に数字の読み方や形を確認する。 ・授業を円滑に進めるため、あらかじめ何種類かの具体物を用意する。 ・指さして数えるよう言葉掛けを行う。 ・具体物を自分で数え、数字を書く活動を入れる。	【知識②】 【主①②】 行動と発言の観察
6			
7			
8			
7 単元に関する児童の実態と手立て			
実態			
児童	知識・技能	思考・判断・表現	手立て
A	・おのおのね1～10までの数字がわかる。 ・教師と一緒に具体物を指さして数えることができる。	・主体的に学習に取り組む態度 ・最後まで授業に参加することができる。 ・教師の様子を見て、意欲的に活動に参加することができる。	・児童が興味をもつような教材を用意する。 ・児童が一つずつ具体物を操作できるように、教材に目印を付ける。 ・視覚的に分りやすいように、数字カードの色の配色を工夫する。

8 本時の指導（4/8時間）		(1) 本時の目標		(2) 各目標に対する個別の目標と手立て																	
B	・1～30までの数唱ができる。 ・具体物一つずつ指さし数えて数えることができる。	・数詞に対応して、1～10までの数字を選ぶことができる。 ・数唱で具体物を操作することができる。	・今日の予定を提示することのできる。 ・教師や友達の様子を見て、活動に取り組むことができる。	・数えやすいくすくするため、視覚的に分りやすい教材を用いる。 ・数えやすいくすくすくする。 ・具体物を数える時に、どこから数えるのか言葉掛けを行う。 ・指さして数えるよう言葉掛けを行う。 ・数字を見えやすいくすくすくするため、黄色と青色の配色にする。 ・ねんど遊び。 ・数えやすいくすくすくするため、視覚的に分りやすい教材を用いる。 ・椅子に就いて、具体物の数を多くしたり、数字を書く活動を取り入れたりする。 ・指さして数えるよう言葉掛けを行う。 ・活動内容が分かるように、指名する順番を2番目にする。	・児童が興味をもつ教材を用意する。 ・活動の見通しができるように、指名する順番を考慮する。																
C	・教師と一緒に数えることができる。 ・1～30までの数字を数えることができる。	・マツチングで数字を選ぶことができる。 ・教師の掛け声に合わせて具体物を操作することができる。	・今日の予定を提示することのできる。 ・教師と一緒に数えることができる。 ・教師や友達の様子を見て、活動に取り組むことができる。	・数えやすいくすくすくするため、視覚的に分りやすい教材を用いる。 ・数えやすいくすくすくする。 ・具体物を数える時に、どこから数えるのか言葉掛けを行う。 ・指さして数えるよう言葉掛けを行う。 ・数字を見えやすいくすくすくするため、黄色と青色の配色にする。 ・ねんど遊び。 ・数えやすいくすくすくするため、視覚的に分りやすい教材を用いる。 ・椅子に就いて、具体物の数を多くしたり、数字を書く活動を取り入れたりする。 ・指さして数えるよう言葉掛けを行う。 ・活動内容が分かるように、指名する順番を2番目にする。	・児童が興味をもつ教材を用意する。 ・活動の見通しができるように、指名する順番を考慮する。																
<p>8 本時の指導（4/8時間）</p> <p>(1) 本時の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体物を操作して数えることができる。 <p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ものの集まりや数詞と対応した数字を選ぶ。 <p>【思考・判断・表現】</p> <p>(2) 各目標に対する個別の目標と手立て</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>児童</th> <th>知識・技能</th> <th>思考・判断・表現</th> <th>手立て</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A</td> <td>・1～3までの具体物を数えることができる。</td> <td>・1～3までの数詞と対応した数字を選ぶ。</td> <td>・数えやすいくすくすくするため、視覚的に分りやすい教材を用いる。 ・数えやすいくすくすくする。 ・具体物を数える時に、どこから数えるのか言葉掛けを行う。 ・指さして数えるよう言葉掛けを行う。 ・数字を見えやすいくすくすくするため、黄色と青色の配色にする。 ・ねんど遊び。 ・数えやすいくすくすくするため、視覚的に分りやすい教材を用いる。 ・椅子に就いて、具体物の数を多くしたり、数字を書く活動を取り入れたりする。 ・指さして数えるよう言葉掛けを行う。 ・活動内容が分かるように、指名する順番を2番目にする。</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>・1～3までの具体物を数えることができる。 ・1～3の数量を理解することができる。</td> <td>・1～3までの数詞と対応した数字を選ぶ。</td> <td>・数えやすいくすくすくするため、視覚的に分りやすい教材を用いる。 ・数えやすいくすくすくする。 ・具体物を数える時に、どこから数えるのか言葉掛けを行う。 ・指さして数えるよう言葉掛けを行う。 ・数字を見えやすいくすくすくするため、黄色と青色の配色にする。 ・ねんど遊び。 ・数えやすいくすくすくするため、視覚的に分りやすい教材を用いる。 ・椅子に就いて、具体物の数を多くしたり、数字を書く活動を取り入れたりする。 ・指さして数えるよう言葉掛けを行う。 ・活動内容が分かるように、指名する順番を2番目にする。</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>・教師と一緒に1～3までの具体物を数えることができる。</td> <td>・1～3までの数詞と対応した数字を選ぶ。</td> <td>・数えやすいくすくすくするため、視覚的に分りやすい教材を用いる。 ・数えやすいくすくすくする。 ・具体物を数える時に、どこから数えるのか言葉掛けを行う。 ・指さして数えるよう言葉掛けを行う。 ・数字を見えやすいくすくすくするため、黄色と青色の配色にする。 ・ねんど遊び。 ・数えやすいくすくすくするため、視覚的に分りやすい教材を用いる。 ・椅子に就いて、具体物の数を多くしたり、数字を書く活動を取り入れたりする。 ・指さして数えるよう言葉掛けを行う。 ・活動内容が分かるように、指名する順番を2番目にする。</td> </tr> </tbody> </table>						児童	知識・技能	思考・判断・表現	手立て	A	・1～3までの具体物を数えることができる。	・1～3までの数詞と対応した数字を選ぶ。	・数えやすいくすくすくするため、視覚的に分りやすい教材を用いる。 ・数えやすいくすくすくする。 ・具体物を数える時に、どこから数えるのか言葉掛けを行う。 ・指さして数えるよう言葉掛けを行う。 ・数字を見えやすいくすくすくするため、黄色と青色の配色にする。 ・ねんど遊び。 ・数えやすいくすくすくするため、視覚的に分りやすい教材を用いる。 ・椅子に就いて、具体物の数を多くしたり、数字を書く活動を取り入れたりする。 ・指さして数えるよう言葉掛けを行う。 ・活動内容が分かるように、指名する順番を2番目にする。	B	・1～3までの具体物を数えることができる。 ・1～3の数量を理解することができる。	・1～3までの数詞と対応した数字を選ぶ。	・数えやすいくすくすくするため、視覚的に分りやすい教材を用いる。 ・数えやすいくすくすくする。 ・具体物を数える時に、どこから数えるのか言葉掛けを行う。 ・指さして数えるよう言葉掛けを行う。 ・数字を見えやすいくすくすくするため、黄色と青色の配色にする。 ・ねんど遊び。 ・数えやすいくすくすくするため、視覚的に分りやすい教材を用いる。 ・椅子に就いて、具体物の数を多くしたり、数字を書く活動を取り入れたりする。 ・指さして数えるよう言葉掛けを行う。 ・活動内容が分かるように、指名する順番を2番目にする。	C	・教師と一緒に1～3までの具体物を数えることができる。	・1～3までの数詞と対応した数字を選ぶ。	・数えやすいくすくすくするため、視覚的に分りやすい教材を用いる。 ・数えやすいくすくすくする。 ・具体物を数える時に、どこから数えるのか言葉掛けを行う。 ・指さして数えるよう言葉掛けを行う。 ・数字を見えやすいくすくすくするため、黄色と青色の配色にする。 ・ねんど遊び。 ・数えやすいくすくすくするため、視覚的に分りやすい教材を用いる。 ・椅子に就いて、具体物の数を多くしたり、数字を書く活動を取り入れたりする。 ・指さして数えるよう言葉掛けを行う。 ・活動内容が分かるように、指名する順番を2番目にする。
児童	知識・技能	思考・判断・表現	手立て																		
A	・1～3までの具体物を数えることができる。	・1～3までの数詞と対応した数字を選ぶ。	・数えやすいくすくすくするため、視覚的に分りやすい教材を用いる。 ・数えやすいくすくすくする。 ・具体物を数える時に、どこから数えるのか言葉掛けを行う。 ・指さして数えるよう言葉掛けを行う。 ・数字を見えやすいくすくすくするため、黄色と青色の配色にする。 ・ねんど遊び。 ・数えやすいくすくすくするため、視覚的に分りやすい教材を用いる。 ・椅子に就いて、具体物の数を多くしたり、数字を書く活動を取り入れたりする。 ・指さして数えるよう言葉掛けを行う。 ・活動内容が分かるように、指名する順番を2番目にする。																		
B	・1～3までの具体物を数えることができる。 ・1～3の数量を理解することができる。	・1～3までの数詞と対応した数字を選ぶ。	・数えやすいくすくすくするため、視覚的に分りやすい教材を用いる。 ・数えやすいくすくすくする。 ・具体物を数える時に、どこから数えるのか言葉掛けを行う。 ・指さして数えるよう言葉掛けを行う。 ・数字を見えやすいくすくすくするため、黄色と青色の配色にする。 ・ねんど遊び。 ・数えやすいくすくすくするため、視覚的に分りやすい教材を用いる。 ・椅子に就いて、具体物の数を多くしたり、数字を書く活動を取り入れたりする。 ・指さして数えるよう言葉掛けを行う。 ・活動内容が分かるように、指名する順番を2番目にする。																		
C	・教師と一緒に1～3までの具体物を数えることができる。	・1～3までの数詞と対応した数字を選ぶ。	・数えやすいくすくすくするため、視覚的に分りやすい教材を用いる。 ・数えやすいくすくすくする。 ・具体物を数える時に、どこから数えるのか言葉掛けを行う。 ・指さして数えるよう言葉掛けを行う。 ・数字を見えやすいくすくすくするため、黄色と青色の配色にする。 ・ねんど遊び。 ・数えやすいくすくすくするため、視覚的に分りやすい教材を用いる。 ・椅子に就いて、具体物の数を多くしたり、数字を書く活動を取り入れたりする。 ・指さして数えるよう言葉掛けを行う。 ・活動内容が分かるように、指名する順番を2番目にする。																		

(3) 本時の展開		指導上の留意点	評価
時間	学習活動		
9:30	○本時の学習について知る。 ・挨拶 ・学習の流れの確認	指導上の留意点	評価
9:40	○「う」のうたを聞きながら、1～5までの数詞と数字の対応をする。 ○ボールを手ですくい、1～3までの数量を知る。 ○コロゲームをする。 ・サイコロを転がして出たイラストの容器を運ぶ。 ・容器のボールを自分のかごに入れる。 ・かごの中のボールを数える。 ・かごの中のボールを一つずつ転がす。 ・ボールがい、くつあるのか数える。 ・同じ数字のカードをホワイトボードに貼る。	<ul style="list-style-type: none"> 具体的な活動内容を示したスケジュール表を提示する。 数字やイラストに注目しやすいうえに、めぐり式のファイルを用意する。 指文字も使えないから数字を読むようにする。 児童が楽しく数字を知ることができるよう、数字を探したりなりぞつたりするよう言葉掛けを行う。 「1すくってみよう」などと問題を出す。 量感が分かるように、数字は見せずに活動する。 量感が分かるように、答え合わせのときは教師がすくった数と同じか確認をする。 教師の様子を見ながら活動できるように、1つずつボールが入ったかごを用意する。 T2、T3は児童がボールを持ったままにいるように支援する。 最初に教師がお手本を見せる。 児童が楽しく活動に参加することができるよう、お腹を空かせたくまに食べさせようという設定にし、サイコロの面には児童が好きな食べ物のイラストを貼る。 容器によってボールの数は変えておく。 かごの中のボールを自分で数え、確認するためにボールを転がすように言葉掛けを行う。 他の児童にも数えてみるよう言葉掛けを行う。 数量が分かるように、ボールが入る筒には印と数字カードをつける。 数えた後はボールの数以外の数字カードを取り外す。 全員で確認することができるように、ボールが入る筒を取り外して見やすくする。 児童が分からないときや迷ったときは、数字の選択数を少なくしたり、マッチング形式にしたりする。 視覚的に分かりやすいように、数字の色を黄色と青色にする。 実態を考慮し、数字をホワイトボードに書く活動を入れる。【H・K】 T2は必要に応じてK・Sと一緒に前に出て、T1の補佐をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 【知技①②】 【忠告表①②】 【主①②】 行動と発言の観察
10:10	○まとめ ・頑張ったこと ・挨拶	※時間をみて、コロゲームの回数を決める。 ※T2、T3は児童の姿勢を正したり、児童がT1に注目するよう促したりする。 ・今日の授業で頑張ったことを伝える。	

【教室の配置図】



《小資料3》

や「これをすれればいいんですね」と発言し、意欲的に学習に取り組んでいる。夏休み前より、足し算の学習に取り組み始めた。児童(K・H)は、集団学習では教師の指示を聞き、教師と一緒に学習に取り組んだり、友達の様子を見て自ら学習に取り組んだりしている。10までの数において、示された数と同じ数のおはじきを容器に入れるような数字と数量を対応させる学習に取り組んでいる。本単元では、答えが5までの足し算の学習をはじめたところである。本単元では、これまでの授業の流れと同様に、授業の導入場面は全体学習で取り組む。その後から2グループに分かれて授業を行う。

(2) 単元について
本単元は、目の前にある具体物を数えて10のまとまりをつくる学習を毎時間取り組む。10のまとまりに着目できるようにすることや数えた数量を数字に置き換え、具体物の数量と数字とが対応できるように促していきたいと考えている。この単元を通して、具体物を操作し、10のまとまりをつくる学習を繰り返すことで10を意識できるよさになったり、10で考えることよさに気づいたりできるのではないかと考えた。「10とあと幾つ」という見方や考え方は、今後の2位数の加法及び減法の学習をするときの基盤づくりでもある。また、10を単位とした見方を養っていく学習は、金銭の理解につながるなど、算数の学習と日々の生活を関連付けるために重要な学習であると考えている。今後の生活単元学習の中で取り組む計画となっている。「1年間の振り返りすごろく」や「販売活動」とも関連させ、これからの学習や生活に活かしていく力を身につけられるようにしていきたいと考えている。

(3) 支援について
(知識・技能)
・10のまとまりを意識できるように、授業の始めに具体物の数を数える(10のまとまりをつくる)学習を取り入れる。
・数量と数字を結びつけられるように具体物の数と数字を確認できるようにする。
・10のまとまりを意識できるように、マグネットシートや解答用のケースに並べられる量は10までにする。
・磁石を操作するとき、「合わせて幾つ」という言葉に統一し、台併に絞って理解を深めたい。

(思考・判断・表現)
・10のまとまりができたことが視覚的に分かりやすいように10のまとまりカードが貼ってある蓋を用意する。
・数の表し方が理解できるように、「10が幾つ、1が幾つ」と書き込めるシートを用意し、書いたシートを読んで確認する。
(主体的に学習に取り組む態度)
・具体物の操作の仕方を混乱しないように、操作はパターン化する。
・意欲的に取り組めるように導入場面では児童の好きなキャラクターの写真やイラストのカードを用意する。

小学部 第6学年 算数 学習指導案

日時 令和6年10月1日(火) 10:30~11:15
対象 小学部6年1組(3名)
場所 小学部6年1組
指導者 佐々木 詩織(T1) 山崎 雄太(T2)

1 単元名
「足し算」

2 内容のまとまり
小学部 算数 知識及び技能 3段階イ(ア)㉔
思考力、判断力、表現力等 A数と計算 3段階ア(イ)㉔

3 単元の目標
(1) 10のまとまりに着目し、1位数と1位数との加法ができる。
(知識及び技能)
(2) 数のまとまりに着目し、数の数え方や数の大きさの比べ方、表し方について考え、学習や生活で生かすことができる。
(思考力、判断力、表現力等)
(3) 算数で学んだことのよさや楽しさを感じながら、学習や生活に活用しようとしている。
(学びに向かう力、人間性)

4 単元について
(1) 児童について
学級の在籍児童は3名で、それぞれの児童に実態差はあるものの、概ね集団の中で周囲に合わせて行動することができている。これまで算数の学習においては、集団学習や個別学習を行っている。これまで、授業の導入とまとめは集団で行い、展開の場面ではそれぞれの課題に合わせてプリントや教材を用いて学習を積み重ねてきた。

対象児童(O・K)は、集団学習では、概ね教師の指示を聞き取り学習課題に取り組むことができている。分らない問題があるときは、友達の見たり、教師が促すとし、分らないところを聞いて解答したりしている。算数の学習に対して意欲的に取り組む一方で、見通しがもてないような初めの課題に取り組むときや答えを間違えたとき、間違いを指摘されたときは、泣いたり怒ったりすることがある。間違えたくないという思いから答えを確認してから解答を記入する場面も見られる。本単元では、プリントで10の合成と分解についての学習している。計算問題では、1位数と1位数との足し算や「10+〇」の足し算に取り組んでいる。数字の下に〇を書いて〇を数唱しながら数えて答える導くことができている。児童(K・S)は、本単元については、一緒に学習をしている。集団学習では、教師の指示を聞き、やることが分かること「分かりました」

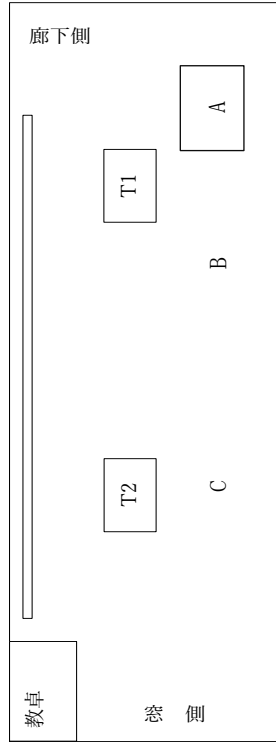
<p>・算数の学習を生活に活かすことができるように、単元終了後の算数では、金銭を扱った学習内容を設定する。</p>			
<p>5 単元の評価標準</p>			
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
① 10のまとまりとして数えている。	① 「10とあと幾つ」という数の見方を考える。② 10のまとまりとして数えることを生活の場面で活用しようとしている。	① 学習したことを用いて計算の仕方を考えようとしている。② 10のまとまりとして数えることを生活の場面で活用しようとしている。	
<p>6 指導と評価の計画（8時間）</p>			
時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
全体	<p>(全体学習)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時の振り返り ・学習内容の確認 ・具体物を10のまとまりとして数える学習をする。「10が幾つ、1が幾つ」なのかを書き出す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容が視覚的に分かるように授業の流れを掲示する。 ・様々な具体物と具体物を10のまとまりにできるような袋や輪ゴムなどを用意する。 ・具体物をまとめた後に、具体物と数詞とが結びつけられるように使用する。 ・具体物は児童が意欲的に取り組めるように、興味関心のあるキャラクターカードなどの写真やイラストのカードを用意する。 	<p>【知①】 【思②】 【主③】 【言④】 【言⑤】</p>
1	○答えが10になる足し算をする。	・最初に教師がお手本を見せたり、磁石の数と一緒に指差しをしなから数えたりする。	【知①】 【思②】 【主③】 【言④】 【言⑤】
2	○「10が幾つ、1が幾つ」なのか確認する。	・10のまとまりができたことが視覚的に分かるように10のまとまりカードを用意する。	【知①】 【思②】 【主③】 【言④】 【言⑤】
3	○「10+〇」の足し算をする。	・10のまとまりカードと磁石を提示する。	【知①】 【思②】 【主③】 【言④】 【言⑤】
4	○「〇+10」の足し算をする。	・10のまとまりカードと磁石を提示する。	【知①】 【思②】 【主③】 【言④】 【言⑤】
5~8 本時 (5)	○和が10以上で20以下の足し算をする。	・10とあと幾つなのかという考え方をすれば計算しやすいことに気づけるような言葉掛けをする。	【知①】 【思②】 【主③】 【言④】 【言⑤】
<p>7 単元に関する児童の実態と手立て</p>			
児童	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
A	<ul style="list-style-type: none"> ・1位数+1位算で和が20までの足し算ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・足し算では、数字の下に〇を書いたり、〇を数唱しながら数えたりして答えを導くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習に取り組むことができる。
B	<ul style="list-style-type: none"> ・10を数量として理解することができるように、10のまとまりを操作し、10のまとまりをつくる学習を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・10とあと幾つなのかを確認し、10のまとまりが幾つなのかを数えたりして答えを導くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・10を数量として理解することができるように、10のまとまりを操作し、10のまとまりをつくる学習を設定する。

児童				<ul style="list-style-type: none"> ・1位数+1位算で和が20までの足し算ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・足し算では、数字の下に〇を書いたり、〇を数唱しながら数えたりして答えを導くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・時間いっばいプリント学習に取り組むことができる。 ・分からないう問題は自分から聞くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・10を数量として理解することができるように、10のまとまりを操作し、10のまとまりをつくる学習を設定する。
B	<ul style="list-style-type: none"> ・10とあと幾つなのかを確認し、10のまとまりが幾つなのかを数えたりして答えを導くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1~5までの具体物を数えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1~5までの数字を見て、その分だけ具体物を取り出すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・10とあと幾つなのかを確認し、10のまとまりが幾つなのかを数えたりして答えを導くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・10とあと幾つなのかを確認し、10のまとまりが幾つなのかを数えたりして答えを導くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の促しや友達の様子を見てやることが分かるように、学習に参加することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・10を数量として理解することができるように、10のまとまりを操作し、10のまとまりをつくる学習を設定する。
C	<ul style="list-style-type: none"> ・10とあと幾つなのかを確認し、10のまとまりが幾つなのかを数えたりして答えを導くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・10とあと幾つなのかを確認し、10のまとまりが幾つなのかを数えたりして答えを導くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・10とあと幾つなのかを確認し、10のまとまりが幾つなのかを数えたりして答えを導くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・10とあと幾つなのかを確認し、10のまとまりが幾つなのかを数えたりして答えを導くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・10とあと幾つなのかを確認し、10のまとまりが幾つなのかを数えたりして答えを導くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・10とあと幾つなのかを確認し、10のまとまりが幾つなのかを数えたりして答えを導くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・10とあと幾つなのかを確認し、10のまとまりが幾つなのかを数えたりして答えを導くことができる。
<p>8 本時の指導（5/8時間）</p> <p>(1) 本時の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体物を10のまとまりと端数に分けて計算することができる。 <p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「10とあと幾つ」という数の数え方を用いて、計算の仕方を考えることができる。 <p>【思考・判断・表現】</p>							
<p>(2) 各目標に対する個別の目標と手立て</p>							
児童	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	手立て			
A	<ul style="list-style-type: none"> ・磁石を10のまとまりと端数に分けて答えを求めめることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・10とあと幾つなのかを確認し、10のまとまりが幾つなのかを数えたりして答えを導くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・10とあと幾つなのかを確認し、10のまとまりが幾つなのかを数えたりして答えを導くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時までの学習を想起できるように前時までの学習の振り返りをする時間を設ける。 ・どうすると計算しやすいのか確認し、10のまとまりをつくることに発問や言葉掛けをする。 ・磁石を数えるときに、「10のまとまりが幾つ、1が幾つ」と書き表せるようにする。 ・前時までと同じように「10のまとまりが幾つ、1が幾つ」と書き表せるようにする。 ・分らないときは、教師と一緒に取り組む。 ・前時までの学習を想起できるように前時までの学習の振り返りをする時間を設ける。 ・どうすると計算しやすいのか確認し、10のまとまりをつくることに発問や言葉掛けをする。 ・磁石を数えるときに、「10のまとまりが幾つ、1が幾つ」と書き表せるようにする。 ・前時までと同じように「10のまとまりが幾つ、1が幾つ」と書き表せるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・10とあと幾つなのかを確認し、10のまとまりが幾つなのかを数えたりして答えを導くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・10とあと幾つなのかを確認し、10のまとまりが幾つなのかを数えたりして答えを導くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・10とあと幾つなのかを確認し、10のまとまりが幾つなのかを数えたりして答えを導くことができる。
B	<ul style="list-style-type: none"> ・10とあと幾つなのかを確認し、10のまとまりが幾つなのかを数えたりして答えを導くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・10とあと幾つなのかを確認し、10のまとまりが幾つなのかを数えたりして答えを導くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・10とあと幾つなのかを確認し、10のまとまりが幾つなのかを数えたりして答えを導くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・10とあと幾つなのかを確認し、10のまとまりが幾つなのかを数えたりして答えを導くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・10とあと幾つなのかを確認し、10のまとまりが幾つなのかを数えたりして答えを導くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・10とあと幾つなのかを確認し、10のまとまりが幾つなのかを数えたりして答えを導くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・10とあと幾つなのかを確認し、10のまとまりが幾つなのかを数えたりして答えを導くことができる。

(3) 本時の展開		指導上の留意点	評価
時間	学習活動		
10:30	(全体学習) ○本時の学習について知る。 ・挨拶 ・キャラクターのカードを数える学習 ・今日の目標 ・学習の流れの確認	<ul style="list-style-type: none"> 学習内容が視覚的に分かるように授業の流れを掲示する。 ホワイトボードに貼られたキャラクターのカードを数え、10のまとまりに分ける。 解答用のケースを用意する。 「10が幾つ、1が幾つ」と書き込めるようにホワイトボードを用意する。 	【知②】 【主②】 行動観察 発言
10:40	○必要な道具を準備する。 ○前時までの振り返りをする。	<ul style="list-style-type: none"> 必要な道具が分かるように写真を提示する。 前時までの学習でやってきたことを教材のホワイトボードを使用して説明する。 前時までの学習で「10と幾つ」という考え方をすると簡単に計算できたことを思い出せるようにする。 	【知①】 【忠判表①】 行動観察 発言
	<ul style="list-style-type: none"> 「9+4」の足し算 式を教材のホワイトボードに書く。 式の上のマグネットシートの上に、磁石を9個と4個並べる。 9個の磁石と4個の磁石を解答用のケースに動かして、磁石を合わせる。 10のまとまりができたら10のまとまりカードで蓋をする。 「10が幾つ、1が幾つ」かを確認しシートに書く。 ホワイトボードに答えを書く。 	<ul style="list-style-type: none"> 式をホワイトボードに書くように促す。 マグネットシートに磁石を並べるときに、数を数えながら並べながら並べたりできているか確認し葉掛けをする。 はじめに10のまとまりをつくるように促す。「10のまとまりを作っていこうね」や「10のまとまりができるね」などと言葉掛けをする。 10のまとまりができるときに視覚的に分かりやすいように10のまとまりカードで蓋ができるようにする。 「10が幾つ、1が幾つ」かを確認しシートに書き、10のまとまりができたら10のまとまりカードで蓋をする。 「10が幾つ、1が幾つ」かを確認しシートに書く。 ホワイトボードに答えを書く。 	
	<ul style="list-style-type: none"> 「8+3」の足し算 式を教材のホワイトボードに書く。 式の上のマグネットシートの上に、磁石を8個と3個並べる。 8個の磁石と3個の磁石を解答用のケースに動かして、磁石を合わせる。 10のまとまりができたら10のまとまりカードで蓋をする。 「10が幾つ、1が幾つ」かを確認しシートに書く。 ホワイトボードに答えを書く。 	<ul style="list-style-type: none"> 1. 問終わるごとに学習シートに花丸シールをつけ、達成感を味わえるようにする。 学習が終わったら学習シートに、花丸シールを貼り、次回への意欲につなげる。 児童が混乱しないように「合わせて幾つ」という言葉に統一する。 	
	<ul style="list-style-type: none"> 「7+6」の足し算 式を教材のホワイトボードに書く。 式の上のマグネットシートの上に、磁石を7個と6個並べる。 7個の磁石と6個の磁石を解答用のケースに動かして、磁石を合わせる。 10のまとまりができたら10のまとまりカードで蓋をする。 「10が幾つ、1が幾つ」かを確認しシートに書く。 ホワイトボードに答えを書く。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の学習でやったことを振り返る。 	

	(K・H) ○和が5までの足し算 ・式を教材のホワイトボードに書く。 ・式の上のマグネットシートの上に、磁石を数詞に対応した数だけ並べる。 ・磁石を解答用のケースに動かして、磁石を合わせる。 ・ホワイトボードに答えを書く。 ※時間いっぱい同じ流れで、複数の問題に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> 式をホワイトボードに書くように促す。 マグネットシートに磁石を並べたら、数があっているか確認する。 正解したら称賛し意欲につなげる。 1. 問終わるごとにiPadで終わった問題を確認して、終わったことが分かるようにする。 児童が混乱しないように「合わせ」 	
11:05	○片付け ・プリントをファイルに挟む。 ・操作課題セットを片付ける。 ○挨拶 ・ファイル、操作課題セットを所定の場所に片付けるように促す。	【知①】 【忠判表①】 行動観察 発言	
11:05	○片付け ・プリントをファイルに挟む。 ・操作課題セットを片付ける。 ○挨拶	<ul style="list-style-type: none"> ファイル、操作課題セットを所定の場所に片付けるように促す。 	

【教室の配置図】



(3) 中学部グループ

ア 中学部について

令和6年度の中学部の在籍生徒の教育課程と人数は以下の通りである。

教育課程	病弱・肢体不自由学級		知的通常学級				重複障がい学級	
	3	計	1	2	3	計	3	計
学年	1	1	2	2	3	7	1	1
人数	1	1	2	2	3	7	1	1

入学年度により、人数や教育課程にばらつきがあるが、基本的に知的通常の生徒が多い。

学部全体や学年単位、習熟度別のグループ学習などさまざまな方法を用いて学習活動を行っている。

- ・学級活動を中心に、個別学習、習熟度別グループ学習など集団での学習や活動を設定している。
- ・病弱・肢体不自由学級に関しては、教育課程に生活単元学習と作業学習がないため、行事（学習発表会や作業製品販売会など）に参加する際は、総合や特別活動の時数としてカウントしている。

イ 研究の概要

中学部グループの今年度の研究では、作業学習の家庭班に焦点をあてた。特に調理の作業における製品開発・改良、生徒が一人で作業を進めるための教材の工夫などについて検討を行った。

(ア) 研究の目的

- 作業学習における生徒の実態把握と配慮事項について共通理解を図る。
- 生徒を学習の目標に近づけるための、効果的な教材の検討及び開発を行う。

(イ) 研究計画

研究日	内容
第1回（5月20日）	・今年度の概要、計画。
第2回（6月18日）	・全体で今年度の概要、計画の確認。 ・作業ごとに前期実習での生徒の様子や課題、製品について振り返り、まとめる。（各作業班で）
第3回（7月25日）	・作業学習、家庭班の生徒の実態と課題について意見交換。 ・後藤副校長から助言をいただく。
第4回（8月19日）	・作業製品ワークショップ ・みんなで後期の作業製品（食品）を作り、試食&検討する。
第5回（9月19日）	・みんなで紙工班の製品を作ってみよう！ 作りながら改良点や工夫点、新商品開発などを出し合う
第6回（10月23日）	・全校授業研究会に向けて、指導案検討会
第7回（11月18日）	・全校授業研究会への授業提供予定の指導案検討と協議
全校授業研究会（12月17日）	・授業提供

(ウ) 研究の方法

a 生徒の実態把握

- ・前期実習後、作業班ごとに実習での振り返りを行う。一人一人について、実態を確認し、課題となる点について話し合っ、今後の作業の方針などについて検討。
- ・家庭班の生徒に絞って実態と課題について検討を行う。

b 製品の課題と検討

- ・家庭班の生徒の実態を踏まえつつ、その他条件（時間や道具などの制限）内で作ることのできる製品の検討。
- ・製品検討会の際に出された製品案の中から、3点を候補にあげ、グループメンバーで実際に制作、試食して改善点などを出し合う。
- ・紙工班についても、実際にグループ内の職員で紙すきを行い、紙すきの工程を知ってもらった上で、改善点や紙自体の規格の意見を出し合う。
新製品についてもアイデアを出し合っ、て検討を行う。

c 全校授業研究会

- ・グループ内で出された案なども取り入れながら、よりよい授業の検討を行う。
(指導案検討)
- ・全校授業研究会の提供授業として、他の学部職員からも意見をもらう。
(詳細はVII6-(4) 全校授業研究会の項)

ウ 研究の経過

(ア) 生徒の実態把握と課題

a 家庭班

- ・作業内容が刺し子と調理の2種類あるため、それぞれに関する実態と課題について共通理解した後、考えられる支援について検討を行った。※詳細は《中資料1》
- ・生徒のスキル以外の施設設備や使用器具に関する課題があり、生徒が作業学習に取り組む前段階での困難さもあつた。
- ・実態差が大きく、作業課題の難易度の設定が難しかった。

《中資料1》

★どうぶチップス		★ホットケーキ			
生徒	A	B	C	D	
担当職員	【前期】 ①	【前期】 ②	【前期】 ③	【前期】 ④	
実態 (普段の様子、実習の様子など)	<ul style="list-style-type: none"> 家庭班1年目 職員の手本を見て真似するようにすることで、豆腐潰しや、生地伸ばしに取り組みることができる 電子レンジの操作は、スタートボタンの操作のみ チップスを割るときは、大きいサイズのまま袋に入れて、袋の中で割っている 食器洗いは、最低限できるが、職員の仕上げが必要 基本的に作業は、てんかん発作対策のため背もたれつきのイスに座って行っている 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭班3年目 (RS)の調理では、クッキーの型抜きに取り組んだ 教師と一緒に手際表を吟んで取り組むことができる 【一人で取り組んでいる活動】 マッシャーを使って豆腐を混ぜる(両手を使っている) 電子レンジのスタートボタンを押す 袋のテープをはがす 洗い物を流しまで運ぶ 【教師と一緒に取り組んでいる活動】 豆腐を潰す 生地を伸ばす 【教師が行っている活動】 塩や青のり計量 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭班1年目 調理の基本的な技術が身に付いて、手際も良い(家庭でも時々手伝っている) →生地を混ぜ時間用タイマーと焼き時間のタイマーを同時に使うことができる 調理の工程を楽しむことができる 視覚的に量の多い少ないを判断できる 横口おたまを使って、生地をこぼさずに皿に入れることができる 注意、指摘を受け入れることが苦手だが、調理の時は比較的素直 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭班1年目 取り組みながら、自分なりに工夫することができる 「良も悪も、活動中に取り組み方が変化する 	
課題 (教材教具、動線、場の設定など)	<ul style="list-style-type: none"> ゴム手袋を付けることが難しく、時間がかかる 豆腐を潰す力が弱いのが、最初に職員がどの程度潰すと良いか手本を見せると改善される 生地をクッキングシートの上に薄く広げる工程が難しい 手洗いで、石鹸が流されていないことがあるため、チェックが必要 白衣着用時に時間がかかる →黄緑衣の状態(ボタンをつけた状態)で準備する 	<ul style="list-style-type: none"> 衛生面 (入浴や洗顔、歯磨きが習慣化されていない様子) 基本的な力が弱い 力加減が難しく、チップスを細かく割りすぎてしまう 袋詰め作業が難しい 	<ul style="list-style-type: none"> デジタル量りを使用して、数値ピッタリの計量をする デジタル量りの数値を見て、量を増やしたり減らしたりの調整をする 	<ul style="list-style-type: none"> 作業内容で遊んでしまうことがある(そして、失敗することもある) デジタル量りを使用して、○g～○gの範囲で調整する 味の種類を増やし、工程を増やす 	
考えられる支援	<ul style="list-style-type: none"> 生地を薄く広げるために →①生地の上にキッチンペーパーを乗せて、綿棒で伸ばす ※6/19実施 ◎薄くのばせた △一方方向に動かすと、クッキングシートからはみ出してしまう ②①の状態でローラーを使って伸ばす 	<ul style="list-style-type: none"> チップスを割る方法 →板や重りなどで上から押しつぶす(7.24追加) 			
共通の検討事項	【前期】 シリコン製のゴムの匂いや、食器洗剤の香りが商品についてしまう →洗剤などを変えて解決済み *洗い物まで行くと、2人の活動量は丁度良いが、さらにレベルアップすることもできそう		【前期】 シリコン製のゴムの匂いや、食器洗剤の香りが商品についてしまう →洗剤などを変えて解決済み *洗い物まで行くと、2人の活動量は丁度良いが、さらにレベルアップすることもできそう		

b 紙工班

- それぞれの作業工程のパターンや手順を明確にして、落ち着いて取り組んでいる。教師からの促しもあるが、自ら取り組むことが増えた。
- 一つの製品を作るための工程を分業で行っているため、一体感はあるが作業の効率やスピードに差があるため、流れが滞ることがある。※詳細は資料2
- 実態差が大きいため安全に作業工程を行えるか、また、課題の難易度設定が難しい。

作業行程	パルプ液づくり	紙すき	プレス	アイロン
担当	【前期】 (T) A	【前期】 (T) B	【前期】 (T) C	【前期】 (T) D
実態 (普段の様子、実習の様子など)	<ul style="list-style-type: none"> ①小カップに紙を入れる →概ねできるが、紙をこぼすときがある。 ②水を計量カップの黄色い線まで入れる →黄色い線より少ないときは気付いて増やせるが、多いときは自分での調節が難しい ③花紙を入れる →できている ④ミキサーをかける →蓋の開め方が甘いときがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○紙すきの手順を覚え、ほぼ一人で進めている。 ○物の名前がうろ覚えのときがある。 ○自信のないところは報告できないときがある。 ○紙の厚さを大体把握できるようになり、抜く水とパルプ液の杯数を職員と一緒に相談して判断できるようになってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○2年生から取り組んでいる内容なので、一連の流れが分かる。 ○自分の仕事が何か、何をするのか分かる。 ○物の名前が分かる。 ○プレス機のハンドルを回すことが好き。 ○やる気にムラがある。 見通し・視覚化したことで落ち着いてきた。(休憩がいつあるのか) ○シンプルな指示、単純作業だと分かる。 ○タオルの角を合わせてたたむことができる。(タオルたたみ) 	<ul style="list-style-type: none"> ○道具の準備、アイロンがけの手順を大体覚えた。 ○アイロンの掛け方も「丁寧に優しく」を意識して取り組んでいる。 ○自分で乾き具合を確認し、報告できるようになった。 ○プレス後の紙が届いたときに「ありがとございました」と言えるようになった。 ○頑張りシールを楽しみ・励みに頑張ることができている。 ○足が辛いときや疲れたとき促せば休憩を取ろうとする。

<p>課題 (教材教具、動線、場の設定など)</p>	<p>○計量の作業場所を真ん中の作業机から窓側に変えたことで、周りを気にせずに作業ができるようになってきた。 ○水の計量方法を見直す →計量カップ使用ではなく、大カップで既定の量を入れる。</p>	<p>○物の名前を記しておく。 ○自信のないことでも報告することを覚える。 →「○○のときは～すると良い」のように困ったときの対処法パターンを示しておき、慣れてきたら自分で相談・報告できるように促す。 ○紙の厚さに対しての抜く水とバルブ液の杯数を自分で考えられるように、見本画像や杯数例を示す。 ○タオルやスポンジの交換タイミングを決める。</p>	<p>○スポンジを置く場所が分からない。 →印をつけた方が良い。 ・スポンジを置く場所が分かるように白布を小さくする。 ○準備に気持ちに向いておらず、イラストで示していても自分で進められない。 ○網取り→白布の処理が雑。製品の出来栄にも関わるので、丁寧に取り組みたい。 ○場所が狭いかもかもしれない。 →工程ごとに移動しても良いかも。</p>	<p>○実習中・作業中は静かに取り組むことを目標に頑張っているが、長い時間だと集中力が切れてアイロンの扱いが難しくなってしまう危険な面がある。 ○担当職員が変わったときにも落ち着かない時があるので必ず安全確認が必要。 ○アイロンの作業位置を壁に体を向ける位置に変えてから集中力が増した。 ○言葉遣いが難しいときがある。依頼するときのパターンを提示する。 ○元気なときと疲れたときの休憩の取り方を確認する。(一定枚数アイロンがけしたら○分休憩等)</p>
--------------------------------	--	--	---	--

(イ) 製品の課題と開発について

a 家庭班

- ※家庭班前期の製品：ネコちゃんホットケーキ・豆腐チップス（調理）、刺し子
- ・第3回の研究日には後期の調理の製品開発について話し合った。内容は次の通り。
 - ・研究日に話し合った内容については次の通り。（調理のみ抜粋）

<p>課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・力加減が難しい。（豆腐チップス） ・デジタル量りでの計量（ホットケーキ） ・ホットケーキの型の匂いが移る。（ホットケーキ） ・袋に詰めて販売するとパリッと感がなくなる。（豆腐チップス）
<p>製品の条件</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日持ちするもの（前日調理） ・予算 ホットケーキ：原価100円⇒売値150円 豆腐チップス：原価60円⇒売値80円 ・調理時間 40分～50分 ・味変しやすいもの ・しょっぱい系と甘い系の2種類
<p>新製品案</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・クッキー（粉チーズ、アイスボックス、ドロップクッキー） ・梅シロップ ・焼き肉のたれ ・綿あめ（飴玉で） ・グラノーラ・マシュマロ・チョコを製氷皿で固めたもの ・炊飯器ケーキ ・ずんだ

試作① 新ネコちゃんホットケーキ	【ホットケーキを薄く焼いて間に具を挟む(あんバター、魚肉ソーセージ、ハムチーズマヨ)】 ・返しや一定量入れるための支援具はどうするか。 ・あんこやバターを塗るための支援具はどうするか。 ・量が多い。一口サイズにできないか。 ・具が安定しない、食感や味が変化する。
試作② 炊飯器ケーキ	【ホットケーキミックスを使って炊飯器でチョコレートケーキ】 ・混ぜて炊飯器に入れるだけでは簡単すぎるのではないか。 ・パサパサ、しっとりなどムラがある。
試作③ クッキー	【型抜きクッキー(プレーン、チーズ、ごま、)】 ・生地を等分するための支援具はどうするのか。 ・綿棒で薄く延ばすための支援具はどうするのか。



新製品候補
炊飯器ケーキ
ネコちゃんホットケーキ

- ・新製品をさらに改善するために、全校職員に試食してもらいアンケートを取った。炊飯器ケーキは生クリーム、ホイップを入れて作った物、ホットケーキの方は魚肉ソーセージを入れたアメリカンドック風とハムとマヨネーズを挟んだ物の、それぞれ2種類試食してもらい感想をもらった。

炊飯器ケーキ(生クリーム)

- ・しっとり上品な感じ。好き。
- ・ホイップより生クリームの方が密度が濃かった。
- ・濃厚で美味しかった。もう少し甘さをおさえるといい。1個どのくらいで売るのがかということもあるが、1個食べきれぬ甘さがいい。
- ・生クリームの方は見た目が美味しそう(きれい)と思いました。味はしっとりめで美味しいと思いましたが、ちょっとポロポロしました。
- ・生クリームの方がしっとりしておいしかったです。ありがとうございました。
- ・生クリームの方が生地がしっとりしておいしかったです。甘さもちょうどいいと思います。
- ・なめらかで美味しかった。
- ・しっとりしていて美味しい。しっとり感があって美味しかったです。
- ・生クリームの方のしっとり感が好き。
- ・しっとり、きめも細かくできていると思います。
- ・しっとりしている。なめらか。
- ・どちらも美味しいが、生クリームがしっとりしていて良かった。
- ・どちらも美味しかったです。生クリームの方がしっとりしている印象でした。ごちそうさまです。
- ・パサッとしてポロポロする。少し粉っぽさも…
- ・チョコを感じる。

炊飯器ケーキ（ホイップ）

- ・ホイップの方は甘さが強めで美味しかったです。ボロボロしにくい感じがしました。
- ・ホイップは食べる時にボロ…美味しいのでまとまるのであれば
- ・パサッとしている感じはするが、軽く食べられるかも。
- ・しっとりしている。ちょっと甘く感じる。←ホイップの方が好き
- ・生クリーム入りの方を食べた後に食べたので、少しポサポサしているかなと思いましたが、こちらだけ食べたら美味しいと思います。
- ・味は悪くありませんが生クリームと比べるときめが粗く、パサパサ感がありました。
- ・うるおい○
- ・ちょっとパサパサしている。麩菓子のような味がした。

ホットケーキ（アメリカンドック風）

- ・マヨはあまり感じられず、生地とハムの一体感が足りないかなと。
- ・アメリカンドック風波新しい感覚で食べられる。1個食べるのは量多め。
- ・生地が少し重く感じた。味はアメリカンドックを感じて美味しかった。
- ・ケチャップがあつてよかった。生地がしっとりめだった。
- ・ごちそうさまでした！食べ応えがありました。アメリカンドック風は中に魚肉ソーセージが入っていてビックリしました。ケチャップの味も生地にあつていて、美味しく食べました。
- ・たこ焼きの機械だと1個ずつ入れて魚肉ソーセージを感じてケチャップで食べやすいのかもと思いました。（もしくは中にケチャップを入れるとか）ハムマヨよりしっとりして食べやすい感じがしました。
- ・ケチャップを付けると本当にアメリカンドック感が増して美味しかったです。ソーセージの味も感じました！

ホットケーキ（ハムマヨ）

- ・マヨが感じにくかった。生地に入っているのでしょうか？美味しかったです。
- ・もう少しマヨを感じたいかも。中に入れ込むタイプだと作るのが大変かもですが…見た目としっとり感を感じそうです。
- ・生地にマヨ？練りこむ？ハムマヨ感がもっと欲しい！！と思いました。ごちそうさまでした。
- ・ハムマヨはサンドな感じだとちょっと食べづらいのでマヨ感は薄かったです。
- ・マヨはあまり感じなかった。時間が経つとハムが乾燥する。
- ・ホットケーキの生地が甘いので、塩気のあるハムマヨの方が合うと思いました！ハムが薄いので生地が薄めの方が合いやすいのかもしれない。
- ・口の水分が持っていかれる感じがありました。
- ・どちらもあまり変わらない気がします。ホットケーキの味でした。



新製品
炊飯器ケーキ
アメリカンドッグ風たこやき



b 紙工班

※紙工班の製品：ポチ袋、メッセージカード、コースター、メモ

・第5回の研究日には新製品開発について話し合った。内容は次の通り。

課題	<ul style="list-style-type: none"> ・紙の規格に合わせた商品の開発。 ・アイロンに代替できるもの補助具はないか。 ・はさみは使えるが決められた線に沿って切るとは難しい。
製品の条件	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が安全に実施できるもの。（実態差が大きくなってきているため。）
新製品案	<ul style="list-style-type: none"> <li style="width: 50%;">・カレンダー <li style="width: 50%;">・ランチョンマット <li style="width: 50%;">・油吸いとるゾウ <li style="width: 50%;">・レターセット <li style="width: 50%;">・ガーランド <li style="width: 50%;">・クリスマスカード <li style="width: 50%;">・コサージュ <li style="width: 50%;">・箸袋
試作品	カレンダー



新製品候補
カレンダー

※前年度の3年生が卒業制作でカレンダーを作っており、担当教員からの指導をいただいた。また、前任校で制作した経験のある先生に教えていただきながら、試作を重ねた。その後、紙すきの規格（145×175mm）に合うもの、安定して使用できるものとして、下記のカレンダーの形を考案。



新製品
カレンダー



(ウ) 全校授業研究会への取り組み (詳細はVII6-(4) 全校授業研究会の項)

日時	内容・経過
第2回研究日 6月18日	・作業班ごとに前期実習での生徒の様子や課題、製品について振り返り、まとめる。
第3回研究日 7月25日	・グループ内で家庭班の生徒の実態と課題について意見交換。 ・後藤副校長から助言。
第4回研究日 8月19日 ワークショップ	・後期作業製品候補を試作し、試食検討を行う。 (ネコちゃんホットケーキ、炊飯器ケーキ、クッキー)
第6回研究日 10月23日 指導案検討	・後期家庭班(調理)の授業の指導案検討会 ・対象生徒の実態 ・支援具について
第7回研究日 11月18日 授業検討会	・提供授業予定の場面の動画視聴。 ・指導案についての協議
全校授業研究会 12月17日	・授業提供

エ 研究の成果と課題

(ア) 研究の成果

今年度は合わせた指導である作業学習に焦点を当てて研究を進めた。特に家庭班の調理活動での製品開発や生徒が一人で作業を進めるための支援具などについて話し合った。

これまで家庭班では刺し子と調理の2本柱で作業を進めていたが、令和2年度からのコロナ禍においてしばらく中断していた。そのために、調理のノウハウや受け継がれてきた流れが途絶えてしまった。コロナの5類への移行を機に再開したが、手探りで進めてきた状態である。また中断していた間に校舎移転もあり環境が変わり、生徒の実態も変わったこともあり、一から作り上げなければならない状況にあった。

今回の研究を通して、幅広い意見をいただき、新製品として炊飯器ケーキとアメリカンドッグ風たこやきを商品として売り出すことができた。生徒の実態や課題に応じて教材を作成し、現在は1ページに1工程を載せた製造工程表「めくりカード」を使用し、安定した作業を行っている。

(イ) 課題

今年度は作業学習に焦点を当て、研究を行ったが、今後、原材料の高騰や、生徒数の減少、実態差が大きくなっていくことが予想される。そのため、新製品の開発だけでなく、現在の製品に対してのブラッシュアップが必要となってくる。現在までのノウハウを受け継ぎ、より良い物をお金に生徒が主体的に行える作業工程がや支援具が必要となってくることを予想される。

(ウ) まとめ

今後、小学部の生活単元学習、中学部の作業学習、高等部の職業分野の作業学習といった縦のつながりをもった学習活動を今後深めていく必要がある。中学部段階としては、作業内容の質を高めていくことよりも、働く意欲やお金を稼ぐといった部分を教員側からアプローチすることが必要になってくると考えられる。製品開発や既存の製品をブラッシュアップする段階から、生徒とともに実施していくことが主体的で対話的な深い学びにつながるのではないかと考える。

(4) 高等部グループ

ア 高等部について

令和6年度の高等部の在籍生徒の教育課程と人数は以下の通りである。

教育課程	病弱・肢体不自由学級		知的通常学級				重複障がい学級	
	3	計	1	2	3	計	3	計
人数	1	1	3	6	5	14	1	1

病弱・肢体不自由学級、重複障がい学級とも在籍数が少ない。病弱・肢体不自由学級は、教師と一対一、重複障がい学級は個別の学習が主となっている。知的障がい学級は、年度により在籍数にばらつきがある。今年度は生徒数の減少に伴い、国語、数学、作業班、特別活動の委員会の数を減らし対応している。以下は教科や行事による学習グループの組み方である。

●病弱・肢体不自由学級 ○知的通常学級 ◆重複障がい学級

イ 研究の概要

高等部グループの研究では、病弱・肢体不自由学級と知的通常学級を対象に、前年度の課題について検討を行いながら、ICTの活用について研究を進める。重複障がい学級の研究については、自立活動グループでの検討とする。

(ア) 研究の目的

- 生徒の実態についての共通理解を図り、学習の目的を達成できるような教材の検討を行う。
- 生徒の情報リテラシーの理解を促すための、情報モラル研修会の内容を検討する。

(イ) 研究計画

研究日	内容
第1回（5月16日）	グループのメンバーの確認、研究の概要説明、研究計画など
第2回（6月18日）	研究計画（学部）、生徒の実態
第3回（7月25日）	生徒の実態把握
第4回（8月21日）	情報モラル研修会の内容について
第5回（9月19日）	授業で使用するアプリについて
第6回（10月23日）	全校授業研究会指導案検討
第7回（11月25日）	全校研究授業の振り返り
全校授業研究会（12月19日）	2年1組 生活単元学習「修学旅行に行こう」

(ウ) 研究の方法

a 生徒の実態把握

- ・「いわての情報活用能力体系表例 各校種（小学校・義務教育学校前期）」を使って生徒の実態を把握し、情報を交換、共有する。

b ネットリテラシーについて

- ・生徒を対象に年3回実施している情報モラル研修会の内容を検討する。

c 全校授業研究会

- ・グループ内で出された案なども取り入れながら、よりよい授業の検討を行う。
(指導案検討)
- ・全校授業研究会の提供授業として、他の学部の職員からも意見をもらう。
(詳細はVII-7 全校授業研究会の項)

ウ 研究の経過

(ア) 生徒の実態把握

a 生徒の傾向

- ・おおよその生徒がキーボードで文字入力をする、検索サイトでキーワード検索をすること、写真撮影や動画撮影、再生をすることができる。
- ・半数の生徒がペイントソフト、学習支援ソフト等を操作することができる。
- ・おおよその生徒が約束を守ってコンピュータ等を使用しようとしている。
- ・半数の生徒は情報をやり取りする時のルールやマナーを守ってネットワークを使おうとしている。
- ・半数以上の生徒がファイルの呼び出しと保存ができない。
- ・半数以上の生徒はコンピュータ等が与える心身の影響を理解できていない。
- ・インターネット上は、ルールが必要であると理解できていない生徒が多い。

b 課題

- ・基礎的な操作ができていない。
- ・パソコンに対応できていない。
- ・企業から Word や Excel を操作できるかと聞かれることがあり、パソコンをもっと教えてほしいと要望されることがある。
- ・卒業後も iPad を使うことができるようなアプリを使う方が実用的ではないか。

(イ) ネットリテラシーについて

インターネットや SNS の使い方のマナーやルール、インターネットや SNS によるトラブルを防止することを学ぶことを目的として情報モラル研修会を実施している。4月と7月の情報モラル研修会で扱った内容は以下のとおりである。

年度始め (4月)	SNSについて(自分の気持ち、相手の気持ち、ゲームと付き合い方、携帯電話持ち込みのルール、スマホ・ゲームの使用時間、通信機能のあるゲームの使用について)
夏季休業前 (7月)	スマホ・ゲーム使用時のルール、ネット依存、ながらスマホ、SNSについて、フィッシング詐欺

学部全員が対象だが、生徒の理解度に差があり、内容の理解が難しいため、冬季休業前に実施する研修会の内容等について検討した。大切なことは繰り返し取り上げた方がよい、身近な事柄を取り上げてはどうかという意見が出された。「情報モラル＝日常モラル」ということへの理解を促したいと考え、以下のことについて、学年ごとに話し合いを行った。

- ・グループに嫌な人がいたら、どうしますか。
- ・SNS グループに嫌な人がいたら、どうしますか。
- ・グループから外すされたら、あなたはどう思いますか。
- ・グループから外すことはいじめですか。
- ・グループに嫌な人がいると思うことはいじめですか。
- ・グループから抜けることはいじめですか。
- ・情報モラルと日常のモラルに違いはありますか。

a 成果

- ・困ったときの実例を挙げて、どうすべきかについて考えられたこと。
- ・ルールやモラルについて生徒一人一人が意見を出せる機会がよかった。
- ・意見をもっている生徒が発信することができた。
- ・学年を超えたグループに分かれて、意見を出し合えたこと。
- ・SNS 関連の道徳的な授業がよかったと思う。生徒によって考え方がさまざまあったり、テーマの中で見方や立場を変えてみると考え方が変化したりするなど、考える時間、人の意見を聞く時間が、とてもよかった。

b 課題

- ・LINEの「ブロック」機能については、スマホを持っていない生徒はイメージが湧かないようだった
- ・SNSの内容が全て正しいわけではないということを確認する時間があるといいと思った。
- ・生徒の実態差が大きいことで指導内容の設定が難しいのではないかと感じる。普段のICT活用頻度や能力に応じて、グループ分けして内容を変えてもよいかもしれないと思った。
- ・高等部のきまりになっている課金や通信でのゲーム対戦など、「高等部のきまり」に合わせて情報モラルで扱ってもいいと思う。
- ・研修という形ではなく、各学級の特別活動等の時間などを活用し、学校生活のきまりなども個に応じてお願いしたい。
- ・学校でのiPadの使い方のルール等を全体で確認する時間があってもよいと思った。

(ウ) 全校授業研究会への取り組み (詳細はVII6-(5) 全校授業研究会の項)

日時	内容・経過
第5回研究日 9月19日 ・アプリについて	<p>【アプリ「Pages」について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・iPadに入っている文書作成アプリ。さまざまなテンプレートがある。 ・「セールちらし」のテンプレートを生徒が考えた項目に合わせ様式を変える。 ・検索したことをコピーして挿入できる。 ・結団式でも使えるようにフォーマットを横書きにしてはどうか。 ・しおりにQRコードを入れてもいいのではないかな。
第6回研究日 10月23日 ・指導案検討	<p>【2年1組の生徒の実態について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活経験に大きな実態差があり、書字や文章を書くことが苦手な生徒がいる。 <p>【対象生徒の実態について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゲームをすること、ゲームの話をすることが好き。 ・iPadを使う活動、学級で取り組む活動を好む。 ・役割を多く分担すると意欲的に取り組む。 ・生活経験が少なく、経験の少ないことに取り組むのが苦手である。 ・決まったこだわりがあり、こだわりを変更されるのが苦手である。 ・iPadを活用することで、興味をもって意欲的に学習に取り組んでほしい。 <p>【指導案検討 単元名「修学旅行に行こう」】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現段階では情報モラルを理解するという目標は難しいのではないかな。 ・iPadの使用状況、使用に関する生徒の実態をもっと書き入れた方がよい。 ・旅行中のスマートフォンやiPad使用についてのルールにも触れた方がよい。
第8回研究日 11月25日	<p>【研究授業の振り返り】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・iPadの基本操作を確認する時間が必要。単元外で取り組んでおけばよかった。 ・紙の情報も合わせていけばいいと思った。 ・Pagesの入力前に自分の調べる場所を勉強する時間があってもよかった。「調べる時間」と「入力する時間」で分けると中身が充実したのではないかな。 ・調べる内容はそれぞれだが、「修学旅行」に向けた学級での一体感があった。 ・書くと時間がかかる生徒もpagesの活用により「調べる」「しおりをつくる」活動に集中できた。 ・その時だけでなく、次につながる(しおりと結団式)使い方をしたことで、生徒の学習にもつながりができたのではないかな。 ・アプリの確認や指導案検討の際に、実際にアプリを使ってみる時間を もっと とればよかった。 ・教材を活用したら、対話が増え、深い学びにつながるなど、そのような教材を活用していけばいいと思った。

エ 研究の成果と課題

(ア) 研究の成果

今年度は生徒の情報活用能力についてグループ内で確認し情報交換を行った。日常的に行っているネット検索、写真撮影や動画撮影、再生をすることができるが、基本的な操作が十分に身に付いていない、インターネット上はルールが必要であると理解できていない生徒が多いことが分かった。生徒に身に付けてほしい情報活用能力について考える機会になった。

研究授業で使用するアプリについて意見交換を行った。使いやすいアプリについて情報を共有することができ、同じアプリを他の授業でも応用して使ったり（資料1）、iPadに内蔵されているアプリを使ったりする（資料2）など、iPad活用の幅を広げることができた。

(イ) 課題

ICTの活用にあたり、生徒に一台ずつ配付されているiPadについて、基本的な使用方法の理解が十分ではないということが課題として挙げられる。生徒、職員ともに、iPadの基本的なアプリ（safari、YouTube、Pages等）の使い方やキーボードの入力等の基本的な操作に取り組むことが必要である。日常的にiPadに接する機会や時間が少ないことも要因であると考えられる。iPadの移動は職員が行う等のルールは守りながら、もっと気軽にiPadを利用できる手立ても考えていきたい。

ネットリテラシーについては、各学級でも取り組んでいる。今回挙げられた情報モラル研修会の課題とともに、どの場面で、何を取り上げるのか整理することが必要である。また、国語の教科書として採択している「くらしに役立つ国語」が改訂され、取り扱う内容がより具体的になった。生徒の実態に応じて年間指導計画に盛り込むことで、情報リテラシーの内容を取り扱うことができ、iPadに触れる機会を増やすこともできると考える。

「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業づくり、授業改善を十分に行うことは難しかったが、学習の目的を達成できるような教材を検討し、卒業後の生活にもつなげていくことができるようなICTの活用につなげていきたい。

<資料1>

授業計画シート

学部	高等部	学級	国語	段階 主に	国語 1	段階	授業 時数	70 時間	授業者	千田一輝
目標	知識及び技能		社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。							
	思考力、判断力、表現力等		社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。							
	学びに向かう力、人間性		言葉がもつよさを認識するとともに、言語感覚を養い、国語を大切にその能力の向上を図る態度を養う。							
単元名	体験したことを文章にまとめよう									
単元目標	関連する教科	内容のまとめり			単元目標					
	国語・中	B書く2-ア			・相手や目的を意識して、見聞きしたことや経験したことの中から書くことを選び、伝えたいことを明確にすること。					
	国語・高	知技1-ア(ウ)			・漢字と仮名を用いた表記や送り仮名の付け方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点の使い方を意識して打つこと。					
対象児童生徒の実態	児童生徒番号	好きなこと 嫌いなこと	言葉に関すること	数に関すること	作業面に関すること	その他（認知面など）				
	1	動物の世話 植物の世話 ものづくり	自分の考えや気持ちを長文で書く。漢検8級程度の漢字の読み書きができる。	筆算で3桁の加法・減法の計算ができる。時計を読むことができる。	確認しないで作業を進めることがあるが、手順を理解して作業ができる。					
	2	本を見ること	1日の出来事を2語文程度の文章にすることができる。書字に時間を要する。	筆算で3桁の加法・減法の計算ができる。時計を読み、簡単な時間の計算ができる。	指示理解に時間を要するが、手順を理解することができる。ゆっくり、丁寧に作業を行う。	発音が不明瞭。				
	3	YouTube視聴 伝統芸能鑑賞	日常の出来事を3語文程度でまとめることができる。小1程度の漢字の読み書きができる。	筆算で2桁+1桁の計算ができる。短針の読み間違えもあるが、アナログ時計を読むことができる。	手順を理解すると集中して作業を行う。シール貼りが得意。					
	4	読書 空想の物語について話すこと	小学校5年生程度の漢字の読み書きができる。	二位数の筆算ができるようになってきている。	簡単な手順の作業内容が分かり、黙々と取り組む。					
	5	YouTube視聴 ゲームをすること 筋肉トレーニング	経験したことや自分の気持ちを文章に書く。長文傾向。	筆算で3桁の加法や減法ができる。時計を読み、時間の計算ができる。	指先に多少の麻痺があり、器用ではないが丁寧に意識し時間いっぱい作業する。	発音が不明瞭。文字の形を正しくとらえることが難しい。				
特記事項	その他									
教材について	教材の種類	<input type="checkbox"/> 備品 <input type="checkbox"/> 消耗品 <input type="checkbox"/> 自作教材 <input type="checkbox"/> プリント類 <input checked="" type="checkbox"/> アプリ <input type="checkbox"/> その他								
	使用教材	iPad (pages)								
	使用方法・配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> ・事前にiPadの使い方を説明して確認する。 ・思い出に残っている行事を選び、文章にまとめる。 ・表記が分からない場合は、教師が書いて提示する。 								

	<p>pages (ページズ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テンプレートから文書作成できるアプリ。 ・テンプレートのレイアウトは変更可能。(例：縦→横)
<p style="text-align: center;">使い方</p> <p>①項目ごとに文字入力する。 ②原稿用紙に清書する。</p>	
<p>反省・改善点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字が分からないときに、自分で入力して調べたり、文字の大きさを変えて確かめたりする生徒がいた。 ・間違えたときに簡単に消すことができ、スムーズにまとめることができた。 ・メモ程度の箇条書きでは、原稿用紙に清書するときに戸惑う生徒がいた。 ・メモ書き程度の箇条書きにするか、そのまま清書できるように文章にまとめて入力するか、生徒の実態に応じて判断が必要。

<資料2> 活用事例

教科・領域	アプリ・機能等	使用例
生活単元学習	pages	修学旅行の見どころ紹介の作成
	写真お気に入り	修学旅行のベストショットを選び、お気に入りに追加する。
	AirDrop	写真やデータの転送
	iMovie	動画の編集
	Keynote	1年間を振り返る動画を制作する
	フリーボード	イラストの作成
作業学習	レジアプリ	販売活動
	フリーボード	イラストの作成
総合的な探究の時間	家計簿	将来の1か月の生活費の算出
実習事前学習	グーグルマップ	バス停から実習先までのルートの確認
国語	pages	作文するための材料をメモする。 メモを見ながら文章を組み立てる。
数学	Geogebra	作図、図形の変化(以前使用)
行事等	読み上げ	集会や実習打合せ等で入力した原稿を読み上げる
休憩時間	漢検トレーニング	漢字検定の自主学习
余暇充実活動	カメラ	季節の写真の撮影・編集

(5) 自立活動グループ

ア 前年度研究から

昨年度は、対象児童生徒全員について、自立活動の6つの区分に分類した実態把握表を作成した。それをもとに授業や教材を作成する際に留意する点などについて情報を共有した。それらの留意点に配慮しながら、各学部のテーマに沿った教材開発に取り組んだ。本グループは各学部の自立活動担当が所属しているため、学部の枠を越えた小グループを作成し、様々な視点からアイデアを出し合い1テーマにつき3～5案ずつ、計15の教材案を作成した。

学部の枠を越えての小グループ編成での教材案作成により、児童生徒の特性を踏まえ、かつ授業のねらいを達成する教材について、多角的に検討することができた。またグループでアイデアを出し合ううちに、そこからまた新しいアイデアが生まれ、1つのねらいに対し、何通りものアプローチがあることを改めて確認することができた。

イ 今年度の研究概要

(ア) 目的

- ・自立活動の目標や授業のねらいに沿いかつ児童生徒が楽しく活動できるための教材を作成する。
- ・児童生徒の目標達成のための効果的な教材の活用方法について、授業実践と教材検討を行う。

(イ) 研究計画

研究日	内容
第1回（5月16日）	グループメンバーの確認、研究の概要説明、研究計画など
第2回（6月19日）	教材研修会事例提案、グループ内授業研分担当決定
第3回（7月22日）	教材研修会事例教材検討及び情報共有
第4回（8月21日）	グループ内授業検討会①（中学部・高等部）
第5回（9月19日）	グループ内授業検討会②（分教室）
第6回（11月19日）	グループ内授業検討会③（小学部）
第7回（2月13日）	研究のまとめ

(ウ) 方法

a 教材の作成

- ・個々の特性や目標、授業のねらいに沿って教材作成を行う。
- ・新規に作成してもよいし、昨年度の研究で考案したものを活用してもよい。
教材研修会の事例として、くもん出版の教具を活用した教材を作成する。
- ・教材のテーマや活用方法については授業計画シートにまとめる。

b 授業実践

- ・作成した教材を使用した授業を行う。
- ・「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」のそれぞれの視点から見た、各教材の期待できる効果について授業者の考えをまとめる。
- ・授業形態については、個別・集団どちらでもよい。学部合同の授業でもよい。

c 教材の検討

- ・定期的にグループ内授業検討会を実施し、教材検討を行う。
- ・教材自体の効果だけでなく、他の自立活動場面での活用方法など今後の展開についても多角的に検討する機会としたい。

(エ) 対象児童生徒について

R6年度の自立活動を主とする教育課程（主に重複障がい学級）の児童生徒の在籍数は以下のとおりである（R6.4時点）。

	小学部	中学部	高等部	分教室
児童数	6名（2～6年）	1名（3年）	1名（3年）	9名（小学部・中学部・高等部）
学級数	2学級	1学級	1学級	

ウ 授業実践とグループ内教材検討会


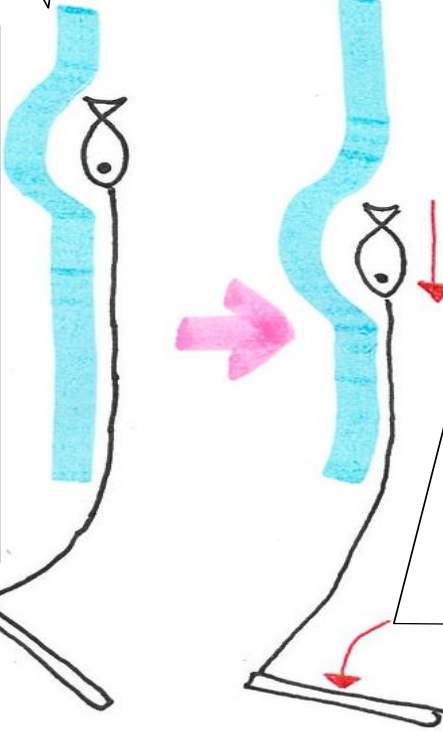
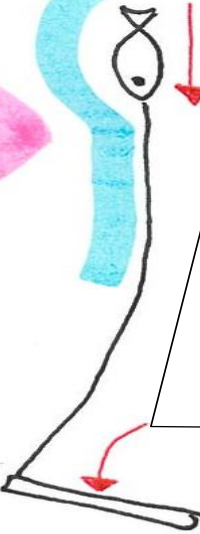

くもん出版の教具を活用した教材については、小学部と分教室小学部児童で共通の教材を作成し、実践を行った。事前に、教材の操作や授業内での活用のポイント、引き出したい児童の反応や表現などを担当間で共通理解し、授業をおこなった（詳細については、「Ⅶ研究実践 2研修会の実施（3）」参照）。


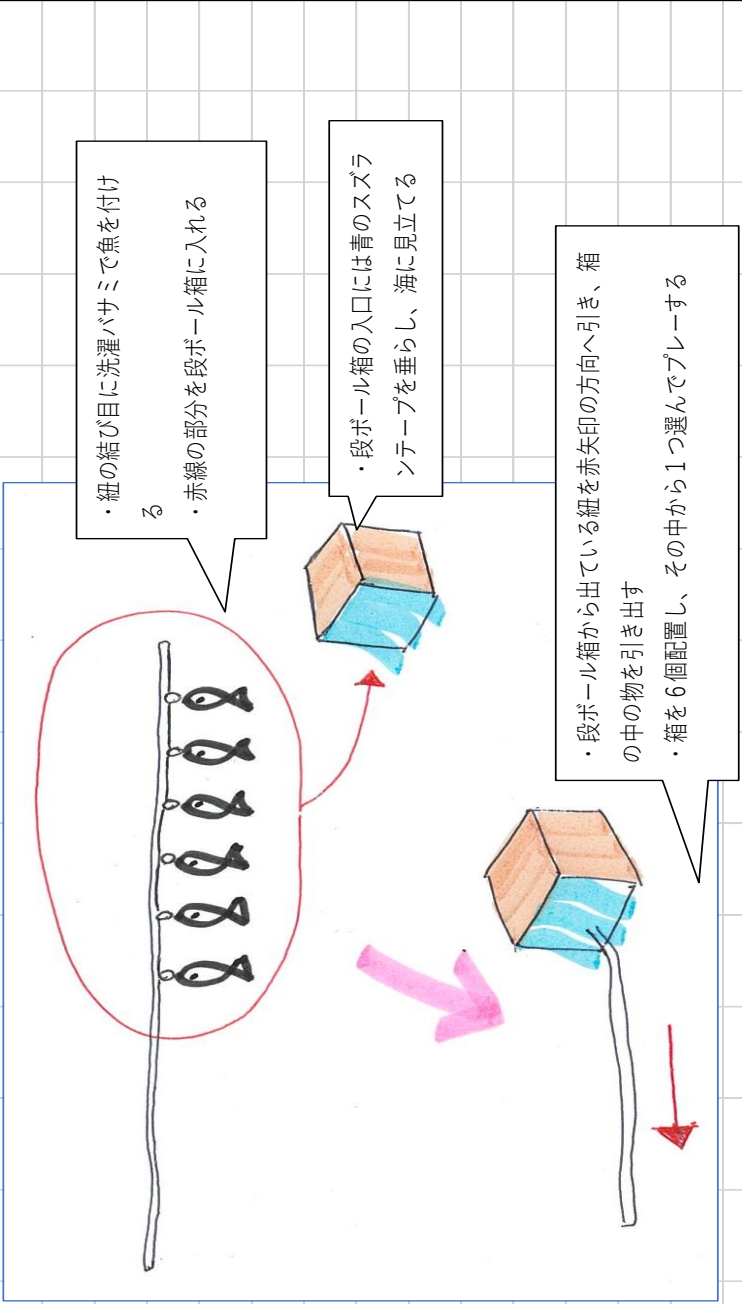
その他、小学部、中学部・高等部合同、分教室の3つの授業について、実践を行った。授業後、グループ内で教材検討会をもち、教材の共有や今後の活用の展開などについて意見交換を行った。以下、それぞれの授業実践について示す。

(ア) 小学部 (詳細は資料1～2参照)

単元名：つりしてわっしょい (全学年合同授業 対象6名)		
目 標	道具を使って魚を釣ることができる。	身体の動き
	魚が釣れたことを楽しいと感じて伝えることができる。	心理的な安定・コミュニケーション
	魚を釣ろうと思ってゲームをやり続けようとする。	環境の把握
【使用教材】 1. 魚: ゴム手袋の中に毛糸を入れ、表面にシールを貼ったもの。シール貼りは児童が行った。 2. 一本釣りセット: 紐タイプ、竿タイプなど可動域に合わせて選択できる釣り具。シートや箱の中から魚を引き出す。 3. たも網: リングに紐を付け、リングの中に魚を入れて引っ張り上げる釣り具。		
		
【授業者から】 <ul style="list-style-type: none"> 目標「魚が釣れたことを楽しいと感じて伝えることができる」は児童の実態から、集団授業の目標としては高すぎたと感じる。「楽しいと感じる」もしくは「楽しさを表現する」が適当であった。 「釣り」をテーマにいくつかのゲームを用意し、段階的に難易度をあげるなどして取り組んだ。 自分で紐を手繰り寄せる子、車椅子の移動を補助されながら紐を手を持ち続ける子など、それぞれが自分の可能な動きでゲームを行うことができた。ゲームのルールが分かる子は数を多く釣ることを狙う様子が見られた。一方、紐の長さが長かったために、引いた紐が邪魔になり操作しにくい様子と、竿を引くことと魚が釣れることの因果関係に気づくことが難しい様子が見られた。加えて、初めからゲーム形式で取り組んだことにより、子どもが自分で試す機会が足りず、結果としてゲームを理解することが難しい様子も見られた。 		
【検討会から】○よかった点、●改善案 ①主体的な学び ○手袋という安全で触り心地のよい素材が児童の好みに合っていた。 ○地引網のリングの厚みや多様な釣り方など、児童自身の力で教材を扱いやすくするちょっとした工夫がよい。 ●自分の体の動きで釣る体験のためには、「引く」以外の仕掛けの工夫や見通しや意欲を促す目印の設定が有効。 ●児童から対象が遠い。最初は近くして「自分が動く→釣れた」の経験を重ねる。徐々に距離を出し児童の試行錯誤を引き出す。やがて児童が教材と対話するようになり対話的な学びにもつながる。 ●ゲームとしての釣りの楽しさの理解が難しい児童が多い。ゲーム要素以外の楽しみ方がもっと欲しい。		
②対話的な学び ○シートであえて魚を見えづらくする仕掛けが、魚は今どこかな? という想像力や期待感を引き出している。 ●一方でブルーシートは重く魚の動きがわかりづらい。半透明のプチプチシートは軽く、中身が少し透けてよい。 ●「ゲーム」「チーム」の理解が難しい児童が多い。直接的に友達を感じられる場面がもっと必要では。		
③深い学び ●「釣り」を知っている、イメージがある児童がどのくらいいたか。 <ul style="list-style-type: none"> 「やりたいから自分で身体を動かす」「どうすればいいか考え工夫する」という少しの意識付けが、児童の今後の生活の幅や充実につながる。だからこそ全員が意欲を持てる題材や活動内容が必要。 釣り=竿、魚、網などのイメージがある児童が少なく、用意されたたくさんの教材同士が児童の中で結びついていない。活動の連続性を感じることが難しい。絵本や動画などでの導入があるとよい。 楽しい導入により児童の中で魚が「欲しい」対象になると、魚に注目したり触れようとしたり、釣り方を工夫したりする動きが自然と出てくるのではないかな。また「楽しい」と感じたら授業以外の遊びとしての展開も期待でき、生活の楽しみが一つ増える。 		

【資料1：教材計画シートより】

使用教材	釣り竿、魚、ブルーシート	教材の種類	<input type="checkbox"/> 備品 <input type="checkbox"/> プリント類	<input type="checkbox"/> 消耗品 <input type="checkbox"/> アプリ	<input checked="" type="checkbox"/> 製作教材 <input type="checkbox"/> その他
教材テーマ 使用場面	釣り竿、魚、ブルーシート	教材の種類	<input type="checkbox"/> 備品 <input type="checkbox"/> プリント類	<input type="checkbox"/> 消耗品 <input type="checkbox"/> アプリ	<input checked="" type="checkbox"/> 製作教材 <input type="checkbox"/> その他
教材について					
【魚】 ・天然ゴム手袋Sサイズ ・毛糸玉 ・シール（目玉用、ウロコ用）		【竿】 ・竿を6本並べ、選択させる ・紐の先に魚をかけておく ・慣れてきたらサメ（はずれ）を1匹かけておく		【海】 ・ブルーシートを海に見立てる	
【魚】 ・ウロコはキラキラのシールを貼って目立たせる ・1hでは魚の制作に取り組み意欲付けを図った		【竿と魚の動き】 ・竿を上げ紐を引くと、魚が手元に向かって近づいてくる ・ブルーシートの盛り上がり手元に向かって近づくと、何かが釣れたことが分かる	【釣り具】 ・突っ張り棒（竿） ・キラキラテープ（竿装飾） ・紐（釣り糸） ・洗濯バサミ（釣り針） ・鈴		


使用教材	魚、地引き網（紐）、海（段ボール箱）	教材の種類	<input type="checkbox"/> 備品 <input type="checkbox"/> プリント類 <input type="checkbox"/> 消耗品 <input type="checkbox"/> アプリ <input checked="" type="checkbox"/> 自作教材 <input type="checkbox"/> その他
教材テーマ 使用場面	魚、地引き網（紐）、海（段ボール箱）	地引網にチャレンジ！	
【魚】 ※一本釣りと同じ ・天然ゴム手袋Sサイズ ・毛糸玉 ・シール（目玉用、ウロコ用） 			
【地引網】 ・紐（網） ・洗濯ハサミ			

教材について

【資料2：教材検討会記録】

自立活動 G 小学部合同授業「釣りしてわっしょい」研究会記録 主体的・対話的で深い学びを実現する教材の工夫について 【使用教材：手袋魚、地引網他】	深い学び	対話的な学び	深い学び
よい点		<p>主体的な学び</p> <p>教材を自分で扱えやすくなるためのちよっとした仕掛け</p> <ul style="list-style-type: none"> ①地引網フープの厚みの調整 基本的には釣り逃さないように厚みを設定するが、児童のちよっとした工夫でより釣れる確率が高まるなど 試行錯誤を引き出せる。 ②多様な釣り方 竿、紐、リングなどそれぞれの理解力や身体の動きに合わせて選択できる。 	
改善点		<p>対話的な学び</p> <p>ドキドキ感や想像力の高まる仕掛け</p> <ul style="list-style-type: none"> スズランテーパーやブルーシートで魚をあえて見えずらくすることで、自分のアクションに応じて魚が動き近づいてくる楽しさや、「魚は今日のへんかな」などの想像力が引き出せる。 	<p>学習にあたり、「釣り」を知っている児童がどのくらいいたのか？</p> <ul style="list-style-type: none"> 釣り→魚、竿、海、網などの中で結びついていない。テーマなどによって導入が必要か。 最初にみんなで絵本を見たり、魚に触れたりなどある程度の興味やイメージをもてる活動や、魚が「ほしい」対象になるような活動があるとうよいのではないか。 →それによって授業への意欲や楽しさが増すかも見えない。また、授業後にも遊びでやるなど楽しみが広がる可能性も。 →「やりたいから自分で身体を動かす」「どうすればよいか考え工夫する」という少々の意識づけが児童の今後の生活の充実につながると思う。
		<p>「ゲーム」としての楽しさを理解していた児童は何人いるか？</p> <p>→集団授業なので、理解が難しい児童たちもゲーム要素以外で楽しさを感じられる教材の工夫がほしい。</p>	<p>友達の分りやすいかわり</p> <ul style="list-style-type: none"> 「チームで」「競争」などでは友達の存在を意識することが難しい児童のほうが多い（見方も含め）ので、「手をつなぐ」「友達のを揺らした振動が伝わる」など直に相手を感じられる関わりが必要。
		<p>魚の感触の多様性</p> <ul style="list-style-type: none"> 他の感触や季節に合わせた温度を楽しむ 釣れたらば×な魚やゴミなどもあえて不快な感触に変えれば「釣れたら×」が伝わるかも。 	<p>ブルシートは重く、魚の動きが分りづらいい。</p> <p>→半透明の袋やフープフープシートはどうか？魚が動くときも音もなりそうではない。であれば、魚は白ではなく色がついていていたほうがよく動きが見えやすく、注目を促せるかも。</p>
		<p>自分の身体の動きで「釣る」体験をさせたいなら…</p> <ul style="list-style-type: none"> ①「手で引く」以外の工夫 ドラムコードのように回して引き寄せることはどう？ ②目印や目標の設置 手繰り寄せさせないなら、紐に一定間隔で目印をつけ、次の手の位置を示しては？ ③紐や竿の長さを調整 自分の手元から目標物が遠く確認しづらい。釣れる楽しさを知るために「自分が身体を動かす→すく釣れる」経験を繰り返すことが最初。そこから「魚遠くだな。どうしよう？」の試行錯誤が始まる。 →対話的な学びへとつながる。 	

(イ) 中学部・高等部 (詳細は資料3～4)

単元名：一緒に七夕パーティーをしよう (学部合同授業 対象2名)		
目	音楽に合わせて声を出したり、身体を動かしたりする。	身体の動き
標	使用する道具や色を選択し、思いや意図をもって製作する。	心理的な安定・環境の把握
	自作のゲーム道具や飾りに親しみを持ち、友達や教師との関わりを楽しもうとする。	人間関係の形成
【使用教材】 1. 天の川シート: フェルト製の星を曲に合わせて貼り付けていくシート。織姫彦星も貼り付けると七夕の天の川の世界が完成する。 2. 短冊ルーレット: 洗濯ピンチに願い事をカードを吊るしたもの。回転させてカードを引っ張りピンチから引き抜く。願い事カードは生徒が作成する。		
		
【授業者から】 <ul style="list-style-type: none"> ・お互いの存在を意識し、「自分もやってみたい」という自発的な動きや気持ちを引き出すことを目的とした。 ・教材や授業の展開は、二人の共同作業で作品を完成させたり、ゲームの中で自然に交流をもてるよう工夫した。 ・天の川シートは生徒が星を貼り付けるためにはもう少し安定感が必要だった。 ・短冊ゲームでは生徒自身の願い事を書いてもらったが、「〇〇が欲しい」だけでなく「握手したい」「褒めたい」など相手を意識した願い事も出てきてよかった。 ・次第にお互いを見て真似たり、高等部生徒が中学部生徒に先輩らしく注意をするなど、関わりが生まれてきた。 ・お互いに一人の学級であり相手を意識した活動の機会が限られる。今後も交流を設定していきたい。 		
【検討会から】〇よかった点、●改善案		
①主体的な学び ○短冊ルーレットは回る速度の緩急で対象物への注目や追視を促すことや、狙って掴む動きへの工夫がユニーク。 ○天の川シートの星のマスコットが生徒の可動域に合った大きさ。素材もフェルトで心地よく触れたい気持ちに。 ●シートは角度やマスコットの粘着性が課題。また星空のイメージを持つために絵本などの導入も有効か。		
②対話的な学び ○ゲームで使用する短冊を自分たちで作る活動がよい。相手のことを想像する時間ができる。また短冊の内容も人との交流を持ちながら楽しめる活動が含まれていて面白い。 ○仲間との共同作業で完成した天の川シートが、以降の授業での大切な1つのピースになる展開がよい。一緒に活動していることを意識できる。 ●せっかくの共同作業なので、お互いがよく見える配置を工夫したい。またルーレットのカードも1枚ずつ見えやすくしたい。パラソルハンガーにつけるのはどうか？		
③深い学び ○「願いごとを書く」→「ルーレットで選ぶ」→「叶う」という流れが画期的。書いて終わりではなく「願って叶う」という経験が、ほかの活動の「やってみよう」につながっていく。 ○天の川シートは完成させて終わりではなく、さらに展開や仕掛けがある部分が良い。このような経験の繰り返しが「次はどうなるのかな？」という希望や期待感をもった活動意欲につながっていく。 ●今後の二人の関係が気になる。交流を続けて、廊下でお互いにお互いにあいさつし合うなど授業以外にも仲間の意識が生まれるといい。		

【資料3：教材計画シートより】


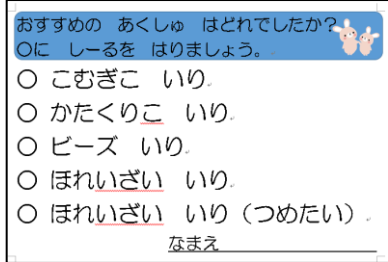
使用教材	教材の種類	備品 <input type="checkbox"/> 消耗品 <input type="checkbox"/> 自作教材 <input type="checkbox"/> プリント類 <input type="checkbox"/> アブリ <input type="checkbox"/> その他
<p>①天の川シート ♪「たなばたさま」 ②短冊ゲーム ♪「運動会のテーマメドレー」</p>	<p>②短冊ゲーム ♪「運動会のテーマメドレー」</p>	
<p>①素材：フェルト、綿、スチレンボード、割り箸、突っ張り棒 ②使い方：音楽が鳴っている間に星を貼って、天の川を完成させる。 天の川が完成すると、泣いている織姫と彦星を回転させ、笑っている顔にする。 ③ねらい ・自分から腕を伸ばして星を貼ろうとする。 ・友達が見ているのを見て、自分も貼ろうとする。 ・織姫と彦星の表情の変化に気付く。</p>	<p>①素材：画用紙、短冊（やりたいことカード）、ひも、洗濯ピンチ ②使い方：音楽に合わせて、回転する短冊の中から自分のやりたいことを見つけて掴み取り、書いてあることを発表する。 曲によって回転スピードを変える。 書かれているお願いを叶える。 ③ねらい ・自分のやりたいことカードを確認し、狙って掴もうとする。 ・友達の様子を注目し、願い事が叶った様子を見て、興味をもとうとする。</p>	

教材について

【資料4：教材検討記録】

自立活動 G 高等部・中学部合同授業「一緒に七タパーティーをしよう」 研究会記録		主体的・対話的で深い学びを実現する教材の工夫について		
	主体的な学び	対話的な学び	深い学び	
よい点	<p>短冊ルーレット</p> <p>「注目を促す」手立ての良さ</p> <p>①速度の緩急で注目を促す仕組みが◎</p> <p>②円形の洗濯ビンチを利用してぐるぐる回る仕組み面白い。</p> <p>③「狙ってとる」という動きが生じるゲーム性</p>	<p>短冊ルーレット</p> <p>①自分のために、相手のために、自分たちで願いを書いて、ゲームの道具を作る良さ</p> <p>→相手のことを想像する時間</p> <p>②短冊の内容の良さ</p> <p>→「○○をほめたい」「こちょこちょしたい」「握手する」など</p> <p>人との交流を引き出す内容</p>	<p>天の川シート</p> <p>・二人の共同作業で、一つの作品が出来上がり、それさらに授業の1つのパーツになるという良さ。</p> <p>→一緒に活動していることを意識できる。</p> <p>→友達は何個貼ったかな？とどこに貼るのかな？と相手に興味をもつきっかけに。</p>	<p>短冊ルーレット</p> <p>「願いをかく」→「ルーレットで選ぶ」→「自分の願いが叶う」流れが画期的！</p> <p>→願いを書いて終わりではなく、「叶うのなんだ」という経験が、他の学びの「やってみよう」につながる。</p> <p>→原因と結果がすぐにつながってよい。</p>
改善点	<p>天の川シートに工夫できること</p> <p>①粘着性の向上もしくは、貼りやすい角度の検討</p> <p>→Mさんの手の動きからするともう少しフラットでもよい？</p> <p>②星空のイメージをもつ</p> <p>→絵本や写真に事前に触れる</p>	<p>対教材、対友達への工夫</p> <p>・短冊同士が近く生徒が狙いのものを見つげにくい。きれいに円形に吊るして回したい。</p> <p>→パラソルハンガーはどうか？</p> <p>・友達は何をとるのかなと注目して見ている</p> <p>→お互いの手の動きが見えやすい配置を</p>	<p>天の川シート</p> <p>「星を貼ってシートを完成させて終わり」ではなく、その後にさらに仕掛けやストーリーがあるのが良い</p> <p>→このような経験の繰り返し、他の活動でも「まだ何かあるかも」「このあとどうなるのかな」という、希望や期待感をもつことに繋がるのではないか。</p>	<p>その後の二人の交流は？</p> <p>→相手を見たり、行動を気にしたりとお互いの存在を意識しつつある。</p> <p>仲間と活動するよさをより味わうために今後も何か活動があるといいかも。</p>

(ウ) 分教室 (詳細は資料5～6)

単元名：様々な刺激を楽しもう (集団活動 対象2名)		
目 標	様々な刺激があることを知る。	環境の把握
	様々な刺激に対して「好き」「嫌い」を表現しようとする。	人間関係の形成
	様々な刺激に自ら関わろうとする態度と普段の生活の刺激を受け入れられる自覚を養う。	心理的な安定・環境の把握
【使用教材】 1. 感触手袋： ゴム手袋に片栗粉やビーズを入れたり、表面にフェルト玉を貼るなどした教材。手袋と握手することで様々な感触が楽しめる。 2. 手袋紹介シート： おすすめの手袋を友達に紹介するためのシート。選択肢から選んでシールを貼る。		
		 <p>おすすめの あくしゅ はどれでしたか？ <input type="radio"/> に しーるを はりましょう。 <input type="radio"/> こむぎこ いり。 <input type="radio"/> かたくりこ いり。 <input type="radio"/> ビーズ いり。 <input type="radio"/> ほれいざい いり。 <input type="radio"/> ほれいざい いり (つめたい)。 なまえ _____</p>
【授業者から】 <ul style="list-style-type: none"> ・毎年取り組んでいる感触刺激を楽しむ単元である。今回は、昨年度の研究で出し合ったアイディアの中から感触手袋を作成し授業の中で使用してみた。 ・自分たちが様々な感触を味わった後、おすすめの手袋を、感触刺激に抵抗がある仲間 (全盲) に紹介するという流れで取り組んだ。 ・初めて一緒に授業をする二人の組み合わせで、仲間が発声できることに気づくなどお互いに発見があった様子。 ・特に初めてのものに触れることが苦手な生徒は、相手に「先に触って」と託すなど個別授業では見られない、「相手あってこそ」の行動があった。仲間へのおすすめを考えるときには、「自分も触れることが苦手。でも大丈夫だよ」と仲間を励ますメッセージも発信していた。 		
【検討会から】○よかった点、●改善案 ①主体的な学び <input type="radio"/> 感触だけでなく見た目でも選択できる工夫がよい。触れること自体に勇気がいる生徒のためには、触れるより先に「見て選ぶ」ことができ活動の安心感につながる。 <input type="radio"/> これから手袋をおすすめする仲間の状態 (全盲であること) を想定しての手袋の中身 (香りがある、温度が変わるなど) の工夫がよい。 ● 手全体を使ってじっくり触れるためには、手袋全体にパンパンに中身を詰めた方が触れやすい。 ● 手袋全種を並べ自分で触れたい手袋を選ぶ場面も段階的に設定できるとよい。手袋に愛称があると愛着がわくかもしれない。		
②対話的な学び <input type="radio"/> 「手袋」というモチーフがよい。刺激素材に直接触れるより「手」の形状によって【握手】を介して新たな刺激とそ の手袋をもつ相手という二つの出会いにつながる。 <input type="radio"/> 「仲間におすすめしよう」というテーマによる「自分の好きなもの」から「相手の好きなもの」への展開がよい。 個別の授業であっても分教室の仲間とのつながりが意識できる。 <input type="radio"/> 事前におすすめする仲間の授業の様子を見たことで、「彼も触れることが苦手らしい」ということに気づけた。仲 間への気づきが、おすすめするだけでなく「苦手克服のアドバイスシート」の作成へつながった。 ● 手袋紹介シートは、サイズを大きくし写真ものせてポスター風にと分教室のみんなの注目につながるのでは？		
③深い学び <input type="radio"/> 「握手」の動きで触れることで、手首の動きや力加減の調整、手のひらや指の間の刺激につながり、「身体の動 き」「健康の保持」などのアプローチも期待できる。 ● 持ち運びやすく手軽な教材なので、固定の単元にこだわらず様々な活動の一場面での活用をしたい。「感触の授 業」と聞くだけで抵抗がある生徒もいるので、生活のさりげない場面やゲーム感覚で活用し感触の出会いを促すの もあり。		

【資料5：教材計画シートより】

使用教材	○○手袋で握手しましょ♪	教材の種類	<input type="checkbox"/> 備品 <input type="checkbox"/> プリント類	<input checked="" type="checkbox"/> 制作教材 <input type="checkbox"/> その他	
使用方法 配慮事項等 <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	教材テーマ：様々な感覚や感覚を楽しむための新しい教材アイデア 使用場面：「感触」 <input type="checkbox"/>				
教材について					
☆様々な感触の手袋を装着し、教師や友達と握手したり、手のマッサージを受けたりする。 【活用ポイント】 <ul style="list-style-type: none"> ・音楽に合わせ、強弱をつけて手を握る。 ・手の平や指先など、ピンポイントでももみもみし、感覚に気付くことができるようにする。 ・友達同士ペアになっても良い。 ・手袋は教師が装着するパターン、生徒が装着するパターン、互いに装着するパターン、手袋自体に水や片栗粉を入れて手と見立てて触るパターンもあり。 		 <p>「片栗粉手袋」 握手したり、カップル つなぎをしたり</p>	 <p>「ビーズ手袋」</p>	 <p>「ぶちぶち手袋」 握手したり、指先ぶちぶち マッサージしたり</p>	 <p>「フェルト玉手袋」</p>

【資料6：教材検討会記録】

自立活動 G 分教室授業「様々な刺激を楽しもう」研究会記録		主体的・対話的で深い学びを実現する教材の工夫について		【使用教材：感触手袋】		
主體的な学び		対話的な学び		深い学び		
<p>新しい刺激に触れるためのきっかけ、手掛かりの良さ</p> <p>①中身が見える手袋素材 →友達に紹介する前にまず自分たちが触れてみる必要があるが、知らない刺激に不安を感じる生徒もいる。鮮やかな色味の手袋を加えることで、「触れる前にまず見て選ぶ」が可能になった。初めての刺激に出会うにあたり、触れる前に見て確認できることが安心感につながる。</p> <p>②これから触れてみてほしい対象を意識しての中身の選定 →対象に視覚に障害のある生徒を含むため、中身の感触を変えるだけでなく、香り付きの中身もレパートリーに加えたことで、様々な生徒が出会って楽しい手袋になった。</p>	<p>「手袋」というモチーフの良さ →刺激素材に直接ふれるよりも手袋に入れ、「手」という形状があることにより、【握手】によって、新たな刺激と、その手袋をもつ友達、という二つの出会いが実現できた。</p>	<p>「仲間におすすめてみよう」というテーマの良さ</p> <p>①「自分の好きなもの」から「友達の好きそうなものは？」へと考えを展開している。</p> <p>個別の授業であっても、分教室の仲間とつながっていることを意識できる。</p> <p>②事前におすすめる相手の授業を見学する時間を設けたことで、友達の様子をよく見て「友達も以前の自分と同じように触れることが苦手らしい」と気づけた。</p>	<p>【握手】の動きで触れることで、手指の動きの展開につながる。</p> <p>→手の形をしていることで、「握手の形で握る」「指と指を組んで握り込む（指の間が刺激される）」など、自立活動の「身体の動き」の課題へのアプローチも可能である。</p>	<p>素材の身近さ、丈夫さ →ビニール手袋という準備しやすく、ある程度の耐久性のある素材により、満足いくまで引っ張る、つまむなど好きなようにじっくり教材を味わう、素材と向き合うことができる。</p>	<p>「仲間のことを考える」→「仲間への気付き」 ただおすすめて紹介するだけでなく「苦手なものを克服するためのアドバイスシート」の作成へとつながった。</p>	<p>軽量で持ち運び可能、いつでもどこでもだれとでも楽しめるので、朝の会などで音楽に合わせて楽しむなど、固定の単元以外でも少しずつ様々な刺激に出会う機会に活用するとよいかもしれない。（感触の勉強と提示されると苦手意識のある生徒もいるので）</p>
<p>よ い 点</p>	<p>改 善 点</p>	<p>自分の手全体を使ってじっくり触れるためには、もつと中身をパンパンに詰めて「手」の形が明確に出るようしたほうがよい。</p>	<p>触れてみたい手袋を選択するにあたり、手袋全種類を提示し自分で決める場面の設定を。→手袋に愛称があると親しみがわくね！</p>	<p>おすすめてカードは大きくし、写真をのせてポスター風にして教室に貼っておくと、他の分教室の仲間の関心にもつながるかも！</p>		

エ 教材開発と活用のアプローチについての成果と課題

(ア) 「主体的な学び」の観点からの成果

- ・自分から「やってみたい」「さわってみたい」と思えるような活動や教材を作るためには実態把握が必須である。当たり前のことだが、きちんと見立てることで、好きな活動からの発展で新たな学びにつながることを再確認した。
- ・身体的、医療的な制限などで様々な経験が少ない児童生徒が多い。イメージできることや予測できる活動のレパートリーも少なく、初めての経験も多い。「動いてみよう」「触れてみたい」というきっかけになる何かは一人一人異なる。視覚的に惹かれるものがよいのか、触感的に心地よいものがあるのか、平面なのか立体なのか、児童生徒が安心して「自分から」活動に取り組める「きっかけ」を多角的に検討することが大切である。

(イ) 「対話的な学び」の観点からの成果

- ・対象生徒が自分自身のために使う教材から、友達と一緒に使う教材のように関わりに範囲を広げていくことで、生徒自身が楽しいと感じたり、何かをできるようになるだけでなく、「友達と一緒に使ってみよう」「これ好きかな」など、相手のことを考えたり想像したりすることにつながると気づいた。
- ・どの児童生徒も友達や仲間の存在をある程度意識できている。そのため「友達からのおすすめ」「友達の真似」が教師からの働きかけ以上に学びの深まりに効果的な場面が多々あった。単なる「友達を見て」という言葉掛けだけではなく、児童生徒が自然に友達の存在に気づいたり、関わりを引き出せるような場面をコーディネートすることが大切である。児童生徒の好奇心の機会を逃さないようにしたい。
- ・児童生徒が試行錯誤しようとしているとき、何を手掛かりにしているかを探ることが大切だと気づいた。
- ・物(教材)と十分に向き合い、探求するためには、教材自体にある程度の耐久性が必要である。

(ウ) 「深い学び」の観点からの成果

- ・活動や授業自体が充実していると、次の活動への意欲につながるだけでなく「こうしたい」「そうじゃない」など、自分の気持ちを伝えようとする表現の広がりにもつながることに気づいた。その意欲を高めるような体験的な学習の積み重ねが大切である。
- ・児童生徒の身の回りにあるものや地域性を生かした題材を選択することで、児童生徒の生活の中での深い学びにつながる経験が積み重なるのだと感じた。
- ・実態に応じて、身体的機能の向上や可動域の拡大に結び付けるなど、将来につながる目的をもって教材の開発や授業づくりを目指したい。

(エ) 課題

- ・合同授業において、実態に差があるときの教材をもっと工夫したい。それぞれの力を伸ばしつつも、ともに活動することの良さを感じられる教材・授業づくりを目指したい。
- ・教材製作を通して、対象生徒が「好き」と言っている活動や物がすべて「人を介しての好き」であると気づくことができたので、「誰と楽しみたいのか」など生徒と話し合う機会を設けた。特に一人学級の場合には日々の関わりが「対大人」中心になりがちである。生徒同士の関わりを保証したい。
- ・感覚や反射に関することなど、児童生徒の実態把握や自立活動の授業づくりのうえで必要なことについての教師側の専門性に差がある。正しく見立てられなければ、児童生徒の成長を見逃してしまうことにもつながると感じる。校内での研修会を開くなど、お互いの知識や技能を共有したい。
- ・児童生徒にとって未経験のことや抵抗があることを受け入れてもらうことが難しい。過敏や過去の経験によるマイナスイメージがあるとなおのことハードルが高い。受け入れることにより本人の経験や楽しさの幅が広がるであろうと予測できるが、そのための教材や手立ての検討が一人では難しかった。今回のように縦割りグループで様々な方面からのアドバイスや意見をももらう機会があるとよい。

オ 自立活動の授業においてこれから必要と思われる教材、製作してみたい教材

(ア) 小学部

- ・ICTを活用した教材
- ・身近なもので児童にとって快の刺激となる教材

(イ) 中学部

- ・車いすのフロント部分で荷物をキープするための補助具。
- ・自操式車いす使用の際の、車いすの幅や前後の感覚を育てながら自操のトレーニングができる教材（車のコーナーポールのようなものはどうかと考えている）。

(ウ) 高等部

- ・動くものへの注目を促し、目と手の協応動作をスムーズに行うための教材（回転したり上下にスライドしたりするものはどうかと考えている）。

(エ) 分教室

- ・手足の感覚過敏を軽減できる教材
- ・感触が楽しい教材（毛糸とゴム手袋の魚など）

(6) まとめ

グループ研究は児童生徒の課題や実態を共有しやすいように、学部毎、教育課程毎（自立活動）で編成した。そのことによって、基本情報を共有しやすく、より深い実践研究を行うことができた。また、児童生徒の課題や学習について話し合うことで、職員間の学びの場にもなった。

グループ間の進捗状況については、通信に定期的に掲載し、情報共有することができて良かった。

4 教材の開発、整備

(1) 授業計画シート

《目的》

- ・児童生徒の実態を明らかにし、その学習グループに適切な教材を検討する。
- ・授業の目標を鑑みながら、授業を考え、教材を設計する。
- ・児童生徒の実態から自立活動の6区分27項目のどこに課題があるか、明らかにする。
- ・課題となる領域について目標をたて、授業の内容を構想する。

授業作りの基となる教材を中心に授業の構想をたてるためのシートを作成した。単元の目標を達成するために、どのような教材をどのように活用するかを考えながら授業を組み立てるためのものである。

ア 教科・領域

(ア) 作成の方法

- ① 学部の児童生徒すべての実態の主となる内容について実態一覧シートを作成する。
- ② 授業計画シートの必要事項を入力する。(目標、単元目標は教科や段階を入力すると学習指導要領の内容が自動転記になる。)
- ③ 学習グループの児童生徒番号を入力すると実態シートから自動転記される。
- ④ 2枚目に教材についての詳細を設計していく
- ⑤ 実施後、改善点などを振り返る。

(イ) 様式

a 実態把握一覧表

部 児童生徒の実態把握一覧表							
番号	学年	児童生徒名	好きなこと 苦手なこと	言葉に関すること	数に関すること	作業面に関すること	その他
1							
2							
3							
4							
5							
6							
7							

b 授業計画シート

教材計画シート							目標入力						
学部	学級	教科	単元 題名	時間	授業 者		教材の種類	<input type="checkbox"/> 冊品	<input type="checkbox"/> 消耗品	<input type="checkbox"/> 自作教材	<input type="checkbox"/> プリント類	<input type="checkbox"/> あり	<input type="checkbox"/> その他
知識及び技能 思考力、判断力、表現力 等 学びに向かう力、人間性							使用教材						
単元名 関連する教科 内容のまとめり 単元目標							使用方法・配慮事項						
単元目標							図や写真などで説明 教材について						
対象児童生徒の実態	児童 生徒 番号	好きなこと 嫌いなこと	音楽に関すること	数に関すること	作業面に関すること	その他(認知面など)							
	A												
	B												
	C												
	D												
	E												
F													
その 他 特 記 事							反省・改善点						

イ 自立活動

(ア) 作成の方法

- ① 児童生徒の実態の課題となる内容について実態一覧シートを作成する。
(全項目入力する必要はない)
- ② 単元名や目標など授業計画シートの必要事項を入力する。
- ③ 学習グループの児童生徒番号を入力すると実態シートから自動転記される。
- ④ 2枚目に教材についての詳細を設計していく
- ⑤ 実施後、改善点などを振り返る。

(イ) 様式

a 実態把握一覧表

部 児童生徒の実態把握一覧表								
番号	学年	児童生徒名	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
1								
2								
3								
4								

b 授業計画シート

自立活動 授業計画シート						
学部	学級	段階 主に	段階	授業 時数	時間	授業者
単元名		単元目標			自立活動の領域	関連する教科
児童 生徒 番号	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
	A					
	B					
	C					
	D					
	E					
特記事項 その他						
教材について	使用教材	教材の種類		備品 フリット類	消耗品 アクリル	自作教材 その他
	使用方法 配慮事項等					
反省・ 改善点	図や写真などで説明					

(3) 成果と課題

- 児童生徒の実態をもとに教科、単元の目標を意識しながら授業で使う教材を考えることができる。
- シートに記録していくことで、教材製作がブラッシュアップされ、よりよい教材を使って授業づくりをすることができる。また、他の授業者と共有することができる。
- 日々の授業に使う教材についてシートを作成することが手間となり、負担感がある。今年度は、研究日や授業研究会などで教材について検討する際に活用してもらった。今後は授業づくりの際に大まかな下書きのように日常的に使用して欲しい。

ウ 活用方法

全校の協力のもと入力されたデータを以下のように検索することができるようにした。ユーザーフォームを使って検索を行うことで、必要なキーワードなどで関連する教材を検索することができるようにした。

また、画像があるものについては、画像も同時に出ることでより教材をイメージしながら検索できるようにした。

そして、ユーザーフォームに編集モードを設けているので、今後新しい教材の入力や数などの変更、削除も簡単に行うことができるように設定した。

教材検索

編集モード ON

番号 640

教材名 フォームとび箱 EV ERN

数量 1

管理 体育

保管場所 体育館

分類 器械運動

備品番号 504-00016507

備考

管理で検索

小学部 中学部 高等部 分教室 教務 情報

理科 音楽 体育 家庭 支援

教材名で検索

とび箱

分類(教科)で検索

639	体育	器械運動
640	体育	器械運動

～教材検索編～

【管理で検索】 数字が赤のところは必須。

教材検索

編集モード OFF

① 管理で検索

小学部 中学部 高等部 分教室 教務 情報

理科 音楽 体育 家庭 支援

教材名で検索

ピアノ

分類(教科)で検索

99	音楽	鍵盤
535	音楽	鍵盤
539	音楽	鍵盤
540	音楽	鍵盤
654	音楽	鍵盤
1477	小学部	音楽

④

⑤

- ① 管理している学部や教科等のボタンをクリックする。
- ② ここに検索された教材の全てが表示される。クリックやカーソルの上下で選択された教材(青く反転)の詳細が左側に表示される。
- ③ 教材の写真があるものはここに写真が表示される。(準備中)
- ④ 他の物を検索したい時など、検索画面のすべてをクリアにするときにクリック。
- ⑤ 検索が終わる時にクリック。

【教材又は分類で検索】 数字が赤のところは必須。

- ① 教材名又は分類(教科)名を入力、教材名はキーワードなどの曖昧な検索でも可。
- ② 検索された全てが表示される。クリックやカーソルの上下で選択された教材(青く反転)の詳細が左側に表示される。
- ③ 教材の写真があるものはここに写真が表示される。(準備中)
- ④ 他の物を検索したい時など、検索画面のすべてをクリアにするときにクリック。
- ⑤ 検索が終わる時にクリック。

【絞り込み検索】 ※管理のリストからの絞り込みはできません。後でできるようにしたいと思います

- ① 教材名と分類(教科)名を入力、教材名はキーワードなどの曖昧な検索でも可。
- ② 絞り込み検索ボタンをクリック。③と④に該当の教材が表示される。

(3) まとめ

学校内にはたくさんの教材や備品があるが、その管理は非常に煩雑であり、必要な教材が探せない、良い教材があるのに活用されていないという課題があった。

そこで、今回の研究を機会に全職員の協力を得て、整理しデータ管理することができるようになった。しかし、活用状況においては55%と約半数にとどまった。自分の持っている教材で間に合っているという意見が最も多かったが、データベースの所在や活用方法が分からなかったという意見もあり、使いやすく管理しやすい物にしていく必要を感じた。

これからも、授業計画シートなど活用しながら、児童生徒の学びに必要な教材を活用して「主体的・対話的で深い学び」を実現できるような授業づくりを目指していきたい。

5 情報の共有

(1) 教材リンク集

ア 作成の方法

職員からよく活用しているサイトやアプリなどの情報提供を求め、表にまとめた。その際利用規約に反しないよう確認をし、申請や報告が必要なサイトへは確認を行う。

イ 様式

教材リンク集							
番号	サイトの名前	おすすめポイント	対象学年	教科	URL	使用にあたっての注意事項	利用規約など
1							
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							

ウ 活用方法

教材リンク集 (例)							
番号	サイトの名前	おすすめポイント	対象学年	教科	URL	使用にあたっての注意事項	利用規約など
1	ぶりんときっず	かわいいイラストと多様なプリント 実態に合った段階のものを使うことができる	幼児～小3	国・算・英・その他	https://print-kids.net/	無料配布ならばOK データの直接配布NG クレジットなどの削除NG	https://print-kids.net/rule.html
2	ちびむすドリル	対象が幅広く問題数も多い	小1～6	国算社理 英音	ちびむすドリル【小学生】(happyillac.net)	無料で印刷配布ならばOK クレジットなどの削除NG	https://happyillac.net/zikosyukai.html

②

①

③

- ① おすすめポイントや対象学年、教科等を参考にしてサイトの見当をつける。
- ② 注意事項や利用規約をみて、使用に問題がないか確認をする。
- ③ インターネットが使用できる状況でURLをクリックすると、そのサイトが閲覧できる。

(2) 通信の発行

ア 目的

各学部の授業の様子や教材を紹介し、情報の共有を図る。また、研究部からのお知らせも掲載し、情報提供の場とする。

イ 通信の内容

春はゆらゆらびよんびよん遊びの巻



毎年一番初めの遊びは、ジャンプ、ゆらゆら、ぐるぐるを思い切り楽しめる内容になっています。一年生もすぐに慣れてにっこり。

ぼくたちのおすめはエアトラポリン！乗ったことのない先生はプレイルーム集合！

五葉の

実践紹介

～小学部低学年団～

隣の教室、階の違う教室、隣の学部：どんな授業をしているか知っていますか？実践紹介コーナーでは色々な学部や学級での実践の紹介をしていきたいと思います。

けんきゆう瓦版

発行：釜石祥雲支援学校研究部
令和6年5月31日(金)

DropKit (アプリ)



ドロップタップと同じドロップレットが提供しているアプリです。マッチング、かるた、選択など9種類のテンプレートから教材の作成ができます。※有料コンテンツ

DropTap (アプリ)



昨年度、小学部の全校授業で紹介したアプリです。シンボルも豊富に収納しており、教材を作りやすくなっています。見通し、選択などの教材にオススメです。

紹介教材

つかってみてね!

一口に教材と言っても、大きな仕掛け、プリント、アプリ：様々な物があります。このコーナーではアイデアや使える教材について紹介していきます。

お知らせ!

職員会議でお知らせした「プラン」にログインしてみましたか？岩手県教育センターで行われる研修だけでなく、全国の研修が検索できます。また、コロナ禍を経て、オンラインで参加できる研修も増えました。毎日の授業づくりに行き詰ったとき、いつもと違った内容の研修など受けてみると、新たな考えが浮かぶこともあります。試しに、今年何か一つ受講してみませんか。

校内研究

～7、2年生こととしてます～



小学部グループ

小学部グループは、4人の先生に授業を提案していただいた、みんなで教材のアイデアを出し合い、授業について考えていく予定です。

高等部グループ

高等部グループは、今年度もICTを活用した授業について、昨年度の課題を改善しながら、授業づくりに取り組んでいく予定です。

中学部グループ

中学部グループは、作業学習を中心に、ワークショップで実際に製品を作りながら、意見やアイデアを出し合って授業改善に取り組んで行く予定です。

(3) 授業見学期間

ア 目的

しゃくなげ分教室の授業を動画で視聴し、理解を深める。

イ 実施期間と方法

実施期間：令和6年7月1日（月）～7月31日（水）

方法：①共有フォルダへ格納し、各自視聴

②上映会を設定（7月24日 13：30～）

ウ アンケート結果

<令和6年度 授業見学期間アンケート結果> 回答人数 15人

- ・とても和気あいあいに授業の雰囲気が伝わってくるビデオでした。
- ・学習活動の様子、児童生徒さんについてとてもわかりやすく編集されていました。皆さん生き生きと活動されていますね。心温まるドキュメンタリー映画でした。ご家族の方々にもぜひご覧になっていただきたいです。
- ・分教室の1日の流れが詳しく分かりました。
- ・普段なかなか授業や行事の様子を見ることができないので、皆さんがどんな場所で、どのような学習をしているのか見ることができて、興味深かったです。交流や校外学習の様子も見れて、生徒の皆さんの生き生きした表情やドキドキワクワクしているのが伝わってきて、楽しかったです。
- ・限られた時間や場所、環境の中で、先生方の工夫やアイデアもあり、さまざまな活動に取り組むことができていて、見ていて楽しい気分になりました。生徒さんたちの表情もすごく楽しそうでした。
- ・限られた授業回数と時間、限られた人数の中、個別学習や集団での学習を取り入れながらやっていて細かく丁寧に授業づくりをしているなど感じました。
- ・触りながら、手を動かしながら、取り組むことができる教材をいろいろ準備していたので、参考になりました。登下校の様子も知ることもできたので良かったです。
- ・園芸、音楽、造形…と多岐にわたる学習活動に取り組むみなさまが、とても楽しそうでした。動画編集も秀逸でした
- ・一人一人に合わせた教材を準備して授業を展開していることが分かりました。
- ・できることを見つけて取り組ませていると思いました。
- ・病室に行ったことがなかったので普段の学習の様子を見たのは初めてでした。とても良い機会でした。ありがとうございます。
- ・みんなでの朝の会が楽しそうだと思います。本校舎で養教さんに説得されているのが面白かったです。
- ・病院の中の行き方などから始まり、実際の様子を疑似体験できて良かった。

エ まとめ

新校舎に移転したことで、小学部、中学部、高等部は同一校舎になった。令和5年度、本校舎に関しては時期をずらして学部ごと3回実施したが、普段から授業を参観する機会が増えたこともあり、参観者も以前に比べ減少傾向にあった。

そこで、令和6年度から本校舎に関しては特に期間を設けての実施は行わないこととし、必要に応じて参観することにした。

しかし、しゃくなげ分教室は校舎移転によって校舎が離れてしまい、また病院内でもあることから、コロナ禍以降感染症対策で制限もあり、授業を見学することや、分教室の生徒と交流することも難しい状況になってしまった。

そこで、分教室の授業に関しては動画を共有することにした。しかし、日々の業務で見逃すことも多かったため、今年度は上映会を設定した。すると、多くの職員が参加し、関心の高さが伺えた。国立釜石病院を訪れたことがない、コロナ禍以降に赴任した職員も多くなったためではないかと考える。コロナは一応収束となったが、病院内はまだまだ感染症に対する警戒は必要であることから、今後も気軽に参観することは叶わないと思われるため、当面は動画での授業見学は続ける方針である。



(4) まとめ

授業の質の向上のためには、様々な授業実践を見て学んだり、様々な情報の中からアイデアや知識を得たりしながら、指導者がスキルを磨いていく必要がある。

今回の研究では、授業改善のために必要な情報を共有するために、いくつか取り組んだが、教材リンク集について、職員アンケートの結果では、58%の職員がリンク集を活用したと回答している。活用しなかった理由としては「自分で作った教材で授業を行っている」や「自分で持っている教材で授業を行っている」とのことだったが、「どうやって活用するかわからなかった」「リンク集の場所がわからなかった」という回答もあり、情報の周知に問題があった。

研究部通信「瓦版」については78%の方に読んでいただき、他学部の様子や教材の情報、PLANTなどの情報について高評価をいただいた。リンク集やデータベースについても瓦版に掲載するなど、様々な方法で情報を目にする機会を設ければ良かった。

授業見学週間については概ね好評であった。分教室の様子について知る機会も少ないため、今後も継続していきたい。

今後もお互いの授業改善のため、また自己の授業に必要なアイデアや知識を得るためにも、情報を共有し、刺激し合いながら、よりよい授業作りに努めていきたい。

7 全校授業研究会

(1) 実施概要

ア ねらい

授業実践を検討することで、各部の実践を共有するとともに意見を深める。

イ 日時

令和5年12月20日(水) 15:40～16:40

令和6年12月17日(火) 15:40～16:40

ウ 実施形式

1年に2グループずつ実施。令和5年度は小学部と自立活動グループ、令和6年度は中学部と高等部グループで実施した。分科会形式とし、参加者が選択して参加した。

エ 授業

分科会	指導者	対象	教科・領域 単元名	助言者
小学部 グループ	山崎 雄太先生	知的通常 小学部5年	国語 「手紙を書こう」	校長 外館 悌先生
自立活動 グループ	北條 真聖先生	病肢通常 中学部3年	自立活動 「人とのかかわり方 について学ぼう」	指導教諭 佐々木 尚子先生
中学部 グループ	小笠原 早苗先生 三田地つぐみ先生	家庭班 (調理)	作業 「お菓子を作って販 売しよう」	副校長 後藤 知恵先生 中館 崇裕先生
高等部 グループ	菊地 菜生先生	知的通常 高等部2年	生活単元学習 「修学旅行に行こ う」	校長 安達 史枝先生 指導教諭 佐々木 尚子先生

オ 各分科会のメンバー構成と進め方

各分科会のメンバー構成案 …… 1分科会20名程度 5名×4グループ
授業者(T1)、担当研究部員(全体司会)、助言者で一つグループを作る
分科会への参加は希望をとって行う。

(2) 小学部グループ

ア 指導案

小学部 5年1組 国語科 学習指導案

日 時 令和5年12月13日(水)

9:30~10:15

対 象 小学部5年1組 2名

場 所 5年1組教室

指導者 山崎 雄太(T1)

1 単元名

「手紙を書こう」

2 内容のまとめ

小学部 国語 知識及び技能 3段階ウ(ウ)①
 思考力、判断力、表現力等 B書くこと 3段階ウ

3 単元の目標

- (1) 姿勢や筆記用具の持ち方を正しくし、文字の形に注意しながら丁寧に書くことができる。
- (2) 経験したことについて、簡単な語句や短い文で書くことができる。
- (3) 相手を意識し、思いや考えを伝えようとする。

4 単元について

(1) 児童(生徒)について

学級の在籍児童は3名であるが国語は2つのグループに分かれて行っている。本学習グループは、それぞれの児童に配慮が必要な点は異なるものの、概ね同じ学習内容や方法で学習に取り組んでいる。普段はもう1つの学習グループの児童もあわせて3名が同じ教室内で学習しているが、本単元では、学習の場を分けている。

休み時間に給食の献立や、ホワイトボードに書かれた文字を読むなど、言葉や文字に興味をもっている様子が見られる。簡単な指示を理解して行動することができるが、話し言葉は、必要な場面では知っている単語を話す程度であったり、自分が好きな話題では上手に話すことができる反面、質問されたり、話の意味が理解できなかつたりすると、どのように答えればよいのか分からず、困っている様子が見られたりする。

保護者は、簡単な感想文が書けるようになって欲しいという願いをもっており、国語の学習の中で2語文、3語文を作る学習に取り組み始めた。学習を積み重ねて語彙が増えてきているため、感想文や簡単な文を書くことができると考え取り組み始めたが、文を書く上で、動詞の理解や助詞の適切な使い方など、課題が見えてきた。国語の学習に取り組む目標を達成していく中で、児童の学校生活の中でみられる課題についてもアプローチしていきたい。

(2) 単元(教材)について

本単元では、教育実習生と過ごした思い出や感謝の気持ちを書き表し、手紙を送る学習を行う。手紙は、送る相手の存在や、伝えたいことがあって、児童にとってイメージしやすく取り組みやすいと考え、この単元を設定した。

児童にとって最近起こった実体験を文に表すため、文を構成する言葉についても、正しい意味や使い方を理解することにつながることを期待できると考える。また、今後の生活や学習の中で、自分の意思や気持ちを表出したり、複雑な指示を理解し行動したりするために、文章の意味を理解したり、作ったりすることは大切である。

本単元の学習を通して、簡単な文の作り方や言葉の意味の理解を深め、文を作って伝えることの楽しさを学び、生活や学習の中で、自分から意思や気持ちを表現する態度を養いたいと考える。

(3) 支援について

(知識・技能)

- ・イラストを見て、正しい姿勢や、筆記用具の持ち方を確認してから書き始める。
- ・なぞり書きできるようにして、文字の形や丁寧に書くことを意識できるようにする。
- ・筆記用具の持ち方について、それぞれの課題に合わせた補助具を使用している。

(思考・判断・表現)

- ・文にあった言葉やカードを選べるようにする。
- ・文にあった気持ちや感想のカードを選べるようにする。

(主体的に学習に取り組む態度)

- ・手紙を送る相手が分かるように写真を掲示する。
- ・手紙を送る相手と過ごした思い出と一緒に振り返り、学習への期待感を高めるとともに、手紙を書くイメージをもてるようにする。
- ・前の単元で学習した文の作り方に触れ、活動のイメージをもてるようにする。
- ・活動の流れが明確になるようにスケジュールを視覚的に提示する。

(研究との関わり)

- ・iPadのアプリ「Drop talk」を活用し言葉をグループ分けして表示することで、言葉を選ぶヒントになるようにする。
- ・前単元から導入で取り組んでいる「動作のことば学習カード」を活用し、動作を表す言葉や助詞の使い方について触れて、イメージできるようにする。

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
姿勢や筆記用具の持ち方を正しくし、文字の形に注意しながら丁寧に書いている。	経験したことについて、簡単な語句や短い文で書いている。	相手を意識し、思いや考えを伝えようとしている。

6 指導と評価の計画（6時間）

時	学 習 活 動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
全時	○動詞のことばカードの勉強 ・動詞のことばカードの言葉 ・感想を表す言葉	・対応する言葉を考える機会を確保するために、答える児童を順番に指名する。 ・児童に提示するときには、「ことばカードのペンきょう」と分かりやすく提示する。	【思判表】 発言
1	○手紙の書き方の勉強 ・前文を書く。 ・主文の書き方を勉強する。 ○文を発表する。 ・授業で書いた文を発表する。	・自分で考えるヒントになるように、カードを準備する。 ・児童の作った文のよかった点を評価して伝える。	【知】 行動の観察 【思判表】 発言やプリントへの記入の確認 【主】 発言

2 ・ 3 ・ 4	<ul style="list-style-type: none"> ○文を書く。 <ul style="list-style-type: none"> ・写真について表す文を書く。 ・写真について表す感想文を書く。 ○文を発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ・授業で書いた文を発表する。 ・授業で書いた感想文を発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて体験を想起できるよう、ヒントを出す。 ・自分で考えるヒントになるように、カードを準備する。 ・児童の作った文のよかった点を評価して伝える。 	<p>【思判表】 発言やプリントへの記入の確認</p> <p>【主】 発言</p>
5 ・ 6	<ul style="list-style-type: none"> ○手紙を書く。 <ul style="list-style-type: none"> ・前文を書く。 ・書きためた主文の中から2つ選び、書く。 ・末文を書く。 ・後付けを書く。 ○手紙を発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ・授業で書いた手紙を発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時で書いた文を参考にできるよう提示する。 ・自分で考えるヒントになるように、カードを準備する。 ・児童の作った文のよかった点を評価して伝える。 	<p>【知】 行動の観察</p> <p>【思判表】 発言やプリントへの記入の確認</p> <p>【主】 発言</p>

7 題材に関する児童（生徒）の実態と手だて

児童	実 態			手だて
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
A	<ul style="list-style-type: none"> ・鉛筆をもつ手の小指がうまく握れないため、おはじきを小指で握って字を書いている。 ・背中が丸まったり、足を机の足に乗せてしまったりなど、姿勢が崩れることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・経験したことについて、写真に写っている人や、物については概ね正しく答えることができる。 ・何をしているかについてはどのように答えてよいか分からないことが多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育実習生に手紙を出すことが分かり、意欲的に取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・カードは言葉だけではなく、ヒントになるように、写真やイラストをつける。 ・写真の出来事についての振り返りを教師と一緒に行う。
B	<ul style="list-style-type: none"> ・筆圧が濃いため、鉛筆の持ち手にグリップを付けている。 ・見え方に難しさがああり、目と手の距離が近い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・経験したことについて、写真に写っている人や、物については概ね正しく答えることができる。 ・分からない単語も多く。何度かヒントを頼りに書いているうちに覚えることがあった。 ・前時までの学習を通して、写真から説明する文を概ね正しく予想できるようになってきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育実習生に手紙を出すことが分かり、意欲的に取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・写真の出来事について一緒に振り返る。 ・どんな言葉を使えばよいか分からないときには、イラストや写真付きのカードで考えられるようにする。

8 本時の指導（4／6時間）

(1) 本時の目標

- 経験したことを簡単な文で書くことができる。【思考・判断・表現】
- 伝える相手が分かり、思いを伝えようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】

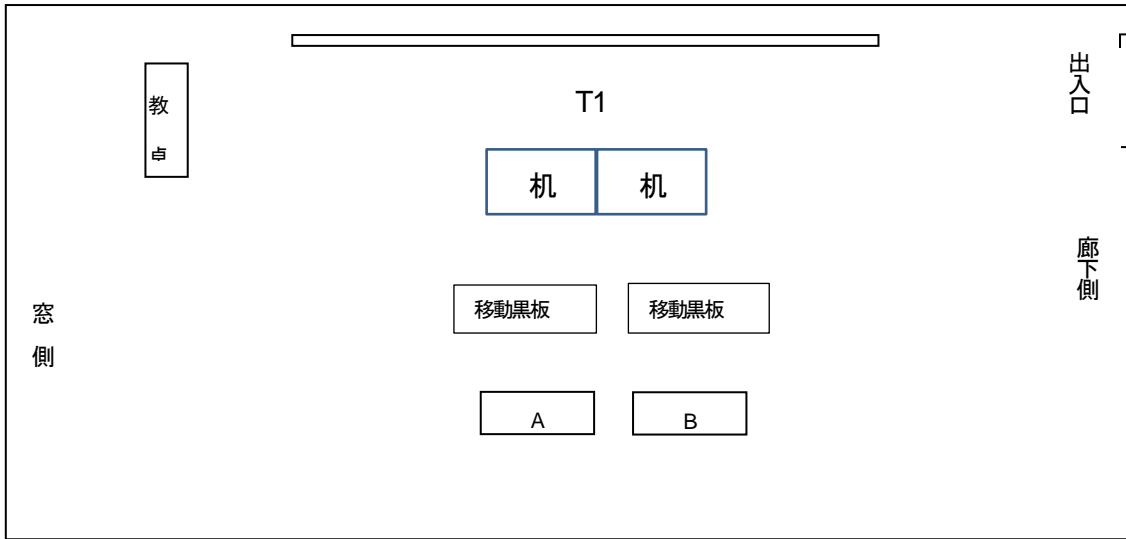
(2) 各目標に対する個別の目標と手だて

児童	本時の個別の目標		手だて
	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
A	・経験したことについて、内容に合った動詞を選び、簡単な文で書くことができる。	・伝える相手が分かり、思いを伝えようとしている。	・カードは言葉だけではなく、イラストや写真を付ける。
B	・経験したことについて助詞を適切に使い、簡単な文と感想で書き表すことができる。	・伝える相手が分かり、思いを伝えようとしている。	・分からないときには、ヒントになるような言葉のカードや、イラストや写真付きのカードで考えることができるようにする。

(3) 本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意点	評価
9:30	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶 ○本時の学習について知る。 ・「ことばカードのべんきょう」 ○言葉カードのイラストを見て対応する言葉を考える。 ○言葉カードのイラストに対応する言葉を確認し、みんなで読む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習について振り返る。 ・本時の活動を示しながら伝える。 ・対応する言葉を考える機会を確保するために、答える児童を順番に指名する。 	<p>【主】手紙を書く相手が分かり、出来事を思い出そうとしている。（発言）</p> <p>【思判表】イラストをヒントに自分なりに回答している。（発言）</p>
9:40	<ul style="list-style-type: none"> ・「おもいでのにゃしんをえらぼう」 ○好きな写真を選ぶ。 ・写真について表す文を書く。 ○選んだ写真を見ながら文を構成する要素に当てはまる言葉を考える。 ○手順を頼りに、言葉を組み合わせ文を作り、プリントに書き込む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホワイトボードに思い出の写真を提示し選ぶことができるようにする。 ・言葉（カード）を選択できるように、iPadで要素ごとにグループ分けし、表示できるようにする。 ・手順を提示する。 ・複数の文を作れるようプリントを準備する。 ・必要に応じて一緒に考える。 	<p>【思判表】簡単な語句や、短い文で書いている。（発言、観察）</p>
10:05	<ul style="list-style-type: none"> ・作った文の発表 ○自分の作った文を発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が作った文のよかったところを評価し、伝える。 	<p>【主】手紙を書く相手が分かり、思いを伝えようとしている。（発言、観察）</p> <p>【思判表】内容に合った動詞や助詞を使って文を書いている。（発言、観察）</p>
10:10	<ul style="list-style-type: none"> ○次の学習への見通しをもつ。 ・挨拶 	<ul style="list-style-type: none"> ・次の時間は文を選んで手紙を書くことを伝える。 	

【教室の配置図】




イ 授業計画シート

授業計画シート						
学部	小学部 山崎 学級	2・3段階	段階 主に	国語	段階 授業 時数	70 時間 授業者 山崎・菊池
目標	知識及び技能	日常生活に必要な国語について、その特質を理解し使うことができるようにする。				
	思考力、判断力、表現力等	日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を身に付け、思考力や想像力を養う。				
単元名	学びに向かう力、人間性	言葉で伝え合う良さを感じるとともに、言語感覚を養い、国語を大切にその能力の向上を図る態度を養う。				
	単元目標	手紙を書こう				
単元目標	関連する教科	内容のまとめ	単元目標			
	国語・小	3段階ウ(ウ)①	・姿勢や筆記用具の持ち方を正しくし、文字の形に注意しながら丁寧に書くことができる。 ・経験したことについて、簡単な語句や短い文で書くことができる。			
児童生徒の姿	好きなこと 嫌いなこと	言葉に関すること	数に関すること	作業面に関すること	その他(認知面など)	
	A ・iPadで写真を撮ること、YouTubeを見ること、お絵かき、髪を結ぶことなどが好き ・予定の変更や、間違いを指摘されることなどが苦手。	・平板名と片仮名を正確に書くことができる。 ・平板名は概ね正しく書くことができる。片仮名はシ、ツ、フの書き分けが難しく練習中。また、平板名で書くか片仮名で書くかの判断することが難しい。 ・動詞の使い分けが難しい。 ・聞き取った言葉を正しく書き取るようになってほしい。」「感想文を自分で書けるようになってほしい。」という保護者の願い。	・100までの数は概ね分かる。 ・数唱したり、書いてたりできる。 ・時計は何時、何時半まで読める。 ・20までの数の大小が概ね分かる。 ・合わせた数が20までの足し算ができる。 ・残った数が10までの数の引き算を練習中。	・ハサミやのりを使った作業がおおねほりりである。 ・慣れている作業であれば、簡単な手順表を見て、ひとりり作業を進めることができる。 ・完成を急いでしまいい、手順を飛ばしてミスしてしまうこともある。	・歩行が不安定で、重いものは遠くまで運べない。 ・階段は一人で上り下りできるが、転倒の危険があるため、見守りが必要。	
B	・お絵かきやお手伝いが好き。 ・間違いを指摘されることなどが苦手。 ・宿題は嫌がる。	・平板名と片仮名を概ね正しく書くことができる。 ・片仮名はシ、ツ、フ、ア、マの書き分けが難しく練習中。 ・平板名で書くか片仮名で書くかの判断することは難い。 ・動詞を考えた選択することができる(ミスもあるが)。 ・「感想文を自分で書けるようになってほしい。」という保護者の願い。 ・書くことのできる量が増えた。	・100までの数は概ね分かる。 ・数唱したり、書いてたりできる。 ・時計は何時、何時半まで読める。 ・数の大小は具体物を使って判断できる。 ・合わせた数が20までの足し算ができる。 ・残った数が10までの数の引き算を練習中。	・ハサミやのりを使った作業がおおねほりりである。 ・慣れている作業であれば、簡単な手順表を見て、ひとりり作業を進めることができる。 ・丁寧に取組むが、時間内に作業が完了しないことがある。	・歩行が不安定で、重いものは遠くまで運べない。 ・階段は一人で上り下りできるが、転倒の危険があるため、見守りが必要。	
その他 特記事項						

教材の種類	消耗品	消耗品	制作教材	プリント類	あり	その他
使用教材	プリント、iPad、動作のこぼし学習カード					
使用方法・配慮事項	1人1台ずつ使用する。必要に応じて支援する。					
①写真を見て、どんな写真か確認する。	<p>※分からないときには、iPadのヒントを手掛かりにして書き込む。</p> <p>①確認したい要素を選んでタップする。</p> <p>②リストをタップすると拡大される。→</p> <p>※タップすると、音声が出る。※他の要素についても同様。</p>					
②プリントやiPadの手順を手掛かりにして文を作る。	<p>②タップすると暗く表示され、終わったこと</p>					
☆ことばの学習カード	<p>授業の導入で行う。イラストに合う言葉を考えたり、みんなで読んで確認したりする。</p>					
反省・改善点						

ウ 学習プリント

☆しゃしんについて しらべよう！① (A) なまえ _____



①いつ？

	月	日							

児童A用 1枚目

②どこで？

③だれが？

④なにを？

児童A用 2枚目

☆しゃしんについて 書いてみよう！ なまえ _____

①いつ？

②どこで？


③だれが？

④なにを？

	月	日							

児童A用 3枚目

☆しゃしんについて しらべよう！② (B) なまえ _____



①いつ？

	月	日							

児童B用 1枚目

②どこで？

③だれが？

④なにを？

児童B用 2枚目

☆しゃしんについて しらべよう！③ のきもち、かんそう なまえ _____

⑤いつ？

⑥いつ？

児童B用 3枚目

☆しゃしんについて 書いてみよう！ なまえ _____

①いつ？

②どこで？

③だれが？

④なにを？

⑤いつ？

⑥いつ？

⑦きもち、かんそう

	月	日							

児童B用 4枚目

エ 授業研究会

(ア) 教材 (DropTap) の紹介

グループ協議に先立って、今回の授業で使用した教材についての紹介を行い、研究会の参加者に実際に触ってもらった。

アプリの紹介 (Drop Tap)

- ① 2000 語のシンボル・音声搭載
コミュニケーション・シンボル「ドロップス」
2000 語が音声と共に収録されています。
カテゴリ検索とキーワード検索で、簡単にシンボルを探せます。
- ② 自由なボード編集
DropTap のボタンは好きな数だけ自由に配置できます。
iPad の向きに合わせて自動で整列します。
- ③ 写真・テキスト・音声
ドロップスだけでなく写真やテキストを登録することができます。
ユーザーの声の録音、合成音声の使用もできます。
- ④ センテンスモード
センテンスモードでは、シンボルを並べ、
連続して再生することができます。
- ⑤ タグ
作成したボードにタグを付けることで、場面ごとに使用するボードにすばやくアクセスすることができます。
- ⑥ 外部スイッチ
スイッチインターフェイスを用いて外部スイッチで操作することができます。
- ⑦ ログ
いつ、どのボードの、どのボタンをタップしたか記録を取ることができます。
データは Excel や Google スプレッドシートで利用できる CSV ファイルとして書き出せます。
- ⑧ マルチタスク
iPad のマルチタスク機能に対応しています。
画面を分割する Split View を使えば DropTap から別のアプリにシンボルを貼り付けたり、インターネットから DropTap に画像を挿入したりすることが簡単にできます。



(イ) グループ協議

【1グループ】

授業について
<ul style="list-style-type: none"> ・対象児童がカードを元気に読んでいた。 ・切ったり貼ったりの流れを理解して、自分で進めていた。 ・文づくりにも意欲的 →とても主体的な活動
<ul style="list-style-type: none"> ・今日の学習の予定が字で提示されており、はじめに確認してから取り組んでいたのが良い。(読んで見通しがもてる) ・書いてあるもの(カード)、書いたもの(感想文)を読んで確認したのが良い。(対象児童は字を読んで確認できるので)
教材について
<ul style="list-style-type: none"> ・児童が使い方(アプリ)に慣れて使用している。 ・児童が使い方(電源 on→片付け)を分かっているようで良いと思った。 ・iPadのアプリが困った時のお助けツールになっていて、児童も楽しく自信をもってできて良い。 ・プリントとDroptapのボードの内容が上手にリンクしていて学びやすいと思いました。 ・<文を構成する>当てはまる言葉・文のヒントになる良い教材。 ・アプリでことばを選択することで、合った言葉を知る手がかりとなっていた。 ・児童の習熟度に合わせてドロップを変えることができて良いと思った。 ・気持ちを絵カードで確認できることが使いやすい。 ・「ことばカードのべんきょう」について。数枚を1回教師と確認したら、次は絵だけを見て一人で答えられるかを確かめても良いかと。(もっと枚数を減らして) ・ことばカードは、字の部分を全部提示せず、引き出したい部分を隠す・一部隠すなどしてはどうか。 ・ことばカードの動作を表す言葉、児童にとって身近なことばから取り組んだ方がよい? ・プリントとアプリの動詞は「なにを<u>した</u>」とするとどうか。(動詞なので)

【2グループ】

授業について
<ul style="list-style-type: none"> ・見通しをもちやすかった。 授業の流れ、自分がやること、何について考え表現するか
<ul style="list-style-type: none"> ・カード→動詞を話す、その後ワークシート 流れの見通しが立って落ち着いて取り組んでいる。
<ul style="list-style-type: none"> ・授業の流れ、活動内容に見通しをもちやすかった。 ・対話的な学びを補償するために、教師が発表の手本を示すのも方法の一つだと思った。 ・句読点の位置など、作文の際のルールを確認したほうがよい。 ・文章を考える時間を確保するために写真を切る活動はなくてもよいかも(実態に合わせて) ・気持ちを表現することのよさを感じられるようにするとよい。例えば、「実習楽しかったです」等の実習生の気持ちが分かる手紙を読むなど。
教材について
<ul style="list-style-type: none"> ・カードを活用することで、次の活動の文を書く練習に繋がっていた。 ・プリントが文節ごとに書く欄が分かっていたので書きやすく、場面を想起しやすいと思った。 ・文節の少ない文章から始めて、徐々に増やしていくのもいいと思った。

【3グループ】

授業について
・写真を活用することで、場面を想起しやすい。
・アプリとプリントの使い分けができています。
・文章の書き方（縦書きと横書きの使い分け）や句読点などのルールについて確認したほうがよい。
・イスの座り方や机上など環境整理の指導・支援ができるとよい。
・称賛する際は、具体的に言葉掛けできるとよい。
教材について
・言葉カードは、発展した使い方もできるのでいいと思った。
・プリントでは、文節ごとに分けて書いてから最後に一つの文章につなげるのが分かりやすかった。
・手紙なので、気持ちや感想を引き出してまとめる活動があるとよい。
・iPadを最初から提示するのではなく、自分の力で考える時間を作ってから使う、という進め方もいいと思った。

(ウ) 助言者から

a (グループ協議時に) 佐藤副校長から

- ・言葉カードについて。動詞まで言わせたいが、名詞で止まってしまう。名詞と動詞とカードを並べて文を作るのはどうだろうか。
- ・iPadは文を作る手立てとしては有効。写真と文字と音声が入っていた。五感をできるだけ使うことが大切。
- ・「思いを伝える」という部分がなかった。気持ちなど、どう思っているのか。単元が「手紙を書こう」だから思いも盛り込んだ方がよいのでは。今回は出来事を伝えるだけになっていた。

b (グループ協議時及び全体へ) 外館校長から

- ・自分の思いを表現することに難しさがある子ども、「伝えたい・伝わってほしい」という気持ちがあることは確かなので、話す・書くなど伝えるための力を育てることは大切。
- ・カードで様子や動作を引き出す活動では、その子に合わせた教材の活用の仕方が大事。
- ・アプリは実態に合わせて文節の種類を調節できるなど、取り入れたい活動を選べる利点がある。プリント等で書く活動では、間違えたときに消さないといけなくなるが、アプリでは簡単に戻ったり、やり直したりすることができるので、間違えることに抵抗のある子どもモチベーションを下げないために効果的である。
- ・文章の5W1Hは、実態に合わせて文章づくりに取り組めるとよい。
- ・手紙は思いを伝えるためのものなので、感情を表現するための工夫は必要。日常の中で、そのつど気持ちと感情を表す言葉とをすり合わせていくことが大事。
- ・ICTは個に合った使い方が必要。デジタルとアナログの使い分けが重要になってくる。活用することで、その子の活動を広げたり、学びを深めたりすることができる。

(エ) 授業参観シート

授業参観シート			
参観日	12月13日(金)	参観者所属	小学部・中学部・高等部・分教室
参観していた時間帯： 9時30分頃 ～ 10時15分頃			
学部・学年等	小学部・5年	教科名等	国語
項目	いいね	おいしい	※判断できない
【主体的な学び】			
○ 学習意欲を高める教材教具とその提示方法の工夫★	5	1	
○ 学びやすさ、動きやすさを考慮した動線の工夫	4		1
○ 授業の流れや今日の目標の分かりやすい提示	6		
○ 自己選択、自己決定場面の設定	5	1	
○ 「気付き」を促す場の設定や手掛かりの用意	4	2	
○ 評価方法の工夫（自己評価、相互評価、他者評価など）	3	1	2
○ 次の学習意欲につながる効果的な振り返りの設定	2		4
【対話的な学び】			
□ 試行錯誤しながら活動に向き合える教材教具の工夫★	4	1	1
□ 児童生徒一人一人が活躍したり、認められたりする場の設定（役割の明確化）	5		1
□ 児童生徒の様々な表出への気付きと受容、フィードバック	3	2	1
□ 他者との対話場面の設定（存在に気付く、関わりを楽しむ、話し合いの活動など）	1	1	4
□ 自分の気持ちや考えを整理したり、表現したりする場面の設定	2	2	2
【深い学び】			
① 他の教科等や行事、生活場面でも活用できる教材教具の工夫★	6		
② 他の教科等や行事、生活場面と関連した単元や題材の設定	6		
③ これからの他の教科等や行事、生活場面において学びを生かすことのできる単元や題材の設定	5		1
④ 余暇や生活の楽しみ、豊かさにつながる活動内容の工夫	3		3
【その他 気付いたこと】			
<p>・急遽一人での授業になり、児童同士で感想を伝え合う予定だったができなくて残念だった。一人の時は先生が簡単な感想を児童に離してみるのも伝え合いなのかと思った。</p> <p>・児童Aがとても意欲的に活動 ご意見をたくさんいただきました。</p> <p>・優しく穏やかな口調と生徒の解 ありがとうございます。</p> <p>・導入での「言葉カード」でもう少し工夫が欲しい。身近な例なので実際にやってみて動詞を身に付けさせるとか。女子をヒントに出すのもいいと思う。</p> <p>・気持ち、動作、反対言葉と音読などやれる事がたくさんあると思う。</p> <p>・気持ちの選択肢がたくさん提示されていたが、子供自身が気持ちの違いとそれぞれの名称が合致していないと多い選択肢から選ぶのは難しいと思った。</p>			

(3) 自立活動グループ

ア 指導案

中学部 3 年病肢通常学級 自立活動指導案

1. 単元名「人とのかかわり方について学ぼう」

2. 本時の目標 「相手の気持ちを考えよう～こんなとき、相手はどう思うかな?～」


3. 展開案

時間	指導内容	指導の手立て	準備物
11:25	1. 挨拶 2. 本時の内容について確認 ①今の気持ち・気分について ②人とのかかわり方について学ぼう!	・見通しをもって取り組めるように、活動の流れを板書して伝える。	・SST資料 (各書籍) ・学習シート
11:30	①今の気持ち・気分について ・「ストレスカップ」に今の気持ちや気分(特に不安なことなど)を線や数字で表す。 ・具体的な不安について教師と一緒に確認する。 ・不安を少なくすることについて考える。	・最初は、最近楽しいと感じたことや面白かったことなど、日常の話をする事で緊張を和らげる。 ・自分の気持ちをカップの中の水に例えて、線をつけたり数字を書いたりすることでイメージしやすいようにする。 ・自分の言葉で表現することが難しい様子ときは、選択肢や最近の出来事を提示して考えられるようにする。 ・口頭だけではなく、イラストなどを活用して表現を視覚的に補う。	・ストレスチェックのシート 「ストレスカップ」
11:45	②人とのかかわり方について学ぼう! お題「こんなとき、相手はどう思うかな?」 ・学習シートのエピソードを読み、登場人物A、Bそれぞれの立場になって行動や気持ちを考える。 ・教師と一緒にロールプレイで実際のやりとりを練習する。	・イメージしやすいように、日常生活での出来事や今後想定されることをお題として提示する。 ・イラストを活用したり、吹き出しをつけたりして人がどのように考えるかイメージしながら自分の言葉で表現できるようにする。 ・相手の気持ちをイメージしにくい際には「先生だったら〇〇と思う」など、例を提示して考えられるようにする。 ・どう対応して良いか分からないときは「～のときは〇〇すると良い」と伝える。	・学習シート
12:10	3. 本時のまとめ ・本時の内容について振り返る 4. 挨拶	・学習しての気持ちを確認する。 ・困ったときの対応を再度確認し、実践できるように促す。	

イ 研究会資料

転校までの経過
省略

2 授業の様子について



3 本生徒の特性、エピソード

<特性>

- ・イメージすることが難しく、新しいこと、未知のことへの不安は大きい。事前学習をすることで安心して取り組みやすくなる。抽象的な概念で捉えることが難しいので、伝える際には、イラストや画像、具体物などを提示すると分かりやすい。
- ・人との関わり方に難しさあり。自分の好きなことについて話し続けることが多く、内容も妄想が多い。
→話すときの自分のターン・相手のターンを決めたり、「今〇〇さんと話しているから待っててね」と伝えることで相手が話し終わるまで待ったりすることが増えてきた。
- ・自分の気持ちの表現方法が難しい。特に困ったときのSOS発信は難しく、学校での不安や困ったことがあると、直接的な原因を伝えることが難しいので別などころでの不安を訴えて、欠席するパターンが多い。
→「～のときは～と言うと良い」と伝えると、その通りに伝えようとするが増え、自分から気付いて行動することも増えた。
- ・記憶する力が弱く、物を元あった場所に片づけることが難しかったり、忘れ物が多かったりする。
→物を置く場所を視覚化して提示するとその通りに置くように努めるが、慣れてくると自分のやりやすいところに置いたり片づけたりしてしまいがち。
- ・自分のイメージしにくいことで指摘されると、何を言われているか分からなくなる。

<エピソード～こんなことあったよ～>

①人生初!?スライドカッターにドキドキ!

経験不足から、初めてのこと・ものにはとてもドキドキ・ビクビクしがち。スライドカッターを初めて使うとき、最初は渋っていたが効率の良さを伝えるとビクビクしながら使い始めた。初めてなので「(使い方が分からない)」と伝えることに対しても恥ずかしさがある様子。

②嬉し恥ずかし「ありがとう」の言葉

自分のしたことに対して「～してくれてありがとう」と言われる経験が増えたことから、積極的に手伝いに取り組むようになった。

③楽しい下校バス!

中学部・高等部の生徒と話ができる貴重な時間ということで、下校バス乗車日はとてもウキウキしている。話ができる生徒もまた友達思っている様子。

ウ 授業研究会

自立活動グループは、対象生徒の実態について授業者から説明後、グループごとに生徒Aについての課題について自立活動の6区分に沿って整理をし、目標設定を行った。また、その目標についての指導内容についても話し合った。

(ア) グループワーク（課題の整理と目標設定）

1 実態把握と課題の整理（B1グループ） 原文のまま 赤字：口頭説明					
1 健康の保持	2 心理的な安定	3 人間関係の形成	4 環境の把握	5 身体の動き	6 コミュニケーション
	<ul style="list-style-type: none"> 課題と向き合う力 不安を感じやすいこと 	<ul style="list-style-type: none"> 不安の伝え方 未知のことこわい ＝ 経験の不足 経験不足 人との関わり方 	<ul style="list-style-type: none"> 事実と想像の区別 自分の信じたことを思いこむ イメージの難しさ イメージする力 		<ul style="list-style-type: none"> 気持ちの表現 言葉と気持ちの不一致？ 自分の気持ちの表現方法
<p>本人の1番の困り感は「経験不足」からきているものと考えた。そのため、「人との関わり」に課題がある。</p>					
2 目標の設定（B1グループ） 赤字：口頭説明					
<p>自分の気持ちを表現しよう。</p>					
<p>人との関わりに関する課題が多いと考え、この目標と指導内容を設定した</p>					
3 考えられる指導内容（学習活動）と教材のアイデア					
指導内容（学習活動）				教材	
<ul style="list-style-type: none"> SST ロールプレイ 認めあう場の設定 				<ul style="list-style-type: none"> SSTワークシート 	

1 実態把握と課題の整理（B2グループ） 原文のまま 赤字：口頭説明					
1 健康の保持	2 心理的な安定	3 人間関係の形成	4 環境の把握	5 身体の動き	6 コミュニケーション
<ul style="list-style-type: none"> 体重コントロール 食生活不規則 	<ul style="list-style-type: none"> 初めてのことへの不安が大きい SOS発信が難しい →別なところで不安を訴え欠席 気持ちを正直に伝えられない SOS発信が難しい SOS発信 不安への対処手段がとほしい（自分から解決にむかえない） 	<ul style="list-style-type: none"> 人との関わり 友達になりたい 友達のイメージ 	<ul style="list-style-type: none"> わかっている（経験している）ことと未知のことをつなげる。 		<ul style="list-style-type: none"> 協調性が足りない！ 人の話を聞くのが苦手
<p>心理的な安定に関する課題がいっぱい出た。この課題を受けて、目標「自分で不安を解決する方法を見つける」を設定した。</p>					
2 目標の設定（B2グループ） 赤字：口頭説明					
<p>自分で不安を解決する方法を見つける</p>					
3 考えられる指導内容（学習活動）と教材のアイデア					
指導内容（学習活動）				教材	
<ul style="list-style-type: none"> ききとりをもとにした考え方サイクルシート（仮称）を使った気持ちの整理 整理したことを伝える手段の選択 				<ul style="list-style-type: none"> 考え方サイクルシート（仮称） 	
<p>手段の選択肢を本人の中に増やしていく</p>					

1 実態把握と課題の整理 (B3グループ) 原文のママ 赤字:口頭説明					
1 健康の保持	2 心理的な安定	3 人間関係の形成	4 環境の把握	5 身体の動き	6 コミュニケーション
<ul style="list-style-type: none"> ・体重管理 ・生活について 食等 	<ul style="list-style-type: none"> ・新しいことへの不安 ・うまくいかなかった過去の経験が行動を止める(二次障害) ・経験不足 ・知らないことへの不安 ・毎日、精神的に安定していないように ・登校渋り 	<ul style="list-style-type: none"> ・人との関わりの難しさ 	<ul style="list-style-type: none"> ・イメージする力が弱い(記憶と関係?) ・記憶する力が弱い(イメージと関係?) ・記憶する力が弱い ・社会に出るためのイメージがとぼしい ・記憶する力が弱い ・物の整理、片付け 		<ul style="list-style-type: none"> ・教師との対話を通して学びをできるように ・自分の気持ちを適切に伝えることが難しい ・気持ちの表現 ・相手に自分の気持ちを伝える
<p>本人の1番の困り感は「新しいことへの不安」。これは経験不足からきていると考えられる。</p>					
2 目標の設定 (B3グループ) 赤字:口頭説明					
<p>受験 がんばろう</p>					
3 考えられる指導内容(学習活動)と教材のアイデア					
指導内容(学習活動)			教材		
<ul style="list-style-type: none"> ・夢をはなそう ・身近な高校について知ろう ・経験をつみかさねよう ①買い物 ②通学練習(バス) ③気持ちを伝える練習 ・見学しよう 			<p>ワークシート(自分の夢、必要な力)</p> <p>具体的にイメージすることで不安をとりのぞくことを検討した</p>		

(イ) 授業者から

a 担任としての課題の見取り

- ・生活リズムが整っていない。筋力・体力に乏しい(健康の保持)。
- ・未経験のことに対する不安が大きい(心理的な安定)。
- ・自分から関わりを持つことは苦手(人間関係の形成)。
- ・音声だけでは覚えておくことが難しい(環境の把握)
- ・筋力や体力のなさから動きが鈍くなることがある(身体の動き)。
- ・自分の話したい話題に集中して、一方的に話しがちになる(コミュニケーション)。

b 年間授業計画、授業略案

- ・授業について、「人とのかわりを学ぼう」をメインに設定した。欠席が多くて自立活動の時間が取れないことが悩みどころ。
- ・SST、ロールプレイ、表情カードなどを取り入れている。表情を読むのが難しい。
- ・スクールカウンセラーは双葉小学校のころを知っていて、「自分にみんなが合わない」という小学生時代に比べて、「みんなに合わせたい」と思っている現在に、大きな成長を感じていた。
- ・今後、望ましい人生選択につなげていきたい。

(ウ) 助言者から

- ・小学校および中学校の学習指導要領の改訂に伴い、「自立活動」がクローズアップされた。背景としては、発達障害が普通学校に増えてきたため（ナンバー校でも）。
- ・「自立活動」は教育課程の基盤になっている。生きていくための部分と、学習上・生活上困っていることへの部分である。
- ・6区分のうち「健康の保持」について、「障害の特性の理解と生活環境の調整に関すること」という新しい項目が記載されている。
- ・「自立活動」はオーダーメイドの内容。一人ひとりに合ったものでなくてはならない。
- ・指導目標をたてるにあたり必要なフローチャートは指導要領にも記載されているが、手順が多い。岩手大学附属特別支援学校で改良したものを紹介する。

【岩手大学教育学部プロジェクト推進事業教育実践論文集 2021 より】

- ①担任、副担など児童生徒に関わる全ての人が、気になることや課題だと思うことを書いて持ち寄る。付箋1つにつき内容1つ記載する。
- ②付箋を区分ごとに整理し、どの項目と関連するか確認する。
- ③整理して見えた中心的課題を抽出し、要因や原因を考える。
- ④半年後、1年後の具体的な姿を想定し、そこから長期目標を設定する。
- ⑤長期目標を達成するための関連項目を選択する。
- ⑥短期目標とその指導内容（※支援内容ではない）を設定する。

(4) 中学部グループ

ア 指導案

中学部 第1～3学年 作業学習 家庭班 学習指導案

日時 令和6年12月4日(水)

10:30～12:15

対象 中学部1～3年 4名

場所 図工室

指導者 小笠原早苗(T1) 新沼千明(T2)

菊池京美(T3) 佐々木幸枝(T4)

1 単元名

「お菓子を作って販売しよう」

2 内容のまとめ

中学部 家庭 A 家族・家庭生活 ウ(ア)

中学部 国語 A 聞くこと・話すこと エ

中学部 職業 A 職業生活 ア(ウ)

3 単元の目標

- (1) 調理に必要な材料の分量や手順などについて理解し、適切にできる。[知識及び技能]
- (2) 相手に伝わるように発音や声の大きさ、速さに気をつけて話したり、必要な話し方を工夫したりすることができる。[思考力、判断力、表現力]
- (3) 作業や実習等に達成感を得て、進んで取り組むことができる。[学びに向かう力、人間性]

4 単元について

(1) 児童(生徒)について

本作業班では、刺し子と調理・販売に取り組んでいる。そのうち調理活動は「チョコレートケーキ」「アメリカンドッグ風たこ焼き」の2グループに分かれて行っている。

4名のうち3名は今年度初めて家庭班での作業に取り組んでいるが、全員意欲的に取り組み、手順表を頼りに教師と一緒に調理を進めることができている。

また、用具の扱い方にも慣れ、安全に調理をすることができている。一方で、手指機能の困難さ、働く態度面、教師のアドバイスを聞き入れられずイライラする、調理に慣れてくると自分の勘を頼りに作り進めようとしてしまうなど様々な課題がある。「お客さんの手に渡る製品だから丁寧に作ろう」という意識は全体的にまだ薄い現状である。また、衛生面についても課題が残っている。入浴時に身体が綺麗に洗えていないことがあり、調理中に顔や頭をかいてしまうことがある。調理がある日には家庭に身だしなみチェックシートを提出してもらい、家庭とも連携しながら、意識を高められるようにしているところがある。(資料参照)

(2) 単元（教材）について

家庭班では、校内実習中は週に2回、普段の作業学習では週に1回調理をし、校内の職員に販売を行っている。前期は、ねこちゃんホットケーキととうふチップスの調理・販売に取り組んだ。これらの調理活動を経て、混ぜる、型に入れる、焼くなどの活動に安全・正確に取り組めるようになった。しかし、とうふチップスについては、その時によって焼きあがり方が違ったり、時間内に作りあげるのが難しく、生徒自身が考え、工夫しながら調理する時間的余裕を確保できなかったりするなどの課題があった。また、ねこちゃんホットケーキについては、生徒にとって調理工程が簡単だったため、更なるスキルアップを目指していく必要があった。そこで新メニューの開発を行った。前期の調理では無かった材料の計量や、カットの工程が含まれるもの、同量を同質で安定して時間内に作れるものなどの条件を踏まえ、後期は炊飯器チョコケーキとアメリカンドッグ風たこ焼きの2種類を作ることに決定した。チョコケーキ作りでは、材料の計量を初めて行い、既定の量までホットケーキミックスやマーガリンを調節して量ることができるようになってきており、毎回一定の質を保った製品を作ることができている。しかし、教師の指示がないと作り進められなかったり、手順表を見ないで作ろうとして間違えそうになったりするなど課題がある。たこ焼き作りでは、具材のカットをする生徒と、材料を計量し生地を作って焼く生徒に分かれて作業している。焼く工程では焼き加減の判断が難しかったり、焼きあがっていくスピードに生徒が追い付かなかったりする課題がある。それらを踏まえ、調理製品の更なる開発・改善を今後も行っていく必要がある。

調理に関して、昨年度までは自分が作ったものを自分で食べるという経験しかなかった生徒もいたが、調理・販売を繰り返し経験することで、製品を作るということを理解し、見通しをもって活動することができるようになった。また、商品と一緒に配付しているアンケートの回答などから商品や接客について振り返り、改善を重ねている。

調理・販売の活動を行い、お客さんに喜んでもらえることで、働く喜びややりがいを感じたり、より良い製品を作ろうという意欲を高めたりすることができるのではないかと考える。

(3) 支援について

(知識・技能)

- ・ 用具の基本的な扱い方や安全な扱い方について示範する。
- ・ 報告のタイミングを示した調理の手順表を机上に配置する。
- ・ 取り組み時間の目安としてタイマーを活用する。

(思考・判断・表現)

- ・ 材料を正しく計量できるように、多いときは「減らす」少ないときは「増やす」などと書いたカードを用意する。
- ・ 会計や接客の仕方をロールプレイングで練習する場を設定する。
- ・ 困ったときに確認できるように、接客で用いる基本的な挨拶を机上に示す。

(主体的に学習に取り組む態度)

- ・ アンケートを配付し、その回答を確認したり、お客さんの反応を振り返ったりする時間を設定する。

(研究との関わり)

- ・ 調理するお菓子と支援・教材について、研究日で検討した。

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①適切に道具を使って調理している。	①適切な言葉で確認や報告をしている。	①お客さんに喜んでもらえる製品を作ろうとしている。
②手順表に従って調理している。	②相手に伝わる話し方を工夫している。	

6 指導と評価の計画 (118 時間)

月 (時数)	学 習 活 動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
10 (66)	○後期校内実習 <水曜日> ○調理 (チョコレートケーキ・アメリカンドッグ風たこ焼き) <木曜日> ○販売 (チョコレートケーキ・アメリカンドッグ風たこ焼き) ○刺し子 (布巾・弁当袋)	<ul style="list-style-type: none"> 作業内容の見通しがもてるように、ホワイトボードにカレンダーを掲示する。 作り方が定着するよう、調理・販売では役割を固定する。 より良い製品を作ろうという意欲を高めることができるように、アンケートを配付し、その回答を確認する時間を設ける。 	<p>【知①②】 行動の確認</p> <p>【思判表①】 行動の観察</p> <p>【知①】 行動の確認</p> <p>【思判表②】 行動の観察</p> <p>【思判表①】 行動の観察</p>
11 (16)	○作業製品販売会 ・袋詰め ・値札貼り ・販売練習 <水曜日> ○調理 (チョコレートケーキ・アメリカンドッグ風たこ焼き) <木曜日> ○販売 (チョコレートケーキ・アメリカンドッグ風たこ焼き) ○刺し子 (布巾・弁当袋)	<ul style="list-style-type: none"> 製品を丁寧に扱えるように、初めに、販売会で売る物の準備をすることを伝える。 自分の役割を理解して取り組めるよう、販売練習を行う。 自分で考えて進められるように、最小限の言葉掛けや支援をする。 	<p>【思判表②】 行動の観察</p> <p>【知②】 行動の確認</p> <p>【思判表②】 行動の観察</p> <p>【思判表①】 行動の観察</p>

<p>12 ~ 1 (22)</p>	<p>○新商品の開発</p> <p><水曜日> ○調理 (新製品)</p> <p><木曜日> ○販売 (新製品)</p> <p>○刺し子 (布巾・弁当袋)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・できるようになってほしい工程を含んだレシピを複数提示し、その中から作って販売したいものを選ぶよう促す。 ・新製品の練習中は、販売を行わず、自分たちで食べて味を確かめる。 ・自分で考えて進められるように、最小限の言葉掛けや支援をする。 ・丁寧に縫い進められるように、製品を作っているということを確認する。 	<p>【主①】行動の確認</p> <p>【思判表②】行動の観察</p> <p>【主①】行動の観察</p>
<p>2 (14)</p>	<p>○作業製品販売会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・袋詰め ・値札貼り ・販売練習 <p>○作業お疲れ様会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・製品を丁寧に扱えるように、初めに、販売会で売る物の準備をすることを伝える。 ・自分の役割を理解して取り組めるよう、販売練習を行う。 ・達成感が得られるように、売り上げ金を計算し、そのお金で食べたいものやしたいことを考える時間を設ける。 	<p>【思判表②】行動の観察</p> <p>【主①】行動の確認</p> <p>【思判表②】行動の観察</p>

7 題材に関する生徒の実態と手だて

生徒	実 態			手だて
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
A (3年)	<ul style="list-style-type: none"> ・調理に必要な道具を安全に使って調理することができる。 ・教師と一緒に、手順表の工程通りに調理することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の促しを受けて、「確認をお願いします。」と報告することができる。 ・カードに書かれた言葉を読み上げ、接客の挨拶をすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の様子を参考に、調理の準備をすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら作り進められるように、めくり式の手順表を用意する。 ・挨拶文例が分かるように、言葉を書いたカードを提示する。

8 本時の指導 (83・84/118 時間)

(1) 本時の目標

○手順表に従って調理することができる。【思考・判断・表現①】

○販売を見据え、丁寧に調理しようとしている。【主体的に学習に取り組む態度①】

(2) 各目標に対する個別の目標と手だて

生徒	本時の個別の目標		手だて
	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
A	・教師に報告後、次の工程に移り、作り進めることができる。	・教師のアドバイスを聞き入れ、丁寧に調理しようとしている。	・報告後は、基本的に見守る。 ・販売する製品を作っていることを授業の初めや、調理途中で適宜伝える。

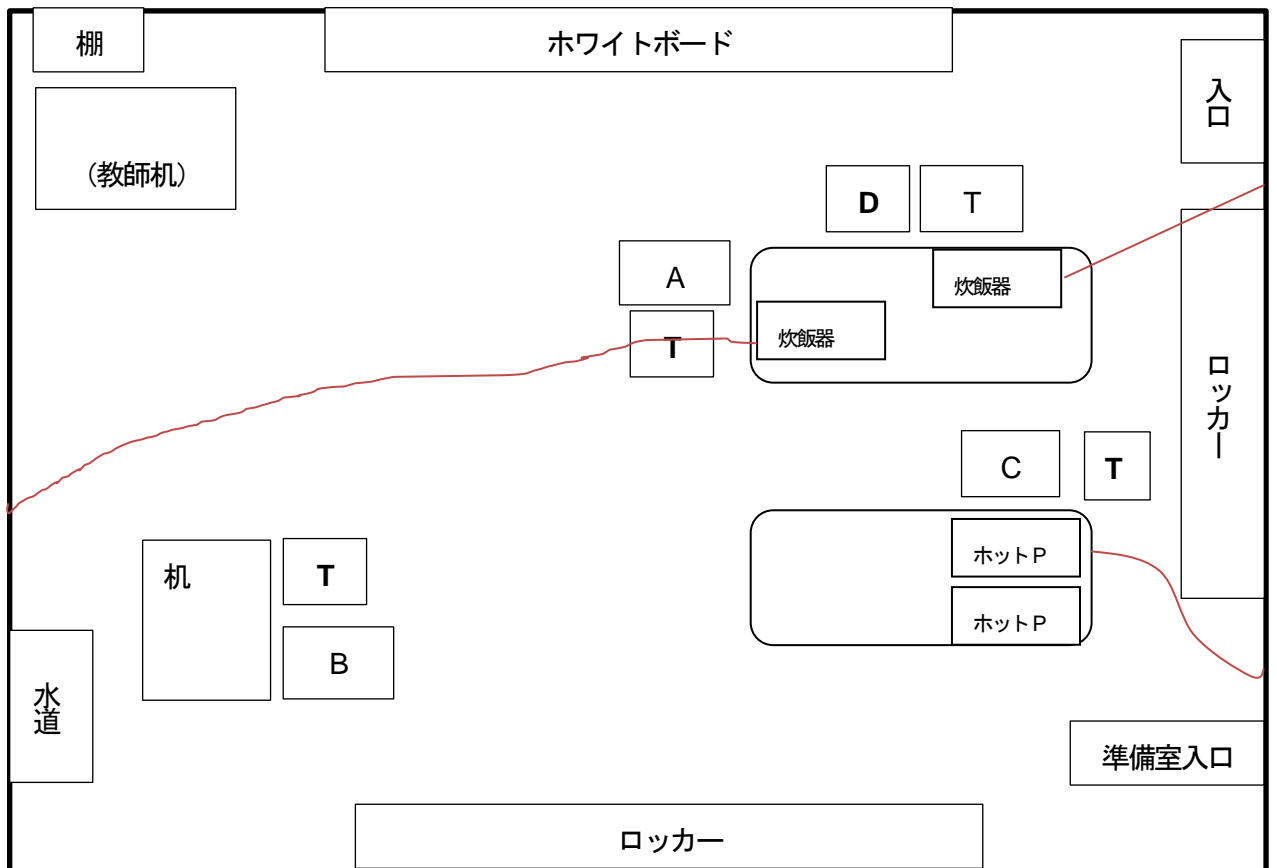
(3) 本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意点	評価
10:30	○始めのミーティング ・挨拶をする。 ・本時の担当職員を確認する。 ・作業中の約束を確認する。	・T1は全体への指示、T2以下は生徒の支援を行う。 ・見通しがもてるように、ホワイトボードに作業内容や約束等を示し、伝える。	
10:40	○身支度 ・マスク、白衣、帽子を身に着ける。 ・手洗いをする。 ・手袋を着用する。	・身支度の順番を掲示する。 ・T3はS・Rの手袋着用の補助をする。 ・全身鏡に身支度のチェック項目を示し、身支度が終わったら、全身鏡で自分の姿を見て、正しく身支度ができているか確認するよう促す。	
10:50	○材料を運ぶ (K・S、K・T) ○チョコレートケーキの調理 (S・R、K・T) ・材料の計量 ・混ぜる ・炊飯器の操作 ○アメリカンドッグ風たこ焼きの調理 (O・K) ・材料を切る	・材料を正確に選べるように、手順表を見て確認するよう促す。 ・基本的には見守り、自分でやろうとする意欲を育てる。 ・机上を整理できるように、箱ごみの置き場所を写真で示す。 ・ピザカッターでソーセージを大きく切り分けるよう促す。 ・エッグカッターを机に固定する。 ・T4が焼き加減を確認する。	【思判表①】 教師に報告後、次の工程に移り、作り進めている。行動の観察 【主①】 教師のアドバイスを聞き入れ、丁寧に調理しようとしている。行動の観察

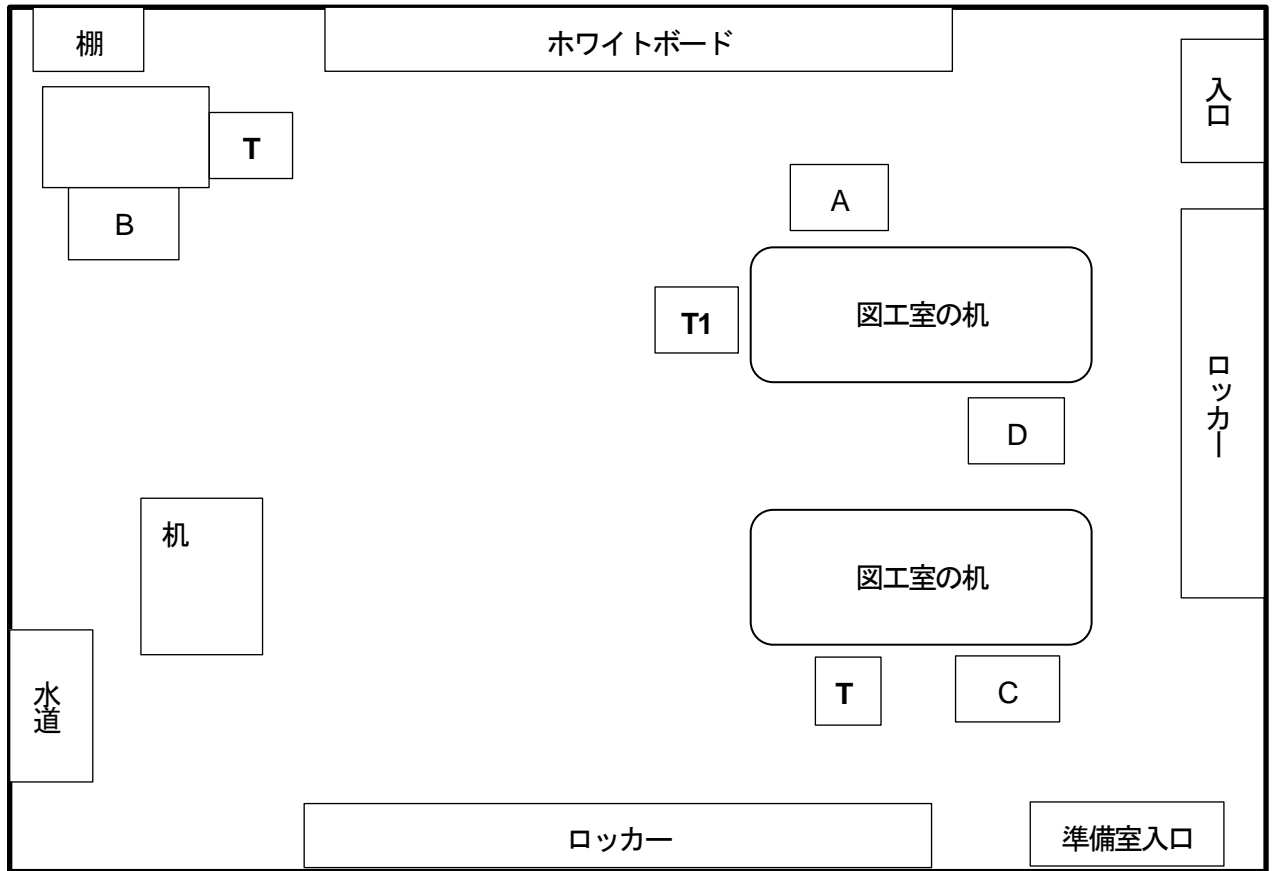
	<ul style="list-style-type: none"> ・材料をほぐす (K・S) ・材料の計量 ・混ぜる ・焼く 		
11:35	<ul style="list-style-type: none"> ○洗い物 ・調理で使用した食器や用具を洗う。 ○洗濯 ・当番が全員の白衣とエプロンを調理室の洗濯機にかける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・O・Kは刺し子を進める。11:50に日誌の記入、ごみ捨てをする。 ・洗い残し等は教師が最終確認する。 	
11:55	<ul style="list-style-type: none"> ○掃除 ○日誌の記入 ○終わりのミーティング ・本時の振り返り ・挨拶 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の成果や課題を今後に活かすよう伝える。 ・明日の予定を伝える。 	

【教室の配置図】

○調理



○刺し子



【資料】

○身だしなみチェックシート

あした さきょう ちょうり
 明日の作業は調理です。


み ととの とうこう
 身だしなみを整えて登校しましょう。

月 日 お風呂に入る

しっかりシャンプーをする

爪を短くきる

月 日 顔をあらう



イ 授業計画シート

授業計画シート						目標入力	単元目標入力
中学部	学級	第1~3学年	教科	作業学習	単元	118時間	授業案
知識及び技能		働くことに対する関心を高め、将来の生活に関わる基礎的な知識や技能を身に付ける。					
思考力、判断力、表現力等		将来の生活に必要な事柄を見出して課題を設定し、解決策を考え実践を評価・改善し、課題を解決する力を養う。					
学びに向かう力、人間性		よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し考えようとする実践的な態度を養う。					
「お菓子をを作って販売しよう」							
関連する教科	内容のまとめ			単元目標			
家庭・中	A家族1-ウ余韻(ア)			・調理に必要な材料の分量や手順などについて理解し、適切にできる。			
国語・中	A聞く話す1-エ			・相手に伝わりやすいように発音や声の大きさ、速さに気を付けて話したり、必要な話し方を工夫したりすることができる。			
職業・中	A職業生活1-ア働く(ウ)			・作業や実習等に達成感を得て、進んで取り組むことができる。			
児童生徒	好きなこと 嫌いなこと	言葉に関する こと	数に関すること	作業面に関する こと	その他(認知面など)		
1	・エレベーター、リモコン、緩衝材をつぶすこと。 ・道徳訓練、特定の友達の泣き声、×(バツ)	気持ちを表す文を書き表すことができる。	10~100までの数の大小が分かる。	・指先(特に人差し指)が不器用で、細かい作業は苦手。 ・教師の指示を聞いてから行動するのに時間を要する。周囲の生徒の様子をまねて対処することも多い。	・やる気があり、真面目に取り組む。 ・同じ作業に繰り返し取り組むことで、自信をもって一人で進めることができる。		
B							
C							
D							

教材の種類	<input type="checkbox"/> 備品 <input type="checkbox"/> 消耗品 <input type="checkbox"/> 自作教材 <input type="checkbox"/> フラント類 <input type="checkbox"/> アプリ <input checked="" type="checkbox"/> その他
使用教材	【チョコレートケーキ】 調理工程表、炊飯器、泡立て器、はかり、タイマー、お椀
使用方法・配慮事項	炊飯器のボタンを押す位置にシールを貼る。
教材について	<p>① 炊飯器の保温ボタンを押す。卵を入れて1分混ぜる。</p> <p>② チョコレートを割りながら炊飯器に入れる。</p> <p>③ チョコレートを1分混ぜて溶かす。</p> <p>④ 生クリームを入れて1分混ぜる。</p> <p>⑤ 卵を入れて1分混ぜる。</p> <p>⑥ 粉を入れて1分混ぜる。</p> <p>⑦ 炊飯スイッチを入れる。</p> <p>⑧ 片付け。</p> <p>準備する道具: お椀3個、泡立て器、はかり、タイマー、生クリーム、ホットケーキミックス</p> <p>準備する材料: チョコレート4枚、卵3個</p>
反省・改善点	

ウ 授業研究会

自信のない生徒が自分で作業を進めることのできる教材教具について

■自己確認による作業遂行を可能にするために

1教材の工夫でできること

→「何が○で何が×か」自分で視覚的に確認できる
ことが必要

①手順表の中身と使い方

- ・写真は実物と同じにする
(割るチョコの大きさ、保温ボタンなど)
- ・「OK」の状態、「NG」の状態の写真を付ける。
教師に見せて確認などの手順を省き正しい自己判断へ導く。

②時間や数値の基準の明確化

- ・アナログ式のはかりはどうか？目盛りに印をつける。
- ・軽量スプーンの活用。

2報告場面の工夫でできること

→本当に必要な確認と報告はどこなのか？

最終的には教師に確認してから作業する習慣をなくし1人で進めることに慣れていけるとよい。

- ①いくつかの工程を経てから報告するようにし、徐々に報告を必要とするまでの工程を増やす。
- ②3回「OK」をもらったら、もうその工程には教師への報告と承認を必要としなくてもよいことにする。
- ③周囲の教師の人数を減らす。
見ている人が多いと確認や承認を得たくなる。
- ④「報告」よりも「相談」できるように支援する。
必要な場面で自分から発信できるように。

■自信をもって取り組むために

1自分の今の姿の客観的な確認

→目標の明確化と評価の視覚的確認。

- ・「どこまで一人で行うか」という目標を細かく設定する。
- ・さらに視覚的に確認できるような評価をつける。

2教師の適度な支援と役割分担

→教師の過度な関わりを減らす

- ・安心感を促す声掛けや褒めることはもちろん有効だが、常時の声掛けは不必要。
- ・視覚的教材を活用して言葉での指示を最小限に。「指摘されること」を嫌う生徒であればなおのこと。
- ・生徒の実態に応じて職員数を調整。
安全の見守り、報告担当など適正に配置。
- ・友達との関わりの中で自信をつけることのできる励ましや評価も有効か。

3経験の積み重ね

→少ない工程での作業の積み重ねで「できた経験」を増やすのはどうか？

ネコ型を活用した製品について

■粉もの

①間に何かをはさむ

- ・ジャム
- ・クリーム&フルーツ
- ・マシュマロ

(ココア生地でスモア風)

②アイシングコーティング

③蒸しパン

④チーズケーキ

■冷やし固めるもの

- ・ゼリー
- ・プリン
- ・寒天

何層かに色
分けしたり

■情報共有

①シリコンのにおい除去

- ・熱湯&中性洗剤でつけおき
- ・重曹&酢を混ぜてねる

②粉ものお菓子をふんわりするには…

- ・ふんわり&しっとりには油分が必要。生地を焼く以外にも生地自体にも油を入れる。

授業全体について

よ
か
っ
た
点

■工程表の良さ

- ・残り枚数?が分かり、終わりがみえてよい。
- ・報告の時に活用できていい。
- ・調理の複雑な工程もわかりやすく落とし込んでいる
- ・端的でよい

前期よりも工程がステップアップしている。

衛生指導が行き届いている。

販売に関わる教材が分かりやすく良い。

合わせた指導としての効果

- ・数の理解
 - ・手指課題
- 成長へのつながりを感じた

課
題
点
・
改
善
点

■どこをどうのばしたいのか

- ・話し言葉は単語で?文章で?どちらを伸ばしたいのか?

■Tの役割不明瞭

- ・この場におけるT1の役割は何?
- ・4人に対して教師4人支援の手が入りすぎている。

■自分で考える場面の不足

- ・一人のできる環境づくり
- ・失敗後どう動くかを考えさせる支援の必要性

ウ 助言

- ・調理を楽しくするための工夫が必要ではないか。そのことが「誰かに食べてもらいたい」につながり、モチベーションとなる。
- ・実際に授業を参観しに行った時、チョコレートケーキの調理工程でボサボサになり、うまく混ぜ合っていない状態の物があつた。調理のセオリーとしては、溶き卵を数回に分けて、少しづつ入れることが大切。また温度管理が合っていないのではないかと感じた。炊飯器の中で分離した状態になっていた。
- ・チョコレートケーキを炊飯器で作るとするのは、簡単で安全で良いとは思いますが、出来ていく過程が見えない。仕上がりが見えないということに関しても、生徒のモチベーションにつながらないのではないか。出来上がりまでが見えるような商品があるとよいのではないか。
- ・新製品の開発について。ホットケーキミックス&オートミールや、ホットケーキミックス&コーンフレークを混ぜあわせたクッキーなどはどうか。また、ネコちゃん型を使用した新メニューについては、ホットケーキミックスにココアパウダーをいれた、黒猫ホットケーキや、チーズを混ぜ込んだ商品にしてはどうだろうか。
- ・小学部、中学部、高等部としての縦のつながりが必要。遊びー生活単元学習ー作業学習ー職業・作業への流れを大切にしてほしい。
- ・商品開発から生徒が入り、柔軟な思考からヒントを得て、商品へつながるようにしてはどうか。そのためには、どのような物が商品として売れるのか、実際に商品を買っている場所に出向き、学ぶ時間が必要。(例：峰南支援学校では、商品開発のためにグルメ祭りに行き、商品に生かせそうな物を調査したといことがあつた。)
- ・全員が調理ではなくても、調理と販売という風に分けても良いのではないか。作業活動を通して、何を目標として、何を求めるかを明確にすると、班別になつても良いのではないかと思う。また、自分の役割や向き合う姿勢を培うために、作業意欲をどう引き出すかが重要である。小学部での遊びから生活単元学習、そこから作業へつなげるような働きかけも必要だと思う。。

(5) 高等部グループ

ア 指導案

高等部第2学年生活単元学習 学習指導案

日 時 令和6年11月19日(火)

10:30~11:20

対 象 高等部2年1組 6名

場 所 高等部2年1組教室

指導者 菊地菜生(T1) 臼澤武智(T2)

近藤史隆(T3)

1 単元名

「修学旅行に行こう」

2 内容のまとめ

中学部 社会 イ公共施設と制度 2段階ア(ア)
 高等部 情報 A情報社会の問題解決1段階ア(イ)
 Bコミュニケーションと情報デザイン 1段階イ(イ)(ウ)
 高等部 特別活動 学校行事 (4)旅行・集団宿泊的行事

3 単元の目標

- (1) 公共施設や公共物の役割とその必要性を理解したり、社会生活上のルールやマナー、情報モラルを知り、必要な知識や行動の仕方を身に付けたりすることができる。
- (2) コミュニケーションの目的に合わせて、必要な情報が伝わるような情報デザインを考えたり、情報デザインの基本的な考え方や方法に基づいて、表現の仕方を工夫したりすることができる。
- (3) 日常とは異なる生活環境で見聞を広め、首都圏の文化や風土等に親しもうとしたり、集団活動をとおして、よりよい人間関係を築こうとしたりする態度を養う。

4 単元について

(1) 生徒について

本学級は、複数の学校から入学した生徒で構成されている。初めての活動や行事、字を書くことを苦手とする生徒がいるが、見通しがもてるよう学習を進めたり、活動量を調整したりすることで、取り組むことができている。昨年度は、宿泊学習に行き、県内の宿泊施設の利用方法について学んだり、仲間と協力して活動したりする経験を積んでいる。様々な活動を仲間と一緒に経験していく中で、互いの特徴や良さも徐々に分かってきており、関わりが増えた。公共施設や公共交通機関の利用経験には個人差があり、生活経験にも大きな実態差がある。

これまでの学習では、iPadを活用し、実習先や見学先についての調べ学習を行った経験がある。iPadを使った学習では、検索サイトやグーグルマップなどの覚えた機能を活用したり、使用方法を教え合ったりするなど、意欲的に学習に取り組む様子が見られる。iPadの使用に慣れてきた生徒も多いが、調べ学習以外でiPadを活用する場面は少なく、その他の活用方法について経験していない生徒が多い。

(2) 単元について

今回の3泊4日の修学旅行では、東京都、千葉県、栃木県で研修や体験活動を行う。首都圏の文化や風土に触れ、社会に対する興味・関心を広げてほしいと考える。自分から興味をもち、意欲的に学習に取り組む姿を引き出せるように、iPadを活用し、学習を進める。また、発表原稿や資料等の作成では、字を書くことを苦手とする生徒がいるため、資料作成アプリのテンプレートを活用し、文字入力で作成したいと考える。

修学旅行では、様々な公共施設や公共交通機関の利用をとおして、経験の拡大を図り、社会生活に必要なマナー等を身に付けてほしいと考える。事前に公共施設や公共交通機関の利用について学習したり、スマートフォンやiPadの使用ルールやマナー、情報モラルについて確認したりし、適切な知識や行動を身に付けられるようにしたい。

思い出に残る修学旅行にするため、全員が意欲的に取り組めるように、学習を進めていきたい。

(3) 支援について**(知識・技能)**

- ・公共施設の利用方法を調べる時間を設ける。
- ・施設の利用方法について、動画を見たり、ロールプレイングを行ったりする活動を取り入れる。
- ・インターネット上の写真やウェブサイトの使用ルールを確認する。
- ・修学旅行中のスマートフォンやiPad使用ルールを確認する。
- ・iPadでの文字入力や写真の保存等、手本を示しながら使い方を確認する。

(思考・判断・表現)

- ・見どころ紹介の作成や発表では、どのような情報が必要かを考える時間を設定する。
- ・パンフレットや雑誌などの資料を用意する。
- ・調べた内容をまとめる活動では、必要な情報が盛り込まれているかを確認する。
- ・集めた情報を見やすくまとめられるように、pages等の機能を活用する。

(主体的に学習に取り組む態度)

- ・活動に見通しをもって取り組むことができるように、学習計画表を提示する。
- ・旅行先の都道府県の文化や風土等について、調べたり、学習したりする時間を設定する。
- ・行程表や見どころ紹介の作成、調べ学習では、分担したり、ペアやグループで取り組んだりなど協力して活動する場面を設定する。
- ・意欲的に取り組めるように、自分で選んだり、決めたりする場面を取り入れる。

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①公共施設や公共交通機関の役割や必要性を理解している。 ②ルールやマナー、情報モラル等が分かり、適切な行動を身に付けている。	①目的に合わせて、必要な情報が伝わるように、内容や情報デザインを考えている。 ②情報デザインの基本的な考え方や方法に基づいて、表現の仕方を工夫している。	①学習活動や体験活動をとおして、首都圏の文化や風土等について知ろうとしたり、親しもうとしたりしている。 ②仲間と協力して学習を進めたり、仲間と一緒に楽しく活動しようとしている。

6 指導と評価の計画（25時間）

時	学 習 活 動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
1	○修学旅行の目的や行き先について知る。 ○当日までの学習計画を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> 目的は、要点を絞ったり、具体例を挙げたりして説明する。 行き先をイメージしやすいように、写真やイラストを用意する。 見通しをもちやすいように、計画表を提示する。 	【主①②】 行動の観察
2 ・ 3	○自主研修の行き先を決める。	<ul style="list-style-type: none"> 行き先の候補地の例や見学時間の目安を示す。 iPad や資料等を使い、ペアやグループで行き先を調べる学習を取り入れる。 話し合いの進め方を確認する。 見学時間や活動量等を加味して行き先を決められるよう、必要に応じて一緒に考える。 	【思判表①】 行動の観察 【主②】 行動の観察
4 ～ 6	○修学旅行の行程を知り、まとめる。 ○修学旅行のしおりを製本する。	<ul style="list-style-type: none"> 字を書く、iPad で写真を用意する、イラストを描くなど、複数の役割を用意する。 しおりは、振り仮名を振ったり、イラストを取り入れたりし、分かりやすい内容にする。 	【思判表①】 行動の観察 記述の点検、確認 【主②】 行動の観察
7 ・ 8 本 時 ・ 9	○作成する見どころ紹介の場所を決める。 ○使用するウェブサイトを決め、見学先を調べる。 ○見どころ紹介を作る。	<ul style="list-style-type: none"> 実態に応じて調べる見学先を決めたり、選択肢を設けたりする。 使用できるウェブサイトや写真等を確認する。 見どころ紹介の作成にどのような情報が必要か考える時間を設ける。 手本を示し、iPad で見どころ紹介を作成する手順を確認する。 必要な情報が盛り込まれているか確認する。 	【思判表①②】 記述の点検 【主①②】 行動の観察
10 ・ 11	○マナーやきまりについて知る。	<ul style="list-style-type: none"> 行き先の公共施設の利用方法を調べる時間を設ける。 公共施設や公共交通機関での基本的なルールやマナーについてクイズ形式で確認を行う。 施設の利用方法について、動画を見たり、ロールプレイングを行ったりする活動を取り入れる。 旅行中のスマートフォンやiPad の使用について、ルールを確認する。 	【知技①②】 行動の観察

12 ・ 13	<p>○お小遣いの金額や使い方について確認する。</p> <p>○買い物リストやお土産リストを作成する。</p> <p>○お小遣い帳の書き方を確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ミールクーポン等の使い方を確認する。 ・お土産を買うことができる場所とおよその価格を確認する。 ・イメージしやすいように、お土産の写真を用意する。 ・お小遣い帳の記入方法について、手本を示しながら確認する。 	<p>【知技②】 行動の観察 記述の点検</p> <p>【思判表②】 行動の観察</p>
14	<p>○全体目標を決める。</p> <p>○個人目標を決める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習全体を目標にできそうな内容を振り返りながら確認する。 ・修学旅行の目的や基本的なルールについて再度確認する。 	<p>【主②】 行動の観察</p>
15	<p>○荷物の確認をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・チェックリストを用意する。 ・記名等あるか確認する。 	
16 ・ 17	<p>○座席や部屋割りを確認する。</p> <p>○結団式、出発式、解散式の役割を決める。</p> <p>○発表原稿を作成する。</p> <p>○発表練習をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・座席は図やイラストを活用し、分かりやすく示す。 ・役割を決めやすいように、仕事内容を説明する。 ・本番を想定して、練習する時間を設ける。 	<p>【思判表①】 行動の観察</p> <p>【主②】 行動の観察</p>
18	<p>○結団式を行い、行き先や目標を発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・発表の際は、実態に応じて支援具を用いる。 	<p>【主②】 行動の観察</p>
19	<p>○荷物の確認をする。</p> <p>○行程を確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・チェックリストを用意する。 ・しおりで行程を詳しく確認する。 	
修学旅行【12/3(火)～12/6(金)】			
20 ～ 25	<p>○修学旅行の振り返りをする。</p> <p>○お礼状を作成する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・旅行中に撮影した写真を整理したり、自分でベストショットを選んだりする時間を設ける。 ・目標に対して、どのように取り組んだかを確認する。 ・お礼状の手本を用意する。 ・実態に応じて、視写できるようにする。 	<p>【思判表①】 行動の観察 記述の点検、確認</p>

7 単元に関する生徒の実態と手だて

生徒	実態			手だて
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
A (2年)	<ul style="list-style-type: none"> 身近な公共施設では、利用方法をそのつど確認することで正しく利用することができる。 ルールやマナー等を事前に確認すると、おおむね正しく行動しようとする事ができる。 iPad を使って検索することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 発表内容等をまとめる活動では、記入する内容を教師が明確に指示することで、適切な内容を考えて書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 初めて行く場所に興味をもち、学習に取り組む様子が見られる。 ペアやグループでの活動では、仲間と協力し取り組もうとする。 学習の見通しを示したり、役割を複数用意したりすると、意欲的に取り組む様子が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 公共施設や公共交通機関の利用方法をイメージできるように、動画を見たり、ロールプレイングを取り入れたりする。 発表等の内容を考える時間を設け、決めた項目を意識して作成できるようにする。 調べ学習では、調べる内容を選択できるようにする。 ペアやグループで協力して取り組む活動を多く取り入れる。

8 本時の指導（8／25時間）

(1) 本時の目標

○必要な情報が伝わるように、見どころ紹介の内容を考えることができる。

【思考・判断・表現①】

○仲間と分担・協力して、見どころ紹介の作成を進めることができる。

【主体的に学習に取り組む態度②】

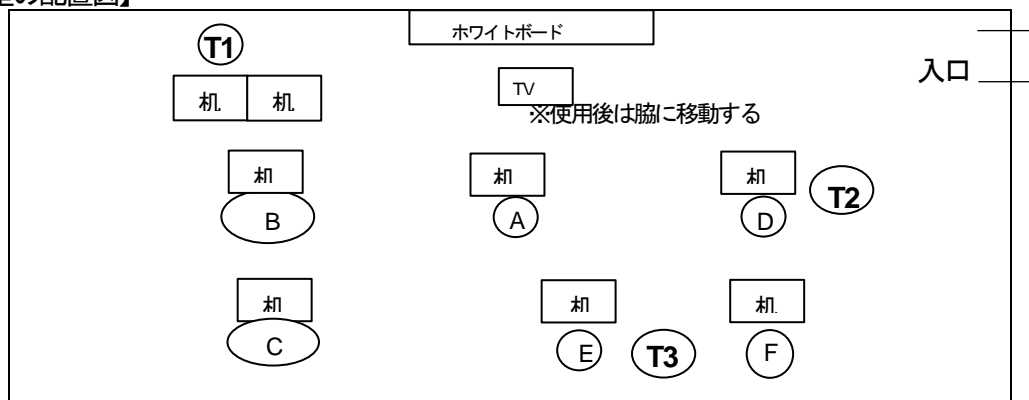
(2) 各目標に対する個別の目標と手だて

生徒	本時の個別の目標		手だて
	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
A (2年)	<ul style="list-style-type: none"> 見どころ紹介で伝えたいことを意識し、適切な文章の内容を考えたり、選んだりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> iPad を使用し、自分が担当する見どころ紹介の作成に意欲的に取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 見どころ紹介に必要な内容を意識して作成できるよう、項目をホワイトボードに示す。 必要な情報が含まれているかを確認する時間を設ける。 必要に応じて、集めた情報の中から適切な内容を選べるように、選択肢を提示する。 集めた情報を見やすくまとめられるように、iPad の pages の機能を活用する。 iPad の pages での作成方法の手本を示す。

(3) 本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意点	評価
	1. 本時の活動内容の確認 ○あいさつをする。 ○前時と本時の活動内容を確認する。 ○見どころ紹介に必要な項目を確認する。 ○iPadのpagesの使い方を知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・学習計画表を使い、前時と本時の活動内容を確認する。 ・どんな項目が必要かを考えたり、選択したりできるようにする。 ・決まった項目は、ホワイトボードに示す。 ・テレビに映し、手本を示しながら、見どころ紹介の作成方法を確認する。 	
	2. 見どころ紹介の作成 ○必要な情報を集める。 ○iPadで見どころ紹介を作成する。 <ul style="list-style-type: none"> ・文章の作成 ・写真の選択 	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて、iPadの使い方を説明する。 ・必要な項目が含まれているかを確認する時間を設ける。 ・必要に応じて、集めた情報の中から適切な内容を選べるように、選択肢を提示する。 ・時間いっぱい意欲的に活動に取り組めるように、実態に応じて作成する見どころ紹介を二か所とする。 	<p>【思判表①】</p> <p>必要に応じてホワイトボード等で項目を確認し、適切な内容を記入している。</p> <p>行動の観察、記述の点検</p> <p>【主②】</p> <p>見どころ紹介の作成に進んで取り組んでいる。</p> <p>行動の観察</p>
	3. 振り返り ○本時の活動を振り返る。 ○次の活動について確認する。 ○あいさつをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・進捗状況を確認する。 ・内容を意識して作成できたか確認する。 ・学習計画表を使い、確認する。 	

【教室の配置図】



イ 授業計画シート

授業計画シート														
学部	高等部	学級	2年1組	段階	主に	生活	2・3	段階	授業	25	時間	授業者	菊地 葉生	
目標	知識及び技能		公共施設や公共物の役割とその必要性を理解したり、社会生活上のルールやマナー、情報モラルを知り、必要な知識や行動の仕方を身に付けたりすることができる。											
	思考力、判断力、表現力等		コミュニケーションの目的に合わせて、必要な情報が伝わるような情報デザインを考えたり、情報デザインの基本的な考え方や方法に基づいて、表現の仕方を工夫したりすることができる。											
	学びに向かう力、人間性		日常とは異なる生活環境で見聞を広め、首都圏の文化や風土等に親しもうとしたり、集団活動をおとして、よりよい人間関係を築こうとしたりする態度を養う。											
単元名	修学旅行に行こう													
単元目標	関連する教科		内容のまとめ				単元目標							
	社会・中		イ 公共施設と制度 2段階ア(ア)				・自分の生活の中での公共施設や公共物の役割とその必要性を理解すること。 ・公共施設や公共物の役割について調べ、生活の中での利用を考え表現すること。							
	情報・高		A 情報社会の問題解決 1段階イ(イ) B コミュニケーションと情報デザイン 1段階イ(イ)(ウ)				・情報に関する身近で基本的な放棄や制度、情報セキュリティの重要性、情報社会における個人の責任及び情報モラルについて知ること。 ・コミュニケーションの目的に合わせて、必要な情報が伝わるような情報デザインを考えること。 ・効果的なコミュニケーションを行うための情報デザインの基本的な考え方や方法に基づいて、表現の仕方を工夫すること。							
	特別活動・高		(4) 旅行・集団宿泊的行事				・平素と異なる生活環境にあって、見聞を広め、自然や文化などに親しむとともに、よりよい人間関係を築くなどの集団生活の在り方や公衆道徳などについての体験を積むことができるようにすること。							
対象児童生徒の実態	児童生徒番号	好きなこと 嫌いなこと	言葉に関すること	数に関すること	作業面に関すること	その他(認知面など)								
	1	・経験の少ないことに取り組むのが苦手である。 ・本人の中に決まったこだわりがあり、変更されるのが苦手である。 ・ゲームをしたり、ゲームの話をしたりするのが好きである。 ・iPadを使う活動、学級みんなで取り組む活動が好きである。	・言葉でのやり取りができる。 ・文章を書くのはどちらかというと好きではない。 ・小学4年生程度の漢字の読み書きができるが、漢字は苦手である。 ・iPadで文字入力ができる。 ・項目が決まっていると即した内容を考えたり、書いたりできる。	・整数の四則計算を正確に処理することができる。 ・時刻や時間、お金に関することは自分の経験から独自の考え方をすることが、正確に答えることができる。 ・図形やグラフなど学習経験や自信のない内容に抵抗があり、素直に取り組めないが、徐々に自分なりに理解し、習得しようとする。	・巧緻性を伴う活動は苦手だが、時間をかけると取り組むことができる。 ・手順に沿って作業することができる。 ・活動内容が分かると積極的に取り組むことができる。 ・役割を多く担当すると意欲的に取り組む。	・公共施設の利用、旅行、買い物、外食など経験が少なく、分らないことが多い。 ・偏食で食べたことがなくて食べられないものが多い。 ・授業で行った内容や指示した内容などを覚えることが得意である。								
特記事項														

教材の種類	<input type="checkbox"/> 備品	<input type="checkbox"/> 消耗品	<input type="checkbox"/> 自作教材	<input type="checkbox"/> プリント類	<input checked="" type="checkbox"/> アプリ	<input type="checkbox"/> その他
使用教材	iPad (pages、検索、ウェブサイト)					
使用方法・配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェブサイトで見どころ紹介の紹介先を調べ、必要な情報をPagesに転記する。 ・pagesのテンプレートを適用し、見どころ紹介を作成する。 ・検索サイトで紹介先の写真を探す。 ・文書を作成する際のフォントを指定する。 					
教材について	<p>pages (ページ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テンプレートから文書作成できるアプリ。 ・テンプレートのレイアウトは変更可能。(例: 縦→横) 					
	<p>使い方</p> <p>①項目ごとに文字入力する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ウェブから必要な情報を転記する ・項目は生徒が決め、全員同じとする ・フォントは統一する <p>②写真を挿入する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ウェブサイトから、画像を探し、使用していい写真かを確認して保存する ・「+」→「写真またはビデオ」から画像を選択し、挿入する 					
反省・改善点						

ウ 授業研究会

【授業者から】

○ 「Pages」について

iPadに最初から入っている文書作成アプリ。いろいろなテンプレートが用意されている。今回は「セールちらし」を使用。テンプレートの項目を並び替え、しおりや結団式でスクリーンに映し出すときにも便利のように縦型を横型にフォーマットを作り直した。Pad一台分を作り、エアドロップで生徒全員へ。

生徒たちにフォーマットを提示。見どころ紹介を作成のためどのような項目が必要か生徒に考えてもらった。「場所」「住所」「どんなところか」「おすすめポイント」が出されたので、そのままの項目で作成。項目に番号を付け、色分けをすることで、どこまで書けばよいか分かりやすくした。

「Pages」を使用して良かった点は以下のとおり。

- ・気軽に手軽に文書を作成できる。iPadで調べたことを直ぐに引用しやすい。
- ・平仮名が分かれば入力ができ、間違えたときに直ぐ戻して消すことができるため、文字や文章を書くことが苦手、きれいに作成することが苦手な生徒も、きれいにまとめて作成することができる。
- ・写真だけでなく、手描きのイラストも挿入でき、読み仮名を振ることもできる。

- ・辞書機能を使い、意味を調べることができる。
- ・データを使い、しおりの印刷だけでなく、結団式でも使用することができた。

「Pages」を使用して悪かった点は以下のとおり。

- ・コピーした際に設定した書式と変わることがあり、修正する必要がある。
→自分で考えた文章を入力することに向いている。
- ・文章量の調節が必要である。コピーすると枠からはみ出すことがあり、生徒にとっては目安が分かりにくい。
- ・コピーした文章にリンクが埋め込まれていることで段落が変わることがあり、修正に支援が必要になる
- ・読み仮名が正しく表記されないことがあり、正しい読み方が分からない生徒には見分けが難しい。
- ・文字入力をする際にタッチするところがずれると、作成したフォーマットがずれることがあり注意が必要である。

○授業について

iPadでの文書作成の経験がないことから、生徒にiPadを配り自分の手元で確認しながら、テレビにも映しながら、iPadの基本操作について確認した。具体的には、入力する際は、入力したい箇所を2～3回タップする、safariを使用したり、ネット検索をしたりものをコピーした際にホームボタンを2度押すと別のページに戻れる、コピーしたいときには長押しすると選択、貼付が出でくることなど、分かっている生徒もいるが全体で確認した。

対象生徒は、iPad、Pagesの使い方が分からないときに、教師に確認しながら見どころ紹介を作成した。1枚作成すると使い方を覚え、2枚目はスムーズに取り組んだ。調べたことをコピーするだけでなく、入れたい文章にこだわりをもち、この文章を入れたいと積極的に取り組んだ。「伝えたいことを意識し、適切な文章の内容を考えたり、選んだりすることができる」という目標も達成することができた。

【グループ協議】

教材の活用と改善について	
よ か つ た 点	<p>■アプリの選択</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象生徒の得意・不得意を把握したうえでの取り入れ方が有効的。 ・実態差があっても扱いやすい。 ・応用が効くものになっていた。 ・教材について文字を書くことが難しい生徒に適している教材だと思った。キーボードでの打ち込む方法を理解している、操作ができるが前提なのだと思った。 <p>■アプリについて</p> <p>○テンプレートの書式</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自由に改編して活用できていた。 ・表現したいことを絞ることができる。 ・個性はでないが、今回は見どころをまとめるのが目的だとすれば分かりやすくして良いかなと思った。

	<p>○フォーマットが分かりやすい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どこに、何を入れるか分かりやすい。迷わずに取り組むことができる。 ・何をどのくらい書けばいいか視覚的に分かりやすい。 ・構成に苦手さのある生徒には取り掛かりやすい。 <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文字を書くことが苦手な生徒には◎入力で使用しやすく、やり直しができてよい。自分の思いや考えを言葉にしやすくてよい。 ・「戻して消せる」機能は、アプリを使うときのハードルを低くさせ、文字を書くときよりも使いやすいと思った。 ・誰が作っても同じようにまとめられることで、結団式で見る生徒側にも優しかった。 ・自分が調べたことをクラスみんなで共有できたことがよい。 ・きれいに見やすく見どころを作成できるのは、修学旅行に活かしてよい。分かりやすい。 ・初めて使用した Pages なのに生徒の入り込み、集中力がすごいと思った。⇒意欲
<p>課題点 ・改善点</p>	<p>■書式について</p> <p>手間がかかるかもしれないが、統一した書式の Word を用意し、Word に貼り付けてからアプリに貼り付けると書式を修正する時間を短縮できるのではないかな。</p> <p>■しおりについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・項目 1 と 2 で内容をもう少し区別してもよいかも。 ・項目 2 に自分の気持ちやおすすめランキングを入れてもよいかも ⇒選択できるようにすることで、より主体的に取り組めるのではないかな。 <p>■その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒同士で教え合う状況があってもよいかも。 ・生徒の実態を知らないの…。初めて iPad の文字入力をするということで、教師の話聞くだけで理解できるかなあと思った。手順など手元にあると安心かなと思った。 ・タブレット使用の個人差は支援でカバーできると思うが、理解力的にはどうなのか。文章の理解力によっては難しさもある。(調べ学習)
<p>その他・授業全体について</p>	
<p>よかった点</p>	<p>■支援について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・説明が分かりやすい。 ・色や形を説明し、指示が明確。 ・実際に操作しながら ・実態に応じて本も活用していた。 <p>■その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・検索したものをどう利用するか、いつも難しいと感じる。これからの授業でも同じような調べ学習をしようと思った。これからは楽しみですね。 ・情報活用能力を身に付けるための授業だったんだなと感じた。 ・高2のみなさんの理解力の高さに驚いた。これからはたくさんタブレットを活用して自分の考えや調べたことをまとめる学習をしていったら楽しいだろうなと思った。

課題点 改善点	<ul style="list-style-type: none"> ・アプリの練習はもっと時間をとってもいいかも。 ⇒ 実態差がある。使い慣れておくと、主体的に活動できるのではないかと。 ・文字数について 文字数=見えやすさ、見えにくさで指導 ・iPadは普段どれくらい使えるのかな?と思った。 ・タブレットを活用している中で雑誌を活用しているT3がいてちょっぴり安心しました。 ・小・中で「釜石を知る」単元を試してみるのもいいですね。
------------	--

○助言

単元のまとまりに「情報」が入っている。生活単元学習「修学旅行に行こう」であれば、国語や自立活動が入る中で、情報活用の部分を取り入れた授業提案してもらいたい。

「Pages」は、幅広く児童生徒の実態に合わせた使い方ができる。文字が書けない、上手く構成できない子にとっても使える。今後取り入れたい。指導の中で、「自分の考えも一緒に書いてね」「お勧めのところを入れて」といったことが、実態に応じて、さらにふくらませていける。ICTの活用はあくまでも手段であって、見学先を調べる手段でしかない。最終目的が、「調べて分かる」「みんなにも伝えられる」「発表する」ところにつなげていくために有効なアプリ。調べたことが体験になると嬉しい。指導の中で「カチカチ」とさりげなく話していたが、イメージしやすく、分かりやすい。さりげない表現で子どもにも入りやすく、覚えていく。構えずに「ホームボタンを押すんだよ」ではなく、「カチカチ」と表現する指導の仕方がよい。「ICT活用の学び」、「どんどん活用していきましょう」と言われるが、どう活用するかが悩みどころ、先生の一人一人が悩んでいるところ。隣の県の小学校の朝の会では、クロームブックを立ち上げましょう、健康観察を入力している。いろいろな活用方法があるが、「一人一台、一端末」として扱う。「端末を文房具として扱う」がこれからのねらい。教師がどのように落とし込んでいくか考える機会となった。

(6)まとめ

2年間で4グループの授業研究会を行った。令和5年度、6年度とも、一つはiPadを活用した授業、一つは授業者が創意工夫をした教材を活用しての授業であり、参観者も自分の関心の高い分科会を選択する形で参加し、全校研究会を行った。

研究会の形式はグループワークで行ったが、単に意見や感想を出し合うだけでなく、実際にiPadをグループに配布し、実際のアプリを操作してみながら検討を行ったり、生徒の課題から目標を設定する演習をしながら討議を深めたり、グループワークの参加者も学びを深められるような方法で行った。

授業研究会は授業者に準備など負担をかけてしまったが、全校で一つの授業について話し合うことで、授業者も参加者も新たな視点や考えに触れることができる貴重な機会にすることができた。

VIII 研究のまとめ

1 研究をふりかえって

現行の学習指導要領が施行されてから、本校においても「主体的・対話的で深い学び」ということをキーワードに、様々な側面から研究に取り組んできた。

児童生徒のそのような学びの姿とは、具体的にどのような姿なのか。研究テーマとして取り上げ、話し合いをする中で、全校で具体的なイメージを共有することができ、授業改善への取り組みを進めることができた。

また、研究を推進する中で、指導案の様式の改訂や年間指導計画の様式の改訂、様々なチェックシートも作成した。校舎移転に伴い、教材を整理し、教材データベースも整えた。

全国的に教員の働き方改革が叫ばれているが、大切にしていかななくてはならないのは児童生徒の授業である。その授業の質を下げずに効率的、効果的に進めていくためにも、情報を収集し、教材を活用して、よりよい授業づくりに励みたい。

そして、グループ研究を進める中で、児童生徒について考えながら、授業を参観し合ったり、指導案検討を行ったり、教材の改善について話し合いができた。児童生徒の学びだけでなく、私たちが共に学び合うことができたことで、とても意義のある研究となったのではないかと考える。

2 研究の成果と課題

- ・ 授業づくりについて全校で取り組み、よりよい授業づくりができた。
- ・ 学習指導要領の内容や3観点での評価、カリキュラム・マネジメントについて学びを深めることができた。
- ・ 教材データベースは一応の完成となったが、より活用しやすくする必要がある。
- ・ 授業の観点を示すためのチェックシートを作成したが、活用が不十分であった。定期的に自己の授業についてチェックする機会を設けるなどして、授業づくりの観点を意識できるようにすれば良かった。

3 おわりに

現行の学習指導要領が施行されてから、「主体的・対話的で深い学び」を大切に児童生徒の学びを考えてきた。本校児童生徒にとっての「主体的・対話的で深い学び」とは…をテーマに研究を続けてきたが、目の前の課題に独り言を呟きながらも真剣に課題解決に取り組む姿、時に涙を流しながらも諦めずに課題に向き合う姿、これまで失敗ばかりだったことに初めて成功したことに喜び、小さい声ながらも「いえ〜い！」とあふれ出る喜びを表現する姿、iPadを使って編集作業に集中し、試行錯誤を繰り返しながら作り上げていく時の精悍な表情、そして完成した時の晴れやかな顔…、たくさんの素敵な児童生徒の姿に出会うことができた。そして、そこにいたるには、かかわる教員たちの授業の準備、教材や指導の工夫、児童生徒とのかかわりを大切にしたことなど、表に出てこないたくさんの努力がある。そのような、日々の積み重ねが、児童生徒の「主体的・対話的で深い学び」の姿を引き出すことができたのだと思われる。

「主体的・対話的で深い学び」を実現するためのカリキュラム・マネジメントや個別の指導計画など、やや課題は残されているが、児童生徒の学びが少しずつ変わり、教員の授業への取り組む意識も変わり、一定の結果を残すことができたのではないかと考える。

「主体的・対話的で深い学び」をキーワードにした研究は、今年度の研究をもって一区切りとし、次年度からは新たな課題を解決する研究に取り組みたいと思う。

しかし、「主体的・対話的で深い学び」を実現するための授業づくりについては、今後も日々の実践の中で意識していくことで、様々な授業が展開され、児童生徒が本校を巣立った後にもその学びが生き続いていくのではないかと考える。また、教員一人一人も「主体的・対話的で深い学び」を実践しつづけることで、釜石祥雲支援学校がよりよい学校になっていくのだと思う。

参考資料・書籍

- ・文部科学省／特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚部・小学部・中学部）／平成30年3月
- ・鳥取県教育委員会／園・学校づくりのポイント集Ⅱ／平成31年3月
- ・文部科学省／特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）／平成30年3月
- ・井上豊／教師のためのEXCEL VBA活用法／2016年
- ・水口俊／障害児教育の基礎
- ・筑波大学特別支援教育連携推進グループ／授業を豊かにする筑波大付属特別支援学校の知恵袋 教科編／2020年
- ・筑波大学特別支援教育連携推進グループ／授業を豊かにする筑波大付属特別支援学校の知恵袋 自立活動編／2020年
- ・岩手大学教育学部プロジェクト推進事業教育実践論文集 2021